地域文化専攻　思想文化論

開設科目	西洋哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木下　昌巳				

●授業の概要 この授業では、古代ギリシアにおける哲学とレトリック（弁論術）の抗争をテーマとして、哲学の意義とその果たすべき役割について講義する。

●授業の一般目標 1，民主制におけるレトリックの役割を理解する。 2，レトリックの実例に触れる。 3，プラトンのレトリック批判の意味を理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1，民主制国家においてレトリックがどのような役割を果たしているかを理解する。 2，プラトンのレトリック批判の意図を理解する。 **思考・判断の観点：** 1，レトリックの実例に触れ、その問題点を読み取る。 2，論理と言語との関係に関する理解を深める。

●授業の計画（全体） 1，民主制国家とレトリック 2，レトリックとソフィスト 3，ソクラテス裁判 4，プラトンのレトリック批判

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 古代アテナイの民主制
第 2 回　**項目** 民主制におけるレトリックの役割
第 3 回　**項目** ソフィストと呼ばれる人々
第 4 回　**項目** ソフィストとレトリック
第 5 回　**項目** レトリックの実例 (1)
第 6 回　**項目** レトリックの実例 (2)
第 7 回　**項目** レトリックの実例 (3)
第 8 回　**項目** ソクラテス裁判 (1)
第 9 回　**項目** ソクラテス裁判 (2)
第 10 回　**項目** ソクラテスとプラトン
第 11 回　**項目** プラトンのレトリック批判 (1)
第 12 回　**項目** プラトンのレトリック批判 (2)
第 13 回　**項目** プラトンのレトリック批判 (3)
第 14 回　**項目** プラトンのレトリック批判 (4)
第 15 回　**項目** まとめ

●成績評価方法 (総合) 授業終了後のレポートによる。

●教科書・参考書 教科書： 授業に必要な資料は、授業時にプリントで配布する。／ 参考書： 世界の名著 6プラトン　I, 田中美知太郎編, 中央公論新社, 1978 年； 世界の名著 7プラトン　II, 田中美知太郎編, 中央公論新社, 1978 年； ソクラテス以前哲学者断片集　第 III 分冊, 内山勝利編, 岩波書店, 1997 年

●メッセージ 哲学、弁論術、レトリック、プラトン、ソフィスト、民主主義

●備考 集中授業

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

●**授業の概要** 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を 探究する。／ **検索キーワード** 哲学

●**授業の一般目標** 一つの哲学的問題について深く探究する

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 **思考・判断の観点：** その問題について哲学的考察を加える。

●**授業の計画（全体）** 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。

●**成績評価方法 (総合)** レポートによる。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

●**授業の概要** 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。／**検索キーワード** 古代ギリシア哲学

●**授業の一般目標** 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 文献を正確に読む。 **思考・判断の観点：** 文献の議論を哲学的に考察する。

●**授業の計画（全体）** 取り上げる文献は未定。

●**成績評価方法 (総合)** レポートによる。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

●**授業の概要** 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。／**検索キーワード** 古代ギリシア哲学

●**授業の一般目標** 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 文献を正確に読む。 **思考・判断の観点：** 文献の議論を哲学的に考察する。

●**授業の計画（全体）** 取り上げる文献は未定。

●**成績評価方法 (総合)** レポートによる。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

●**授業の概要** 人間として生まれ、生き、死に逝く … とは、いったいどういうことなのだろうか。この単純な問いに応答するための手がかりを、西洋倫理学史上の諸学説のうちに探り、また、我々独自の視点から、それらの諸学説の批判的な解釈を試みる。

●**授業の一般目標** 人間が「生きてある現実」をめぐって西洋倫理学史上で展開された問いの数々を吟味する。

●**授業の計画（全体）** 「行為」「存在」「原因／理由」「自己と他者」「自由」「生と死」等々の基本的諸概念をめぐる西洋哲学・倫理思想史上の考察を、体系的に整理しつつ紹介しながら、人間が「生きてある現実」をめぐる我々自身の考察を練り上げる。

●**成績評価方法 (総合)** 期末レポートで評価する。

●**メッセージ** 教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

●授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く … とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生/死」と「行為」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。

●授業の一般目標 「行為」という概念と「生/死」という観念のうちに映る、私たちが「生きてあること」の現実を、哲学的に掘り下げる。

●授業の計画（全体） 「行為」という概念と「生/死」の観念をめぐって展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。

●成績評価方法 (総合) 期末レポートで評価する。

●教科書・参考書 教科書： 教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。／ 参考書：『無為の共同体』, J.-L. ナンシー, 以文社, 2001 年；『ホモ・サケル』, G. アガンベン, 以文社, 2003 年； ニコマコス倫理学（上）, アリストテレス, 岩波文庫, 1971 年； ニコマコス倫理学（下）, アリストテレス, 岩波文庫, 1973 年； インテンション, G.E.M. アンスコム, 産業図書, 1984 年； 行為と出来事, デイヴィドソン, 勁草書房, 1990 年； 開かれ, アガンベン, 平凡社, 2004 年； その他、適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古荘真敬				

●**授業の概要** 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。

●**授業の一般目標** 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。

●**授業の計画（全体）** 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。

●**成績評価方法 (総合)** 授業内における発表報告により評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 未定。受講者の課題にふさわしいものを適宜選択していく。／ 参考書： 適宜指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	西洋倫理思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古荘真敬				

●**授業の概要** 西洋の哲学・倫理思想に関する研究発表（または文献報告）と討議を行う。

●**授業の一般目標** 哲学・倫理学の諸問題に関して、各自の問いの水準を深化し、専門的な知見にもとづく議論を構成すること。

●**授業の計画（全体）** 毎回、担当者による発表と、受講者全員による討議を行う。

●**成績評価方法 (総合)** 授業内における発表報告により評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 未定。受講者の課題にふさわしいものを適宜選択していく。／ 参考書： 適宜指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** furusho@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 12:50 から 14:20

開設科目	中国哲学思想論Ｉ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

●**授業の概要** 時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する先秦時代を共感的追体験的に に理解する。そのために、当時の儀礼や習俗を復元し、それらを支えていた観念を明ら かにする。史料の面で言えば、伝来文献と出土資料を有機的に関連させて分析を進め る。今年度は、国君の機能を分析して、中国における国家共同体の原像をさぐ る。／**検索キーワード** 古代中国　国家共同体　金文

●**授業の一般目標** 講義を通じて、つまり史料の解読を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった 実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された 時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできな い、というのが私の考えである。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むこ とによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する　**思考・判断の観点：** 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必 要な一連の事柄を理解する　**関心・意欲の観点：** 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようにする。

●**授業の計画（全体）** 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆と の関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考え る。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全 く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林氏の研究を意識して授業を進める。

●**成績評価方法 (総合)** レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する

●**教科書・参考書** 教科書： なし。 プリント配布／ 参考書： 講義の中で指示

●**メッセージ** 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろう としているのか、その過程を見ていただきたい。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文５階　火曜日１５時から１６時

開設科目	中国哲学思想論Ｉ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

●**授業の概要** 前期に同じ／**検索キーワード** 前期に同じ

●**授業の一般目標** 前期に同じ

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 前期に同じ **思考・判断の観点：** 前期に同じ **関心・意欲の観点：** 前期に同じ

●**授業の計画（全体）** 前期に同じ

●**成績評価方法 (総合)** 前期に同じ

●**教科書・参考書** 教科書： なし プリント配布／ 参考書： 講義の中で指示

●**メッセージ** 前期に同じ

●**連絡先・オフィスアワー** 人文棟５階　火曜１５時から１６時

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齋木　哲郎				

●**授業の概要** 先秦から漢代にかけての思想の展開を儒家・道家・歴史意識の分野で講ずる一般的領域と、唐・宋新春秋学の展開を講ずる特殊領域からなる。一般領域では孔子・孟子・荀子の儒家思想、老子・荘子の道家思想、司馬遷と司馬遷以前の歴史意識について扱い、特殊領域ではタン助・趙匡・陸淳等の新春秋学の展開とその影響について講ずる。

●**授業の一般目標** 中国思想史の基本的事項に関わる知識の点検とその拡充、及び唐代の新春秋学の実情とそれらがその後の社会にもたらしている影響の確認と、それらに関する新知見の獲得をめざす。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中国思想史の上で生起した様々な思想概念がいかに現実と相即した概念であったか、またそれらがどのように中国人のエートスの形成に関わったかを確認できる。 **思考・判断の観点：** 中国人にとっていかに切実な概念であっても、それが漢字に置き換えられるとそれらが無機質な印象に化してしまうというのが、中国思想の表面的な特質の一つであろう。れれども中国の思想は、言葉の一つ一つが思想の全体を形成する上で緊密に関わって固有の概念を形成している。そうした状況を確認する。 **関心・意欲の観点：** 中国の思想の展開の上で、学生自身が個別に問題を発見し、それを全体的な問題にまで高めて考究し、解決できる。

●**授業の計画（全体）** 授業の概要にも述べたように、先秦から漢代に至る思想展開の一般的な領域と唐・宋新春秋学に関する特殊領域からなる。先秦から漢代に至る展開では、通説的な内容に止まらず今日の研究成果も十分に反映させたい (通説的な内容に関しては、森三樹三郎氏の『中国思想史』によるところが多い)。また、唐・宋新春秋学の展開に関しては、資料を精読しながらその影響が及んだ範囲の状況を考察したい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 導入　天の思想と倫理説
第 2 回　**項目** 孔子の思想ー仁
第 3 回　**項目** 孟子の思想ー民本思想と四端説
第 4 回　**項目** 荀子の思想
第 5 回　**項目** 老子の道
第 6 回　**項目** 荘子の万物斉同の思想
第 7 回　**項目** 司馬遷以前の歴史意識
第 8 回　**項目** 司馬遷と『史記』
第 9 回　**項目** タン助・趙匡・陸淳等の新春秋学 (1)
第 10 回　**項目** タン助・趙匡・陸淳等の新春秋学 (2)
第 11 回　**項目** 呂温と陸淳
第 12 回　**項目** 永貞革新と新春秋学
第 13 回　**項目** 孫復の春秋学
第 14 回　**項目** 程伊川の春秋学
第 15 回　**項目** 欧陽脩の『新五代史』

●**成績評価方法 (総合)** レポート 80 %、授業態度 10 %、出席 10 %

●**教科書・参考書** 教科書： 毎回プリントを配布する。／ 参考書： 中国思想史 (上・下), 森三樹三郎, 第三文明社レグルス文庫, 1978 年； 秦漢儒教の研究, 斎木哲郎, 汲古書院, 2003 年

●**備考** 集中授業

開設科目	中国哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林文孝				

●**授業の概要** 儒・仏・道三教の交渉史に即して、異なる思想どうしの対立と融合がどのような論理によって行われてきたのかを考察する。

●**授業の一般目標** 1. 中国思想（中世・近世を中心とする）における諸問題について、その諸側面と意義について自分なりの理論的考察を行う。 2. 儒・仏・道三教にわたる視野をもち、上記の考察に適用する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 講義で扱われる問題について、その諸側面を説明できる。 **思考・判断の観点：** 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、それぞれの思想の特質や特定の社会的・歴史的条件などと関係づけることができる。 2. 特定の問題について、思想間の異同をふまえつつ原理的なレベルで独自の考察を行うことができる。 **関心・意欲の観点：** 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。

●**授業の計画（全体）** 序論において問題意識を述べた後、重要な原典資料を取り上げてその思想内容を読みとり、儒教、道教、仏教の諸側面と相互関係をあわせて確認していく。質疑応答と討論を随時行い、理解を深めていく。

●**成績評価方法 (総合)** 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。資料を適宜配布する。／ 参考書： 適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp　人文学部 5 階

開設科目	中国哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

●**授業の概要** 儒・仏・道三教の交渉史に即して、異なる思想どうしの対立と融合がどのような論理によって行われてきたのかを考察する。

●**授業の一般目標** 1. 中国思想（中世・近世を中心とする）における諸問題について、その諸側面と意義について自分なりの理論的考察を行う。 2. 儒・仏・道三教にわたる視野をもち、上記の考察に適用する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 講義で扱われる問題について、その諸側面を説明できる。 **思考・判断の観点：** 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、それぞれの思想の特質や特定の社会的・歴史的条件などと関係づけることができる。 2. 特定の問題について、思想間の異同をふまえつつ原理的なレベルで独自の考察を行うことができる。 **関心・意欲の観点：** 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。

●**授業の計画（全体）** 序論において問題意識を述べた後、重要な原典資料を取り上げてその思想内容を読みとり、儒教、道教、仏教の諸側面と相互関係をあわせて確認していく。質疑応答と討論を随時行い、理解を深めていく。

●**成績評価方法 (総合)** 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。資料を適宜配布する。／ 参考書： 適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp　人文学部 5 階

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

●**授業の概要** 現代中国を代表する古代中国史家、晁福林氏の『先秦社会形態研究』から論文選び精読 する。／**検索キーワード** 古代中国、考古学、甲骨文、金文、

●**授業の一般目標** 古代中国研究に必要な古代漢語、現代漢語の読解能力は言うまでもなく、論文作成に求められる史料解釈、史料操作、立論の方法などについての基本的知識を摂取する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 現代中国語で書かれた論文を、難読のものでも読みこなすことが出来る。 **思考・判断の観点：** 論者の立場に立って論旨を理解した後、自分の頭でその是非を判断できるよ うになる。 **関心・意欲の観点：** 中国人研究者の研究に対して、抵抗感無く接することが出来るような意欲を 引き出す。

●**授業の計画（全体）** 受講者と相談の上、適当な論文を選定して、順次読み進める。言うまでもなく、引用史 料は、原典に当たって作者の理解が妥当であるか確認しつつ読む。

●**成績評価方法 (総合)** 毎回の受講態度とレポートの出来による。

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配布／ 参考書： その都度指示

●**メッセージ** 正確にかつ速くよむことが求められる

●**連絡先・オフィスアワー** 人文棟５階 火曜日１５時から１６時

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

●**授業の概要** 前期に同じ／**検索キーワード** 前期に同じ

●**授業の一般目標** 前期に同じ

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 前期に同じ **思考・判断の観点：** 前期に同じ **関心・意欲の観点：** 前期に同じ

●**授業の計画（全体）** 前期に同じ

●**成績評価方法 (総合)** 前期に同じ

●**教科書・参考書** 教科書： 前期に同じ／ 参考書： 前期に同じ

●**メッセージ** 前期に同じ

●**連絡先・オフィスアワー** 人文棟５階 火曜日１５時から１６時

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林文孝				

●授業の概要 中国思想史の史料を、必要な手順を踏んで厳密に読解していく。

●授業の一般目標 中国思想分野において、独力での研究遂行に堪えうる読解・分析能力を養う。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 古代漢語あるいは現代漢語のやや難しい文章について、独力でもほぼ正しい読解ができる。 2. 中国思想史の史料読解に必要な作業手順を体得できる。 **思考・判断の観点：** 1. 史料に語られた思想を再構成できる。 2. 史料に即して、対象とした思想の含意や可能性を分析できる。 **態度の観点：** 1. 難解な史料にも主体性をもって取り組む。

●授業の計画（全体） 第１回に顔合わせ、進め方の打ち合わせ等を行い、第２回から演習に入る。

●成績評価方法 (総合) 平常の読解作業と参加態度をもって評価する。

●教科書・参考書 教科書： コピーを配布する。／ 参考書： 必要に応じて紹介する。

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

●**授業の概要** 中国思想史の史料を、必要な手順を踏んで厳密に読解していく。

●**授業の一般目標** 中国思想分野において、独力での研究遂行に堪えうる読解・分析能力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 古代漢語あるいは現代漢語のやや難しい文章について、独力でもほぼ正しい読解ができる。 2. 中国思想史の史料読解に必要な作業手順を体得できる。 **思考・判断の観点：** 1. 史料に語られた思想を再構成できる。 2. 史料に即して、対象とした思想の含意や可能性を分析できる。 **態度の観点：** 1. 難解な史料にも主体性をもって取り組む。

●**授業の計画（全体）** 第１回に顔合わせ、進め方の打ち合わせ等を行い、第２回から演習に入る。

●**成績評価方法 (総合)** 平常の読解作業と参加態度をもって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： コピーを配布する。／ 参考書： 必要に応じて紹介する。

開設科目	日本思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊 澤　一				

●授業の概要 ―近世国学の思想―　近世の儒家神道から国学への移り行きを考察します。

●授業の一般目標 国学思想を内在的に理解しようと試みます。

●授業の計画（全体） 国学思想には、現代でも耳にする、きわめて卑俗で身近な発想が多く見られます。その意味を汲み取ることによって、自らの日常を自覚にもたらすことを試みます。

●成績評価方法 (総合) 学期末にレポートを課します（100 %）。

●教科書・参考書 教科書： 使用しません（適宜、複写資料を配付します）。／ 参考書： 授業の際に紹介します。

●連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：木曜日 12:50〜14:20

開設科目	日本思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

●授業の概要 ―古代・中世日本倫理思想史研究―　古代・中世日本の倫理思想史における基本的文献を読み解きつつ，人とは何か，人の生の拠りどころは何か，といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究します。昨年度にひき続き,〈物語〉という思想形態がもつ意味について考えます。今年度は具体的素材をしぼり，一説話の変容の諸相をたどりつつ考えを深めたいと思います。

●授業の一般目標 古代・中世日本倫理思想史について，知識・理解を深め，関心を広げること。

●授業の計画（全体） 毎回具体的な文献を読み，その思想解明を試みます。受講者には，あらかじめテクストが指示されている場合にはそれを読み，問題意識を明確にして授業に臨むこと，また，授業のおわりの 10 分程度で小レポートを書き提出すること，が課せられます。なお，毎回の授業内容については初回授業時に予定をお知らせします。

●成績評価方法 (総合) (1) 授業内の小レポート。(2) 期末試験。なお，出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

●教科書・参考書 教科書： プリントを配付します。／ 参考書： 参考文献は随時授業中に紹介します。

●連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp　人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上原　雅文				

●授業の概要 主にインド・中国・日本における仏教思想を比較検討する。仏教の基礎から解説を行い、特に戒律思想がどのように展開していったのかを軸に比較し、日本仏教の特徴を明らかにする。またそれぞれの国における民間信仰と仏教が習合するありように着目し、日本においては神祇信仰と結びついた神仏習合思想や山岳仏教の思想を原理的に考察する。

●授業の一般目標 仏教思想（思想の原理・戒律・修行など）および在来の民間信仰を、哲学・倫理学の観点から理解できるようになること。そして、インド・中国・日本のそれぞれの仏教思想が、民間信仰と結びついて展開するありようを知り、そこに見られる哲学的な思索を理解する。そしてまた、現代まで存続している日本仏教の特色についての理解を深める。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ・仏教思想における原理、戒律、修行について理解できる。 ・大乗仏教の諸特徴、諸概念について説明できる。 ・インド・中国・日本の在来信仰の相違が指摘できる。 ・インド・中国・日本の仏教思想の特徴が説明できる。 **思考・判断の観点：** ・仏教思想を哲学的・倫理学的な観点から思索することができる。 ・ひとつの思想が各国で個別に展開する際の要因について判断できる。 **関心・意欲の観点：** ・仏教について、哲学・倫理学的な関心をもつ。 ・神祇信仰などの民俗宗教について、哲学・倫理学的な関心をもつ。 **態度の観点：** ・単に授業を聞くのみではなく、みずから思索する態度をもつ。

●授業の計画（全体） 仏教思想の基礎、仏という目標について、それに至る方法について、大乗仏教思想について概説する。そして、インドにおける展開、中国における展開、日本における展開の詳細を、戒律思想を軸にして解説する。日本における展開においては、仏教伝来から最澄の前後までを中心に詳説し、神仏関係思想や山岳仏教についても詳説する。

●成績評価方法 (総合) レポート評価が中心。その際、出席評価を 3 割、レポート評価を 7 割とする。

●教科書・参考書 教科書： 最澄再考―日本仏教の光源, 上原雅文, ぺりかん社, 2004 年

●備考 集中授業

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

●授業の概要 受講者と相談の上，講義内容を決定します。

●授業の一般目標 受講者が自らの研究テーマにしたがって研鑽を積むことに、助言・指導を行います。そのことによって、受講者が修士論文を滞りなく完成させることを目標とします。

●授業の計画（全体） 受講者の計画に対応します。

●成績評価方法 (総合) 受講者のテーマ等に応じて，適宜，対応します。一応，期末レポート 50 %，出席 50 %としておきます。

●連絡先・オフィスアワー 大抵，研究室におりますので，電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

●授業の概要 前期を参照。

●授業の一般目標 前期を参照

●授業の計画（全体） 前期を参照

●成績評価方法 (総合) 前期を参照

●連絡先・オフィスアワー 大抵，研究室におりますので，電話で（あるいは e-mail で）在室を確認してからご来室ください。

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

●**授業の概要** 今年度前期の特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを扱う。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、その力を上回る神妃や女神が常につくのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？／**検索キーワード** 宗教、女性、シャーマン、巫女、呪術、妖術、魔女、女神、神秘、性差

●**授業の一般目標** 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点：** 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点：** 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点：** 宗教現象に関する記述力を養うこと。 **その他の観点：** 宗教現象を捉える感性を磨くこと。

●**授業の計画（全体）** 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。 ・映像（ＶＨＳ／ＤＶＤ） ・解説 ・フリーディスカッション

●**成績評価方法 (総合)** １．出席は１０回を単位取得の条件とする。 ２．毎回、宿題／レポートを課す。 ３．学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

●**教科書・参考書** 教科書： 授業のレジュメを毎回配布する／ 参考書： 参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

●**メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

●**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム ／ 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp ／ ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ 電話（研究室）：083-933-5220 ／ 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

●**授業の概要** ―日本思想史の諸問題―　受講生の関心に従って，日本思想史における基本的文献を採り上げ，主として内在的読解に拠り，併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら，その思想内容を具体的に解明します。／**検索キーワード** 内在的読解

●**授業の一般目標** 日本思想史に関わる知識・理解をもち，内在的研究の方法を学び習得するとともに，自らの関心に従って問いを発見・追求すること。

●**授業の計画（全体）** 受講者と相談の上決定します。

●**成績評価方法 (総合)** (1) 授業時間内の報告（演習）。(2) 期末レポート。

●**教科書・参考書** 教科書： 受講者と相談の上決定します。

●**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp　人文学部４階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

●**授業の概要** ―日本思想史の諸問題―　受講生の関心に従って，日本思想史における基本的文献を採り上げ，主として内在的読解に拠り，併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら，その思想内容を具体的に解明します。／**検索キーワード** 内在的読解

●**授業の一般目標** 日本思想史に関わる知識・理解をもち，内在的研究の方法を知り習得するとともに，自らの関心に従って問いを発見・追求すること。

●**授業の計画（全体）** 受講者と相談の上決定します。

●**成績評価方法 (総合)** (1) 授業時間内の報告（演習）。(2) 期末レポート。

●**教科書・参考書** 教科書： 受講者と相談の上決定します。

●**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp　人文学部４階 410 研究室

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	ジュマリ・アラム				

●**授業の概要** この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論

●**授業の一般目標** 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点：** 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点：** 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点：** 宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点：** 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 **その他の観点：** 宗教現象を捉える感性を磨くこと。

●**授業の計画（全体）** 毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。 (1) 当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 次回テーマのプロポーサルの発表・紹介

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しない。／ 参考書： テーマに沿って、適宜案内する。

●**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム ／ 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp ／ ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ ／ 電話（研究室）：083-933-5220 ／ 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

●授業の概要 今年度後期の特殊講義は「宗教とアート」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。およそすべての宗教的現象にはアートの要素が含まれ、またおよそすべてのアートには宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教もアートも人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教とアートはどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教とアートはどこへ、どのように、なぜ変容するのか？／**検索キーワード** 宗教、アート、芸術、美術、芸能、舞踊、舞踏、絵画、彫刻、シャーマニズム、呪術、観光、放浪芸

●授業の一般目標 「宗教とアート」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点：** 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点：** 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点：** 宗教現象に関する記述力を養うこと。 **その他の観点：** 宗教現象を捉える感性を磨くこと。

●授業の計画（全体） 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。 ・映像（ＶＨＳ／ＤＶＤ） ・解説 ・講義またはフリーディスカッション

●成績評価方法 (総合) １．出席は１０回を単位取得の条件とする。 ２．毎回、宿題／レポートを課す。 ３．学期末の試験期間中に最終レポートを課す。

●教科書・参考書 教科書： 授業のレジュメを毎回配布する／ 参考書： 参考書は授業中に適宜案内し、またはコピーを配布する

●メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

●連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム ／ 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp ／ ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ 電話（研究室）：083-933-5220 ／ 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	ジュマリ・アラム				

●**授業の概要** この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論

●**授業の一般目標** 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点：** 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点：** 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点：** 宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点：** 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。 **その他の観点：** 宗教現象を捉える感性を磨くこと。

●**授業の計画（全体）** 毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。 (1) 当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 次回テーマのプロポーサルの発表・紹介

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しない。／ 参考書： テーマに沿って、適宜案内する。

●**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム ／ 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp ／ ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ ／ 電話（研究室）：083-933-5220 ／ 研究室：人文学部 413 号室

地域文化専攻　歴史文化論

開設科目	日本歴史文化論Ｉ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしえその構 造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家 の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時 代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにすると ともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時 代の宮都について述べることとする。／**検索キーワード** 日本古代史、宮都、複都制、平城宮、平城京、恭仁宮、難波宮、甲賀宮、保良宮、由義宮、文献史料、遺跡、遺構

●**授業の一般目標** 宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通 説を疑い学問・研究する姿勢を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 授業で講じられた、奈良時代の宮都個々について正確に説明できる。 **思考・判断の観点：** 授業で講じられた、奈良時代の宮都の変遷について歴史的観点から論理的に説明できる。 **関心・意欲の観点：** 歴史及び歴史学への興味・関心をいだく。 **態度の観点：** 学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしえその構 造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家 の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時 代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにすると ともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時 代の宮都について述べることとする。

●**教科書・参考書** 教科書： 指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。／ 参考書： 授業中に適宜指摘する。

●**メッセージ** 高等学校で日本史の授業を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代について高等学校修了程度の予備知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノート パソコンを携行することが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp　研究室：人文学部３階　オフィスアワー：一応、月・火の５時 ４０分～６時４０分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

●授業の概要 中世寺社勢力と強訴

●授業の一般目標 ・当該問題について理解を深める。 ・歴史学の研究方法の一端を理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 基本的な事実関係について説明できる。 諸論点について理解する。
思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。
関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 **技能・表現の観点：** 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

●成績評価方法 (総合) 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的見地に立って評価する。

●教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	酒寄　雅志				

●備考 集中授業

開設科目	日本歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

●**授業の概要** 「長府藩の政治と経済」という主題で講義を行う。長府藩は、萩藩の支藩の一つである。その長府藩から見た近世初期の本・支藩関係、長府藩の石高と年貢を、史料に即しながら解明する。／**検索キーワード** 本藩、支藩、幕府、石高、年貢

●**授業の一般目標** １．初期藩政の動向のなかでの幕府・本藩・支藩の関係を理解する。 ２．１７世紀前半の時代相を知る。 ３．藩という存在について、政治・経済両面にわたって理解する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １．この主題にかかわる研究史と講義での主張の違いが説明できる。 ２．時期的な特徴と、長府藩の固有性について説明できる。 **思考・判断の観点：** １．史料の読み、論証方法について、自分の言葉で説明できる。 ２．授業内容を批判的にみることができる。 **技能・表現の観点：** １．自分の見解を文章で論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 「長府藩の政治と経済」という主題について、（１）近世初期の幕府・本藩・支藩の関係を具体的に解明する。（２）長府藩の石高と年貢を、具体的に解明する。

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験をレポートにかえ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、４００字詰１５枚以上。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	仁木　宏				

●授業の概要 「戦国城下町論」 15〜16 世紀における地方政治都市である守護所、城下町について論じる。

●授業の一般目標 完成された近世城下町とは異なる、形成途上の城下町の姿を多様な側面から見ることで、中世都市の個性、豊かな可能性についての理解を深める。

●授業の計画（全体） ・1470 年ころ、1530 年ころを画期として、室町・戦国時代の守護所・城下町について解明する。 ・つづいて、織豊系城下町に注目して、都市構造が収斂してゆく方向を見定める。 ・文献史料だけでなく、考古学の成果、歴史地理学的な手法ももちい、学際的な検討を加える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 守護所・城下町の研究史
第 2 回　**項目** 鎌倉と国府
第 3 回　**項目** 15 世紀前半までの守護所
第 4 回　**項目** 畿内の守護所
第 5 回　**項目** 西国の守護所
第 6 回　**項目** 東国の守護所
第 7 回　**項目** 守護所から城下町へ
第 8 回　**項目** 西国の城下町
第 9 回　**項目** 東国の城下町
第 10 回　**項目** 畿内の城下町
第 11 回　**項目** 織田城下町
第 12 回　**項目** 豊臣期城下町の類型
第 13 回　**項目** 豊臣期城下町の限界
第 14 回　**項目** 江戸時代の城下町へ
第 15 回　**項目** 新しい戦国城下町像

●成績評価方法 (総合) 授業内容の理解度を確認するレポートを課す。

●教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 『空間・公・共同体』, 仁木宏, 青木書店, 1997 年

●メッセージ 大内氏時代の都市山口を全国的な視角から位置づけることも試みたいと思います。

●備考 集中授業

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

●**授業の概要** 「日本歴史文化論演習」: 受講者の課題に近い原史料の写真版をテキストに、史料を精読していく。また、受講者の課題に基づく発表を行い、討論をして内容を深める機会も適宜織り込む。／**検索キーワード** 日本近世史、歴史学、演習

●**授業の一般目標** １．近世史料の内難度の高いものが読解できる。 ２．自分の主題について、史料に基づき論を立てることができる。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １．難度の高いくずし字の史料が読解できる。 ２．自分の主題に関する研究史の整理が的確にできる。 **思考・判断の観点：** １．史料を用いての論証が精密にできる。 ２．自分の主題をオリジナリティーをもった論として立てることができる。 **技能・表現の観点：** １．自分の見解を論理的に文章で表現できる。

●**授業の計画（全体）** 受講者の課題に近い原史料の写真版を用いて、精読していく。また、受講者の課題に基づく報告を行い、討論をして内容を深める機会を適宜もうける。

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、４００字詰１５枚以上。

●**教科書・参考書** 教科書： 特になし。適宜レジュメ・資料を配付する。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

●**授業の概要** 前期と同様。／**検索キーワード** 日本近世史、歴史学、演習

●**授業の一般目標** 前期と同様

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 前期と同様 **思考・判断の観点：** 前期と同様 **技能・表現の観点：** 前期と同様

●**授業の計画（全体）** 前期と同様

●**成績評価方法 (総合)** 前期と同様

●**教科書・参考書** 教科書： 前期と同様

●**連絡先・オフィスアワー** 前期と同様

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。／**検索キーワード** よりよい修士論文の作成を目指す。

●**授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を 進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検 討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を 通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 **態度の観点：** 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を 進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検 討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を 通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**成績評価方法 (総合)** １．学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。２．レポートの分量については別途指示する。

●**教科書・参考書** 教科書： なし／ 参考書： なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎 回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード ）を用いて報告に必要な配布資料を 作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワード のファイルで配布することが義務付け られます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp　研究室：人文学部３階　オフィスアワー：一応、月・火の５時 ４０分～６時４０分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。／**検索キーワード** よりよい修士論文の作成を目指す。

●**授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を 進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検 討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を 通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 修士論文作成に必要な日本古代史の高度な知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 修士論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 修士論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 **態度の観点：** 修士論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決する姿勢を養う。 **技能・表現の観点：** 1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を 進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検 討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を 通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**成績評価方法 (総合)** １．学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。２．レポートの分量については別途指示する。

●**教科書・参考書** 教科書： なし／ 参考書： なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎 回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード ）を用いて報告に必要な配布資料を 作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワード のファイルで配布することが義務付け られます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp　研究室：人文学部３階　オフィスアワー：一応、月・火の５時 ４０分～６時４０分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

●**授業の概要** 題目：日本中世史の諸問題 概要：日本中世史を専攻する修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。受講生と相談の上で選定する史料の輪読と、受講生自身の研究成果報告をおこなう。

●**授業の一般目標** 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** ・関係史料や先行研究について把握する。 ・関心ある事象の時代背景を把握する。 **思考・判断の観点：** 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 **関心・意欲の観点：** 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 **態度の観点：** 一研究者としての誇りを持つ。 **技能・表現の観点：** 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

●**授業の計画（全体）** 各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

●**成績評価方法 (総合)** 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

●**メッセージ** いい修士論文を読ませてください。

●**連絡先・オフィスアワー** ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

●**授業の概要** 題目：日本中世史の諸問題 概要：日本中世史を専攻する修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。受講生と相談の上で選定する史料の輪読と、受講生自身の研究成果報告をおこなう。

●**授業の一般目標** 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** ・関係史料や先行研究について把握する。 ・関心ある事象の時代背景を把握する。 **思考・判断の観点：** 史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 **関心・意欲の観点：** 関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 **態度の観点：** 一研究者としての誇りを持つ。 **技能・表現の観点：** 自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。

●**授業の計画（全体）** 各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。

●**成績評価方法 (総合)** 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。

●**メッセージ** いい修士論文を読ませてください。

●**連絡先・オフィスアワー** ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

●**授業の概要** 百年以来中国古代の秦漢時代（BC.220〜AD.220）の出土文字資料――簡牘を大量に発見してきたので、本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る秦漢史について紹介したいものである。／**検索キーワード** 出土文字

●**授業の一般目標** 出土文字の研究によって、２１世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

●**授業の計画（全体）** まず、簡牘史学の形成と特性を説明し、その後具体的な実例を説明する。

●**成績評価方法 (総合)** 成績評価は基本的に、出席（30 %）と試験（70 %）で行う。

開設科目	中国歴史文化論Ⅰ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

●**授業の概要** 百年以来中国古代の秦漢時代（BC.220〜AD.220）の出土文字資料――簡牘を大量に発見してきたので、本講義は秦漢時代の簡牘と伝世文献に見る秦漢史について紹介したいものである。／**検索キーワード** 出土文字

●**授業の一般目標** 出土文字の研究によって、２１世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** 明代の鈔関から清代の常関への変遷をたどり、それぞれの特質をさぐる。／**検索キーワード** 鈔関、常関、戸部官僚、内務府系官僚、一年任期、原額主義、請負

●**授業の一般目標** （１）明清時代の内地税関について一応の知識を得る。（２）内地税関からわかる当時の交通・商業の特質を明らかにする。（３）内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 明清時代の内地税関について一応の知識を得る。 **思考・判断の観点：** 内地税関からわかる当時の交通・商業の特質を明らかにする。 内地税関にみられる当時の政府出先徴税機関の組織原理を探る。 **関心・意欲の観点：** 現在とはことなる組織に興味をもつ。

●**授業の計画（全体）** 明代の鈔関の組織、徴税方式およびその時代的変遷に関してまず明らかにし、それが明末から清初にかけて他の徴税機関と統合されていくことに言及する。 そして清代の常関における組織、徴税実態を明らかにし、最後に明代鈔関と清代常関を比較してその相違点を挙げる。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末に提出するレポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。授業中にプリントを配布する。／ 参考書： 明代の鈔関について： 佐久間重男「明代の商税制度」,『社会経済史学』13-3，1943 同「明代商税の本色及び折色について」,『オリエンタリカ』2，1948 同「明代における商税と財政との関係」,『史学雑誌』65-1・2，1956 清代の常関について： 滝野正二郎および香坂昌紀の論文

●**メッセージ** 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を 望む。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** 長崎華商泰益号を中心として華僑による商業活動および東アジアにおける華僑ネットワークを検討する。／**検索キーワード** 華人・華僑、華商、ネットワーク、泰益号

●**授業の一般目標** 長崎華商泰益号による商業活動等を分析し、中国人による商業経営の方式を知るとともに、東アジアにおける華僑ネットワークを理解する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中国人による商業経営に関して知識を得るとともに在外華商のネットワークを理解する。 **思考・判断の観点：** 国民国家の枠にとらわれない人間の歴史に関して考え、「一国史観」を相対化する。 **関心・意欲の観点：** 華僑など「マージナル・マン」ともいえる人々の活動に関心を持つ。

●**授業の計画（全体）** 移住民社会としての中国社会から説き起こし、華僑に関する全般的な説明をしたうえで、20 世紀前半長崎を拠点に活動した華商泰益号（全盛期における当主の名は陳世望）を中心として、その文書に見られる経営方式、ネットワーク形成を検討し、さらに華人の僑―郷関係などにも言及する。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末レポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書なし。必要に応じてプリントを配布する。／ 参考書： 華僑, 斯波義信, 岩波書店, 1995 年； 華僑経済史, 須山卓, 近藤出版社, 1972 年； 華僑社会経済論序説, 市川信愛, 九州大学出版会, 1987 年； 長崎華商経営の史的研究, 山岡由佳, ミネルヴァ書房, 1995 年； 長崎華商と東アジア交易網の形成, 廖赤陽, 汲古書院, 2000 年； 長崎華商貿易の史的研究，朱徳蘭，芙蓉書房，1997 年 上海鼎記号と長崎泰益号，和田正広・翁其銀，中国書店，2004 年

●**メッセージ** 漢文史料、ときには漢文で書かれた文書や蘇州号碼（中国の略数字）で書かれた帳簿なども提示しつつ授業を進めるので漢文史料に興味のある学生諸君の受講を望みます。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真栄平　房昭				

●**授業の概要** 「東アジア海域交流史と琉球」　近年の東アジア対外関係史の動向を紹介するとともに、琉球王国をめぐる諸問題についてとりあげる。特に琉球と江戸幕府・薩摩藩との外交、明清王朝との貿易交流史をテーマとし、近世の日記・古文書・古記録類を素材として読み進めながら歴史像を解説する。／**検索キーワード** 琉球、明・清王朝、対外関係、海域史

●**授業の一般目標** １６世紀から１９世紀の東アジアの中で、近世日本の外交と貿易をめぐる諸問題について研究。日本・琉球・中国の〈国境〉を越えて移動するヒト、モノ、情報の交流をテーマにアジア海域ネットワークの構造的特質を明らかにし、いわゆる国民国家の枠に規定された「鎖国」史観を乗り越え、新たな歴史像の探究をめざす。

●**授業の計画（全体）** 本講義のテーマは、「東アジア海域交流史と琉球」である。近年の歴史研究では、「海域」という広がりをもつ地域概念にもとづいて「国境」を相対化し、アジア的視野からの日本の特質を捉え直す方向にある。こうした歴史の見方をふまえ、本講義では外交・貿易・文化交流などをテーマにとりあげ、中世から近世の琉球王国に焦点をあて、学術論文や史料を適宜組み合わせながら、文献史料の読み方とその解析法などを学んでいく。

●**成績評価方法 (総合)** レポートを課す。

●**教科書・参考書** 教科書： 図説琉球王国, 高良倉吉・田名真之, 河出書房新社, 1993 年

●**備考** 集中授業

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

●授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

●授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。

●成績評価方法 (総合) レポート。

●教科書・参考書 教科書：『龍崗秦簡』, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

●授業の概要 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

●授業の一般目標 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。

●成績評価方法 (総合) レポート。

●教科書・参考書 教科書： 龍崗秦簡, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の 歴史像を構築する。／**検索キーワード** 中国、史料、読解、時代像

●**授業の一般目標** 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 史料から歴史像を考える。 **関心・意欲の観点：** 歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 **態度の観点：** 史料から歴史を考える態度を持つ。 **技能・表現の観点：** 中国史料を操作する基本的技能を獲得する。

●**授業の計画（全体）** 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議 論して当該時代の歴史像を構築する。

●**成績評価方法 (総合)** 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 受講者との相談によって決定する。／ 参考書： その都度紹介する。

●**メッセージ** 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の 歴史像を構築する。／**検索キーワード** テーマ：中国史史料の研究

●**授業の一般目標** 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 **思考・判断の観点：** 史料から歴史像を考える。 **関心・意欲の観点：** 歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 **態度の観点：** 史料から歴史を考える態度を持つ。 **技能・表現の観点：** 中国史料を操作する基本的技能を獲得する。

●**授業の計画（全体）** 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議 論して当該時代の歴史像を構築する。

●**成績評価方法 (総合)** 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 受講者との相談によって決定する。／ 参考書： その都度紹介する。

●**メッセージ** 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517、内線 5229、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

●授業の概要 【19 世紀末までのロシア史の展開】9 世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが 「人民主義」の革命運動を開始し挫折した 19 世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史 を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識していた西ヨーロッパの国家・社 会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行なうことにしたい。

●授業の一般目標 専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして 19 世紀末に始まりまもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点 を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形 成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 上記の点について知識をもち、理解する。 **思考・判断の観点：** 上記の点について自分で深く考えてみる。 **関心・意欲の観点：** ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 **項目** はじめに
第 2 回 **項目** ロシアの自然環 境とその影響 （１）
第 3 回 **項目** ロシアの自然環 境とその影響 （２）
第 4 回 **項目** キエフ国家の成 立
第 5 回 **項目** キエフ国家の崩 壊
第 6 回 **項目** モスクワ国家か らロシア帝国へ （１） 軍事的 中央集権国家の 出現
第 7 回 **項目** モスクワ国家か らロシア帝国へ （２） 農奴制 の形成
第 8 回 **項目** モスクワ国家か らロシア帝国へ （３） 農奴制 の確立
第 9 回 **項目** 皇帝と貴族
第 10 回 **項目** ラジーシチェフ とデカブリスト
第 11 回 **項目** スラヴ主義者対 西欧主義者の大 論争
第 12 回 **項目** ゲルツェンの 「ロシア社会主 義」論
第 13 回 **項目** 農奴解放と人民 主義運動
第 14 回 **項目** 人民主義の思想 家たち
第 15 回 **項目** 人民主義運動の 展開と挫折

●成績評価方法 (総合) レポート（読書感想文）100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

●教科書・参考書 教科書： 用いない。適宜プリントを配付する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

●授業の概要 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。――こうした 問題を考えてみたい。

●授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ロシア革命について知識を得、理解を深める。 **思考・判断の観点：** ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 **関心・意欲の観点：** ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 **項目** ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 （１）
第 2 回 **項目** ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 （２）
第 3 回 **項目** レーニンの党組 織論
第 4 回 **項目** ボリシェヴィキ とメンシェヴィ キの対立
第 5 回 **項目** 西欧における革 命運動の退潮
第 6 回 **項目** １９０５年革命
第 7 回 **項目** １９１７年の２ 月革命
第 8 回 **項目** ２月革命から１ ０月革命へ
第 9 回 **項目** 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
第 10 回 **項目** 内戦の勃発
第 11 回 **項目** 「戦時共産主 義」
第 12 回 **項目** 内戦の終結、 「戦時共産主 義」の続行、農 民反乱
第 13 回 **項目** ネップ（新経済 政策）への転 換、共産党一党 独裁の完成
第 14 回 **項目** まとめ
第 15 回 **項目** 予備日

●成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100 点。無断欠席１回につきマイナス 5 点。

●教科書・参考書 教科書： 用いない。適宜プリントを配付する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	朝地　啓三				

●**授業の概要** イングランド中世国制史ーアングロ・サクソン時代からバラ戦争まで

●**授業の一般目標** イングランド中世史に関する基本的歴史事実を修得すること，重要事件の歴史的意義を認識すること，イングランド史研究が我が国の歴史研究に与えた影響，などを目標とする。 主として講義を聞き，ノートをとる形式で行う。時おり，資料 (邦文・英文) を講読する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** イングランド政治史上の基本的事項の習得　**思考・判断の観点：** 国制史の方法の習得，政治史や法制史との方法上の違いの認識　**関心・意欲の観点：** イングランド政治史上の事件の持つ，ヨーロッパ全体の中での位置づけ，また日本の近代国制史との関連性の習得

●**授業の計画（全体）** １．政治史と国制史の棲み分け，イギリス史の中のイングランド中世史の位置づけ (１回) ２．ケルト時代からアングロ・サクソン時代まで (２～３回) ３．ノルマン征服から 12 世紀前半まで (２回) ４．アンジュー帝国の成立からマグナ・カルタまで (２～３回) ５．マグナ・カルタからエドワード１世治世末まで (３回) ６．百年戦争とバラ戦争期の国制 (３～４回)

●**成績評価方法 (総合)** 期末レポートと，授業中に課す小レポートによって評価します。

●**教科書・参考書** 教科書：『概説イギリス史』, 青山吉信・今井宏編, 有斐閣, 1991 年／ 参考書：『世界各国史 11・イギリス史』, 川北稔編, 山川出版社, 1998 年；『シモン・ド・モンフォールの乱』, 朝治啓三, 京都大学学術出版会, 2003 年

●**メッセージ** 西洋史の知識が無くても受講可能です。出席を重視します。

●**備考** 集中授業

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカの人種関係を根底から変化させた１９６０年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「６０年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。／**検索キーワード** アメリカ、黒人。社会運動

●**授業の一般目標** (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める **思考・判断の観点：** 既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける **関心・意欲の観点：** 現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める **態度の観点：** 積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身に つける

●**授業の計画（全体）** できれば前・後期通年の受講が望ましい

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** 授業の進行方法に関するガイダンス
第 2 回 **項目** 今日のアメリカの人種関係 **内容** 戦後の黒人の歴史の概説
第 3 回 **項目** ミシシッピ・フリーダム・サマー (1) **内容** ミシシッピで行われた運動の概説
第 4 回 **項目** ミシシッピ・フリーダム・サマー (2) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 5 回 **項目** ミシシッピ・フリーダム・サマー (3) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 6 回 **項目** ブラック・パワーと都市暴動 (1) **内容** 北部における黒人の運動の概説
第 7 回 **項目** ブラック・パワーと都市暴動 (2) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 8 回 **項目** ブラック・パワーと都市暴動 (3) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 9 回 **項目** シカゴ・フリーダム・ムーブメント (1) **内容** シカゴの黒人の運動の概説
第 10 回 **項目** シカゴ・フリーダム・ムーブメント (2) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 11 回 **項目** シカゴ・フリーダム・ムーブメント (3) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 12 回 **項目** デトロイトにおける運動 (1) **内容** デトロイト都市研究史概説
第 13 回 **項目** デトロイトにおける運動 (2) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 14 回 **項目** デトロイトにおける運動 (3) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 15 回 **項目** 予備日

●**成績評価方法 (総合)** 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容が もっとも重視される。 予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書： Voices of Freedom, Henry Hampton and Steve Fayer, Penguine, 1990 年； 教科書販売場所：大学生協

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話か らのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：１１時５０分から１２時５０分

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカの人種関係を根底から変化させた１９６０年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「６０年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。／**検索キーワード** アメリカ、黒人、社会運動

●**授業の一般目標** (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める **思考・判断の観点：** 既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける **関心・意欲の観点：** 現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める **態度の観点：** 積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという 「思考法」を身に つける

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** 授業の進行方法に関するガイダンス
第 2 回 **項目** 今日のアメリカの人種関係 **内容** 戦後の黒人の歴史の概説
第 3 回 **項目** ブラック・パンサー党の歴史 (1) **内容** 急進化した黒人の運動の概説
第 4 回 **項目** ブラック・パンサー党の歴史 (2) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 5 回 **項目** ブラック・パンサー党の歴史 (3) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 6 回 **項目** ＣＯＩＮＴＥＬＰＲＯ (1) **内容** 黒人急進派の弾圧政策の概説
第 7 回 **項目** ＣＯＩＮＴＥＬＰＲＯ (2) **内容** 連邦議会盗聴史料解読
第 8 回 **項目** モハメド・アリの表象 (1) **内容** アリの人物史概説
第 9 回 **項目** モハメド・アリの表象 (2) **内容** 文字史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 10 回 **項目** モハメド・アリの表象 (3) **内容** ドキュメンタリー When We Were the Kings 鑑賞
第 11 回 **項目** ディスカッション **内容** テーマ「第３世界と黒人の運動」
第 12 回 **項目** 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (1) **内容** 今日的問題の概説
第 13 回 **項目** 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (2) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 14 回 **項目** 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動 (3) **内容** 史料に基づいた考察 **授業外指示** 予習として史料を読んでくる
第 15 回 **項目** 予備日

●**成績評価方法 (総合)** 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容が もっとも重視される。 予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書： Voices of Freedom, Henry Hampton and Steve Frayer,, Penguine, 1990 年； 教科書販売場所：大学生協

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話か らのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：１１時５０分から１２時５０分

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

●授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

●授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

●授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

●成績評価方法 (総合) 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

●授業の概要 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

●授業の一般目標 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

●授業の計画（全体） 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

●成績評価方法 (総合) 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心 にしたがって決定する／**検索キーワード** アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにな らないように、「問い」のたてかたを学ぶ

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める **思考・判断の観点：** 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダク ション **内容** 今後のゼミの進 行について打ち 合わせをする。 受講希望者は必 ず出席のこと
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そ れのみを評価基準と する。

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話か らのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：１１時５０分から１２時５０分

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心 にしたがって決定する／**検索キーワード** アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにな らないように、「問い」のたてかたを学ぶ

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める **思考・判断の観点：** 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダク ション **内容** 今後のゼミの進 行について打ち 合わせをする。 受講希望者は必 ず出席のこと
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そ れのみを評価基準と する。

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話か らのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：１１時５０分から１２時５０分

地域文化専攻　現代社会分析論

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 産業社会の成立と変容における企業組織と企業家の関わりを、企業家の経営理念とそのよりどころに焦点をおいて、事例を紹介しながら考察する。 前期は西洋社会における事例を中心に考える。／**検索キーワード** 産業社会、企業フィランソロピー、企業組織、企業の社会的責任

●**授業の一般目標** 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を理解する。 その背景をなす、企業家の経営理念をさぐる。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 企業組織の社会貢献活動についての理解を深める **思考・判断の観点：** 企業活動の光と陰について考える **関心・意欲の観点：** 企業の社会活動や経営理念について関心を持つ **態度の観点：** 身近な企業組織に目を向けるようになる

●**授業の計画（全体）** 企業の社会的責任や企業の社会貢献活動の背後にある企業家の経営倫理の実態について紹介し、企業家のフィランソロピーの可能性を考える

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 産業社会と社会学の成立
第 2 回 **項目** マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
第 3 回 **項目** 企業家のフィランソロピー 事例１
第 4 回 **項目** 企業家のフィランソロピー 事例２
第 5 回 **項目** 産業社会の変質「富裕にいたる道」
第 6 回 **項目** ダニエル・ベル『資本主義の文化的矛盾』
第 7 回 **項目** 産業社会のゆくえ
第 8 回 **項目** 貨幣経済と都市の成長
第 9 回 **項目** 都市研究の実験室としてのシカゴ
第 10 回 **項目** 社会事業家ジェーンアダムスと「ハルハウス」
第 11 回 **項目** シカゴにおけるロータリークラブの誕生
第 12 回 **項目** 国際的奉仕団体としてのロータリー
第 13 回 **項目** ロータリアンの意識と行動
第 14 回 **項目** ロータリアンの意識と行動ロータリアンの意識と行動
第 15 回 **項目** 企業家ボランティアの可能性を求めて

●**成績評価方法 (総合)** 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●**教科書・参考書** 教科書： 企業の社会貢献とコミュニティ, ”三浦典子著”, ミネルヴァ書房, 2004 年； プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神, M. ヴェーバー, 岩波書店, 1991 年； 三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004 年／ 参考書： 適宜紹介する

●**メッセージ** できる限り前期後期続けて受講してほしい

●**連絡先・オフィスアワー** otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 日本における企業家の経営理念と企業の社会的貢献活動を中心に、企業組織とコミュニティの関わりを、具体的な事例を紹介しながら考察する／**検索キーワード** 日本的経営、企業の社会貢献、企業フィランソロピー、企業市民性

●**授業の一般目標** 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、地域社会における一市民としての企業組織の可能性について考える。 後期は特に日本における企業家の経営理念に注目し、前期の西洋社会との比較検討を試みる

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 企業の社会貢献についての理解を深める **思考・判断の観点：** 企業活動の光と陰について考える **関心・意欲の観点：** 企業の社会貢献活動について関心を持つ **態度の観点：** 身近な企業の社会貢献活動に目を向けるようになる

●**授業の計画（全体）** 日本における企業家の経営理念と企業の社会貢献活動の実態を明らかにし、西洋社会における企業家のフィランソロピーとの比較検討を試みる

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 日本的企業フィランソロピー
第 2 回 **項目** 近江商人の家訓
第 3 回 **項目** 渋沢栄一の経済道徳合一説
第 4 回 **項目** 日本的経営理念の源流
第 5 回 **項目** 企業家の社会貢献　事例 1
第 6 回 **項目** 企業家の社会貢献　事例 2
第 7 回 **項目** 経営組織の変容『社会にやさしい企業』
第 8 回 **項目** 近代的経営における社是・社訓
第 9 回 **項目** 企業の社会的責任
第 10 回 **項目** 企業のステークホルダーとしての地域社会
第 11 回 **項目** 地域社会における企業の社会貢献活動の現状
第 12 回 **項目** 企業市民性の可能性
第 13 回 **項目** マックスヴェーバーの比較宗教社会学
第 14 回 **項目** 経営理念にみる比較社会論
第 15 回 **項目** まとめ 「公と私」

●**成績評価方法 (総合)** 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●**教科書・参考書** 教科書： 企業の社会貢献とコミュニティ, ”三浦典子著”, ミネルヴァ書房, 2005 年； 三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004 年／ 参考書： 適宜紹介する

●**メッセージ** 前期・後期続けて受講して欲しい

●**連絡先・オフィスアワー** otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤村　正之				

●**授業の概要** 「学問の１番バッター」ともいえる社会学は、当該社会の現代的特質を把握することを、その目的のひとつとしています。高度産業社会の進展は、私たちの生活や価値観を固定的なものから選択可能なものに作り替えてきました。しかし、生活を通じて社会構造の影響にさらされる私たちは、思うほど自由気ままな人生を歩めるわけではありません。資源・人間関係・規範がからまった緊張関係のただ中にあるのが、私たちの日々の生活でもあります。本講義では、現代社会の特質を日常のさまざまな視点から考察することで、社会の多様性と厚みについて皆さんと考えていきたいと思います。

●**授業の一般目標** ａ．社会変動の基礎理論を理解する。 ｂ．現代社会の特性を複数の観点から理解する。ｃ．社会的現実を社会学の理論を用いて分析する事例にふれる

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 歴史と社会構造をつなげて理解する社会学的想像力・社会学感覚の養成。 **思考・判断の観点：** 社会学の基礎的概念と発想を把握し、それを日常生活の分析・理解に応用していく思考法を身につける。

●**授業の計画（全体）** 全体を５ブロックにわけて講義していく。（１）社会変動の基礎的理解と日本への適用［１～３回］、（２）家族・人口・世代の変動理解［４～６回］、（３）人間をとりまく媒体や現象の変動理解［７～９回］、（４）社会の性質の変容と方向性［10～12 回］、（５）社会学の役割の再確認 [13 回]。基本的には講義中心となりますが、可能な限り、ビデオ／プリント資料を使用して、皆さんにイメージをもちやすいものにしていきたいと考えています。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 社会変動の理論１
第 2 回　**項目** 社会変動の理論２
第 3 回　**項目** 戦後日本の社会変動と生活変動
第 4 回　**項目** 少子高齢化社会
第 5 回　**項目** 世代とライフコース
第 6 回　**項目** 生と死の社会学
第 7 回　**項目** 高度消費社会と社会階層
第 8 回　**項目** メディア社会
第 9 回　**項目** ジェンダーとセクシュアリティ
第 10 回　**項目** 福祉国家と福祉社会
第 11 回　**項目** リスク社会
第 12 回　**項目** 市民活動・ＮＰＯ・社会資本
第 13 回　**項目** 社会学の現代的役割－関係性への視点
第 14 回　**項目** 全体総括１
第 15 回　**項目** 全体総括２

●**成績評価方法 (総合)** 集中講義のため、主に最終の筆記試験によって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する予定。／ 参考書： つながりの哲学・ジンメル, 菅野　仁, NHK 出版, 2003 年； 希望格差社会, 山田昌弘, 筑摩書房, 2004 年； ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年； 福祉国家の再編成, 藤村正之, 東京大学出版会, 1999 年； 非日常を生み出す文化装置, 嶋根克己・藤村正之編, 北樹出版, 2001 年

●**メッセージ** 難しいことはわかりやすく、楽しいことは真剣に考えていく発想を獲得していきましょう。

●**備考** 集中授業

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 近代以降、家族はどのような変容をとげてきたのか。晩婚化・未婚化、少子高齢化が進む中で家族はどこへ向かおうとしているのか。家族を取り巻くマクロ社会変動や、家族とコミュニティ(地域社会）との関係にも配視しながら、現代家族の諸相とそのゆくえについて検討を加えてみたい。／**検索キーワード** 家族、家、村、伝統家族、近代家族、結婚、家族の個人化

●**授業の一般目標** （１）社会学の視点から、家族の特質や変容について理解を深める。（２）現代家族の諸問題を把握するとともに、データをもとに家族のゆくえについて考える。

●**授業の計画（全体）** 家族の特質と変容、現代家族の諸問題などについて、社会学における家族研究の成果を参照しながら考察する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** イントロダクション、家族とコミュニティ **内容** 授業の進め方の説明
第 2 回　**項目** 家族とは何か
第 3 回　**項目** 近代家族の特質
第 4 回　**項目** 伝統家族とコミュニティ
第 5 回　**項目** 伝統家族とコミュニティ（続き）
第 6 回　**項目** 日本における近代家族の形成と発展
第 7 回　**項目** 日本における近代家族の形成と発展（続き）
第 8 回　**項目** 日本における近代家族の形成と発展（続き）
第 9 回　**項目** 結婚の変容―「家族の戦後体制」のゆらぎ―
第 10 回　**項目** 結婚の変容―「家族の戦後体制」のゆらぎ―（続き）
第 11 回　**項目** 結婚の変容―「家族の戦後体制」のゆらぎ―（続き）
第 12 回　**項目** 家族の教育機能とその変容
第 13 回　**項目** 家族の教育機能とその変容 (続き）
第 14 回　**項目** 現代家族のゆくえ
第 15 回　**項目** 試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験（論述式）　50 % 出席 40 % 小レポート・授業参加度　10 %

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は特に使用しない。／ 参考書： 家と村の社会学, 鳥越皓之, 世界思想社, 1993 年； 21 世紀家族へ (新版）, 落合恵美子, 有斐閣, 1998 年； 日本人のしつけは衰退したか, 広田照幸, 講談社, 1999 年； 家族（講座社会学２）, 目黒依子ほか, 東京大学出版会, 1999 年； パラサイト社会のゆくえ, 山田昌弘, 筑摩書房, 2004 年； その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

●**メッセージ** 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス　n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室　人文棟３階 307 室

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 現代社会における環境問題の諸相を取り上げ、環境社会学や地域社会学の視点から、政策と運動の現状と課題、両者の関係などについて考察する。／**検索キーワード** 環境社会学、環境問題、環境運動、環境政策、公共性

●**授業の一般目標** （１）環境社会学や地域社会学における環境問題の分析とその特質について理解を深める。（２）環境問題への取り組みにおける政策と運動との関係に焦点を合わせ、その現状と課題を理解し、両者の望ましい関係について考察する。

●**授業の計画（全体）** 環境社会学や地域社会学の視点から環境問題の諸相を検討を加えていく。講義科目ではあるが、対話しながらの演習形式で授業を進めていく。受講生には、適宜課題を与えて、授業の中で報告してもらうので、あらかじめ了解してほしい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** イントロダクション **内容** 授業の進め方についての説明
第 2 回　**項目** 環境社会学の視座
第 3 回　**項目** 環境問題の社会学
第 4 回　**項目** 環境問題と環境運動
第 5 回　**項目** 環境問題と環境運動（続き）
第 6 回　**項目** 環境運動と政策研究
第 7 回　**項目** 環境運動と政策研究 (続き）
第 8 回　**項目** 新しい社会運動と環境問題
第 9 回　**項目** 新しい社会運動と環境問題 (続き）
第 10 回　**項目** 環境問題をめぐる運動と政策の力学
第 11 回　**項目** 環境問題をめぐる運動と政策の力学（続き）
第 12 回　**項目** 共同性と公共性をめぐる現代的位相
第 13 回　**項目** 環境運動の展開と新しい公共圏
第 14 回　**項目** 環境運動の変容と現代的課題
第 15 回　**項目** 試験または課題レポート

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験（論述式）　40 % 出席 40 % 授業外レポート・報告　20 %

●**教科書・参考書** 教科書： 環境運動と新しい公共圏, 長谷川公一, 有斐閣, 2003 年／ 参考書： 環境社会学, 飯島伸子, 有斐閣, 1993 年； 環境社会学, 鳥越皓之, 東京大学出版会, 2004 年； その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

●**メッセージ** 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス　n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室　人文棟 3 階 307 室

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

●**授業の概要** 現代の日本社会は大きな変革期にかかっているが、そのために犯罪や自殺などの逸脱行動が多 様化し深刻化もしている。こうした逸脱行動は、社会システムにとっての変動要因となるばかりか、社会病理現象ともたらすことにもなる。この講義では、現在の我が国の社会において社会病理や逸脱行動が何故生じ るのかを理解するために逸脱行動の理論を学ぶ。前半は、理論編、後半は現状分析編の話題になる。／**検索キーワード** 逸脱行動、アノミー論、ラベリング論、サブカルチャー論、機会構造、状況規定、 凶悪犯罪、自殺

●**授業の一般目標** １）逸脱行動や社会病理の学説・理論について理解する。 ２）それを生かして現実に起こっている現象を如何に説明するかを学ぶ ３）こうしたさまなざまな逸脱行動が生じないようにするにはどのようなことが必要かを学ぶ

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 基本的な逸脱行動論の知識を理解する。 **思考・判断の観点：** マス・メディアによって報道される事件（逸脱行動の）などを自分自身で考え、その本質的な問題が何か、判断できること。 **関心・意欲の観点：** 新聞や雑誌など、社会的な出来事への関心を持つことができること。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 講義のねらい **内容** 今回の授業の狙い と全体の流れを説 明する
第 2 回 **項目** 現代の社会問題 **内容** 現在の社会問題、 理論と実証 論
第 3 回 **項目** 社会病理学の考え 方 **内容** 社会病理現象を説 明する理論の種類 と歴史
第 4 回 **項目** デュルケームの自 殺論と病理的視点 **内容** デュルケームの 『自殺論』と彼の 問題意識
第 5 回 **項目** マートンのアノミ ー論
第 6 回 **項目** シカゴ学派の逸脱 論：分化接触論とサブ カルチャー論 **内容** シカゴの都市研究 と社会病理学（パ ーク、トーマスな ど）
第 7 回 **項目** サブカルチャー論 と非行
第 8 回 **項目** 社会的相互作用と 社会的反作用論
第 9 回 **項目** ベッカーのラベリ ング論
第 10 回 **項目** キツセの社会問題 論
第 11 回 **項目** 現在の青少年非行 **内容** 第 4 のピークとは何か
第 12 回 **項目** 現在の犯罪現象
第 13 回 **項目** 自殺と地域社会
第 14 回 **項目** 逸脱行動と統制 **内容** 犯罪のない街づくり
第 15 回 **項目** まとめ **内容** 講義の全体的なま とめ

●**教科書・参考書** 参考書： 社会病理学と少年非行, 高原正興著, 法政出版, 1996 年； 自殺論（中公文庫）, デュルケーム著 ; 宮島喬訳, 中央公論社, 1985 年； 社会理論と社会構造, ロバート.K. マートン [著] ; 森東吾 [ほか] 訳, みすず書房, 1961 年； アウトサイダーズ : ラベリング理論とはなにか（新装版）, ハワード S. ベッカー著 ; 村上直之訳, 新泉社, 1993 年； ”犯罪の原因 (刑事学原論 / E.H. サザランド ,D.R. クレッシー [著] ; 平野龍一, 所一彦訳 ; 1)”, ”E.H. サザランド , D.R. クレッシー著 ; 平野龍一, 所一彦訳”, 有信堂, 1964 年； 高原正興『社会病理学と少年非行』法政出版 デュルケーム『自殺論』中公文庫 マートン『社会理論と社会構造』みすず書房 ベッカー『アウトサイダーズ』新泉社 サザーランド『犯罪の原因 I・II』有信堂

●**メッセージ** 参考書は最低１冊は、該当箇所を読んでおくこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 辻研究室（３０９室）

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

●授業の概要 我が国は、１９９４年に高齢化率 14 %を超え、高齢社会に突入した。この高齢化は、今後もますます進行し、我が国の社会全体に大きな影響を及ぼしつつある。現在の我が国の深刻な社会問題（産業の空洞化、犯罪の凶悪化など）の中には国際化や情報化といった別の要因も関係しているが、高齢化の要因も無視できない。ところが、高齢化については、福祉や社会保障制度などに関しては論議されているが、高齢社会全体についてはあまり論議されていないのが実情である。この講義では、現在に高齢者か抱えている問題やこれまであまり触れられなかったエイジズム（老人差別)、高齢者と時間、生涯現役社会の構築といったことについて触れながら、社会老年学の知識を深めることを目指している。同時に社会意識調査の仕方について学ぶ。 ぶ。／**検索キーワード** 高齢化、少子化、生涯現役、エイジング、ライフサイクル、ラベリング

●授業の一般目標 (1) 高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。 (2) 高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。 (3) 生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 講義の狙い
第 2 回　**項目** 高齢化社会とは何 か **内容** 日本の高齢化は諸 外国のそれとどこ が違うか
第 3 回　**項目** 高齢者の自我
第 4 回　**項目** 高齢者の社会化 **内容** 社会化の理論
第 5 回　**項目** 高齢者文化と時間 **内容** 人生儀礼、通過儀 礼
第 6 回　**項目** 高齢者の人間関係 **内容** 都市部と過疎地の 高齢者のつき合い の違い、孤独と孤 立、老人の自殺
第 7 回　**項目** 高齢者の社会参加
第 8 回　**項目** 高齢者のグループ 活動
第 9 回　**項目** 高齢者の生活意識
第 10 回　**項目** 高齢者の生きがい 論 **内容** 生きがいを調べ るには
第 11 回　**項目** 高齢者と死の問題
第 12 回　**項目** 高齢者差別と高齢 者ラベリング
第 13 回　**項目** 介護意識と福祉意 識
第 14 回　**項目** 生涯現役社会づく りについて
第 15 回　**項目** 今回の講義のまと め

●教科書・参考書 教科書： エイジングの社会心理学, 辻正二・船津衛, 北樹出版, 2003 年／ 参考書： 高齢者ラベリングの社会学：老人差別の調査研究, 辻正二著, 恒星社厚生閣, 2000 年； 辻正二『高齢者ラベリングの社会学』（恒星社厚生閣）2000 年

●メッセージ 参考書や資料は、その都度、紹介する予定です。

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本　努				

●**授業の概要** 農山村問題に社会学の方法でアプローチする。／**検索キーワード** 地域、過疎、社会学、農山村

●**授業の一般目標** 農山村問題を軸に、地域社会学を学ぶ。

●**授業の到達目標／　関心・意欲の観点：** 地域問題や地域生活への関心を培ってほしい。

●**授業の計画（全体）** 自殺、家族、高齢者、若者、結婚、少子化などの生活構造、生活問題と絡めて、現代過疎問題の構造を講義する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 過疎とは何か **内容** 過疎概念について
第 2 回　**項目** 過疎研究の課題 **内容** 従来の研究成果の概観
第 3 回　**項目** 過疎問題の現状 **内容** 過疎問題を地域、時代別に概観
第 4 回　**項目** 過疎地域の自殺問題 ・その 1 **内容** 過疎地自殺問題の概観
第 5 回　**項目** 過疎地域の自殺問題 ・その 2 **内容** 過疎と自殺の関係について
第 6 回　**項目** 過疎地域の自殺問題 ・その 3 **内容** 過疎地域高齢者の自殺について
第 7 回　**項目** 過疎地域の家族分析・その 1 **内容** 過疎地域家族の小家族化
第 8 回　**項目** 過疎地域の家族分析・その 2 **内容** 家族機能の弱体化と過疎問題
第 9 回　**項目** 過疎地域の家族分析・その 3 **内容** 高齢者の生き甲斐感・家族・地域
第 10 回　**項目** 過疎地域若者の地域意識 **内容** 若者定住の可能性
第 11 回　**項目** 人口還流と定住分析 **内容** 人口還流の構造分析
第 12 回　**項目** 集落崩壊と少子化 **内容** 子ども減少が地域に与える影響の分析
第 13 回　**項目** 結婚と過疎の分析 **内容** 未婚化・晩婚化と地域の関係
第 14 回　**項目** 集落崩壊の現段階規定 **内容** 過疎の新局面の提示
第 15 回　**項目** 今後の過疎農山村研究の課題 **内容** 過疎の新局面に対応した過疎研究の課題

●**成績評価方法 (総合)** 受講生の状況を見て決める。きちんと授業出て、きちんとノートをとって、きちんと教科書を読んで、きちんとノートに纏める。以上の事は最低限求められる。

●**教科書・参考書** 教科書： 現代過疎問題の研究, 山本努, 恒星社厚生閣, 1996 年； 上記テキスト以外に、論文リストを後日、掲示する。それらを図書館などで入手（コピー）して授業に出る事。／ 参考書： 現代農山村の社会分析, 山本努、徳野貞雄、加来和典、高野和良, 学文社, 1999 年

●**メッセージ** 山口県や地元の事にも関心を持って下さい。

●**備考** 集中授業

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

●授業の概要 コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提と されていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、 諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。 授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケ ーション論の出発点について、検討を進めていく。／
検索キーワード コミュニケーション、メディア、公共圏

●授業の一般目標 １．古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する ２．メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する ３．公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎 をつくる ４．パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法 を学ぶ

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 授業ガイダンス **内容** 授業方法の解説 コミュニケーシ ョンをめぐるロ マン主義的誤謬 **授業外指示** メーリングリス トの登録
第 2 回　**項目** メディアの役割 **内容** 機械論的コミュ ニケーション論 の限界 **授業外指示** メーリングリストによる課題提 出
第 3 回　**項目** メディアとして の貨幣 **内容** 第１章１，２， ３
第 4 回　**項目** 現代社会におけ るリスク **内容** 第１章４，５
第 5 回　**項目** パーソナル・メ ディア **内容** 第２章１，２， ３
第 6 回　**項目** マス・メディア と電子メディア
第 7 回　**項目** 第１中間考察 **内容** ここまでの疑問 点、問題点をめ ぐる質疑応答
第 8 回　**項目** 相互行為と間主 観性 **内容** 第３章１，２
第 9 回　**項目** コミュニケーシ ョンと合意 **内容** 第３章３，４， ５
第 10 回　**項目** 真理・規範・権 力・影響力 **内容** 第３章６，７， ８
第 11 回　**項目** 第２中間考察 **内容** ここまでの疑問 点、問題点をめ ぐる質疑応答
第 12 回　**項目** 強制的権力と生 成的権力 **内容** 第４章１，２
第 13 回　**項目** 「公共圏」の変 容 **内容** 第４章３，４
第 14 回　**項目** 社会的コミュニ ケーションの構 造 **内容** 第５章１，２
第 15 回　**項目** 原初的コミュニ ケーションによ る自己組織化 **内容** 第５章３，４， ５

●成績評価方法 (総合) 授業外レポート４０点と学期末試験６０点の総合点によって評価する。

●教科書・参考書 教科書： コミュニケーション・メディア, 正村俊之, 世界思想社, 2001 年

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 大学院生専用の授業科目として、家族社会学の講義を行う。／**検索キーワード** 少子高齢社会、パラサイト・シングル、若年フリーター

●**授業の一般目標** １．未婚化や晩婚化をめぐる現状と社会学的分析について学ぶ ２．日本における近代家族の形成過程について学ぶ ３．性やジェンダーをめぐる世代間ギャップ、世代内ギャップについて考察する

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 家族愛のパラド クス
第 2 回　**項目** 家族への思いこ み
第 3 回　**項目** 近代家族の基本 的性格
第 4 回　**項目** 近代家族の危う さ
第 5 回　**項目** 近代家族を支え る装置
第 6 回　**項目** 近代家族の成立 と形成
第 7 回　**項目** 近代社会におけ る愛情の意味
第 8 回　**項目** 母性愛の形成
第 9 回　**項目** 恋愛結婚と近代 家族
第 10 回　**項目** 家事労働の基本 的性格
第 11 回　**項目** 家事労働の意味
第 12 回　**項目** 家事労働とジェ ンダー
第 13 回　**項目** 現代化と家族
第 14 回　**項目** 現代家族の変貌
第 15 回　**項目** 現代家族の危機

開設科目	比較社会生活誌論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	神野　善治				

●**授業の概要** この講義では「生活文化」の多面的な世界を「民俗」の視点からとらえる試みを紹介します。民俗とは「伝承」という方法によって、家族や地域社会などに共有されてきた知恵と技の蓄積だと私は考えます。とくに今回は、日本人の暮らしを支えてきた「モノ」に託された「民俗」を探ることをめざします。すなわち施設や道具などの「有形文化」を、知識・技術・芸能・儀礼・説話などの「無形の伝承」とともにとりあげ、「精神文化」との接点をたどる話題を提供します。／**検索キーワード** 暮らし、モノ、自然、技術、伝承、木霊

●**授業の一般目標** 皆さんの広範な好奇心を引き出すこと。具体的な事物からはじめて心象概念まで、多角的に把握する方法を学ぶ機会としたいと考えます。

●**授業の計画（全体）** 前半は、私たちの日常生活がどのような「モノ」に支えられてきたか。これを包括的にとらえる手法を検討しながら、「モノ」から展開する「民俗」の世界の面白さを紹介したいと思います。

後半は、日常生活の基盤になる「家屋」とそこに宿ると考えられた神霊について、続いて、海に生きる人々を支えた「船」、とくに日本の伝統的な木造船である「和船」をとりあげ、その特異な構造と、そこに宿ると考えられた「フナダマ」の世界について紹介します。さらに、河川の両岸をつなぐ「橋」と、そこに宿る非常に嫉妬深い女神とされる「橋姫」の伝承世界を紹介し、これらの構築物（モノ）の背後にひそむ自然と人間のかかわり、身近なモノに宿るタマの存在を怖れた日本人の心意の世界に迫りたいと考えています。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 「モノを読む」「モノから学ぶ」面白さ **内容** 「黒板消し」から広がる世界
第 2 回　**項目** 「棒の歴史」から **内容** 柳田國男・渋沢敬三・宮本常一のモノ論
第 3 回　**項目** バスケタリーの魅力 **内容** 籠から筌（うけ）へ
第 4 回　**項目** 暮らしを支えるモノを探る **内容** 悉皆調査という方法
第 5 回　**項目** モノの体系から生活（記憶）体系が見える **内容** 水車小屋との出会い
第 6 回　**項目** モノの反乱・モノノケの出現 **内容** 百鬼夜行の世界
第 7 回　**項目** ひと・ひとがた・にんぎょう **内容** 道具としての「人形」
第 8 回　**項目** 人形送りと虫の魂 **内容** 排除の思想
第 9 回　**項目** 「人形道祖神」の発見 **内容** 民俗神の原像
第 10 回　**項目** 「モノ」に込められた心象世界 **内容** 家と柱をめぐる民俗
第 11 回　**項目** 諏訪御柱祭と伊勢の遷宮 **内容** 自然と文化の接点
第 12 回　**項目** 造船儀礼とフナダマ（船霊） **内容** タマからカミへ
第 13 回　**項目** 築橋儀礼とハシヒメ（橋姫） **内容** 有形と無形の世界
第 14 回　**項目** 有形無形の民俗を統合的にとらえる **内容** 民俗世界の「曼荼羅」を描く
第 15 回　**項目** まとめ **内容** 課題の整理

●**成績評価方法 (総合)** 小テスト・授業内レポートにより評価します。

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は使用しません。参考書には別記の拙著をあげておきますが、比較的高価ですので、図書館で一覧することをおすすめします。講義中に関連文献の紹介をするとともに講義資料を配布します／ 参考書： 木霊論〜家・船・橋の民俗〜, 神野善治, 白水社, 2000 年； 講義中に参考資料のプリントを配布します。

●**メッセージ** 身辺の事物に好奇心を働かせ、森羅万象の探求に展開させよう。

●**備考** 集中授業

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

●**授業の概要** この授業では、「死の民俗と現代の死」と題して、現代における死のありようと死に対する姿勢について、日本の「死の民俗」を参照しながら考えます。／**検索キーワード** 日本人　死　葬送儀礼　民俗

●**授業の一般目標** １．日本人は死をどのようにとらえ、また向き合ってきたか知る。 ２．日本社会において死者はどのように位置づけられてきたか、検討する。 ３．日本の各地から報告された「死の迎え方・見送り方」の実例を通じて、人生における死とは何か、民俗学的に考察する

●**授業の計画（全体）** 「死の民俗と現代の死」と題し、（１）日本人の「死」、（２）「死者」の位置づけ、（３）「死の迎え方・見送り方」、（４）まとめ、に区分して、進める。 各週の具体的な内容は、初回の授業時に示す。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** はじめに **内容** 授業の趣旨（問題設定）と授業方法についての説明 明
第 2 回　**項目** 日本人の「死」（１）
第 3 回　**項目** 日本人の「死」（２）
第 4 回　**項目** 日本人の「死」（３）
第 5 回　**項目** 日本人の「死」（４）
第 6 回　**項目** 「死者」の位置づけ（１）
第 7 回　**項目** 「死者」の位置づけ（２）
第 8 回　**項目** 「死者」の位置づけ（３）
第 9 回　**項目** 「死者」の位置づけ（４）
第 10 回　**項目** 死の迎え方・見送り方（１）
第 11 回　**項目** 死の迎え方・見送り方（２）
第 12 回　**項目** 死の迎え方・見送り方（３）
第 13 回　**項目** 死の迎え方・見送り方（４）
第 14 回　**項目** まとめ
第 15 回　**項目** 試験 **内容** 筆記試験

●**成績評価方法 (総合)** １．授業内容へのコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行います。 ２．欠席は欠格条項（全体の 75 %以上の出席がないと期末試験受験資格がありません）

●**教科書・参考書** 教科書： 日本人の死のかたち, 波平恵美子, 朝日新聞社（朝日選書）, 2004 年； その他、必要に応じて資料をプリンして配付します。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階２１０号室　オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

●授業の概要 この授業では、前期の授業を受け継ぐ形で、「死の政治性」と題して、死した個人を社会的にまつることの事例をいくつかの観点から取り上げ、その意味について考えます。／**検索キーワード** 死者のまつり　慰霊　戦争　民俗

●授業の一般目標 １．死者をまつるとはどのような意味をもつことか考えます。 ２．個人の死を社会がまつることの意味を考えます。 ３．死がはらむ政治性について、民俗学の立場から考察します。

●授業の計画（全体） 「死の政治性」と題して、授業を構想する。具体的には、(1) 死者をまつることの意味、(2) 異常死者のまつりかた、(3) 家のまつりと死者、(4) 戦争の民俗と戦死者のまつり、(5) まとめ、という構成にする。 各週の具体的な内容は、初回の授業時に示す。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** はじめに **内容** 授業の趣旨と授業 方法についての説 明（問題設定）
第 2 回　**項目** 死者をまつることの意味（１）
第 3 回　**項目** 死者をまつることの意味（２）
第 4 回　**項目** 死者をまつることの意味（３）
第 5 回　**項目** 異常死者のまつりかた（１）
第 6 回　**項目** 異常死者のまつりかた（２）
第 7 回　**項目** 異常死者のまつりかた（３）
第 8 回　**項目** 死者と家のまつり（１）
第 9 回　**項目** 死者と家のまつり（２）
第 10 回　**項目** 死者と家のまつり（３）
第 11 回　**項目** 戦争の民俗と戦死者のまつり（１）
第 12 回　**項目** 戦争の民俗と戦死者のまつり（２）
第 13 回　**項目** 戦争の民俗と戦死者のまつり（３）
第 14 回　**項目** まとめ
第 15 回　**項目** 試験 **内容** 筆記試験

●成績評価方法 (総合) １．毎回の授業対するコメント、レポート、期末試験の評価を総合して成績評価を行う。 ２．欠席は欠格条項（全体の 75 %以上の出席がないと期末試験受験資格がない。

●教科書・参考書 教科書： 日本人の死のかたち, 波平恵美子, 朝日新聞社（朝日選書）, 2004 年； その他、必要に応じてプリント資料を配付する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟２階２１０号室　オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

●**授業の概要** 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研 究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／**検索キーワード** 文化人類学、物質文化研究、民俗学、技術文化、もの、技能

●**授業の一般目標** 人間が作り出した様々なものを社会的、システム的、技術的に読み解く力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 基本的理論、用語の説明ができる。 **思考・判断の観点：** 日常を機能・システム的視点から読み解くことができる。 **関心・意欲の観点：** 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 **態度の観点：** 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 **技能・表現の観点：** 自分の考えを正確に論述できる。

●**授業の計画（全体）** 人類の技術文化について講義をします。人類の環境に対する選択と適応をものと技術の視点から解説する。人間の自然に対する基本的な対応の仕方について理解し、現代の地球環境のあり方について考える。

●**成績評価方法 (総合)** 出席と期末レポート及び授業内レポートによる評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／ 参考書： その都度紹介します。

●**メッセージ** できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

●**連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00〜12：00

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

●**授業の概要** 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研 究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／**検索キーワード** 文化人類学、物質文化、民俗学、技術文化、日本、身体技法、技能

●**授業の一般目標** 人間が作り出した様々なものを社会的、システム的、技術的に読み解く力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 基本的理論、用語の説明ができる。 **思考・判断の観点：** 日常を機能・システム的視点から読み解くことができる。 **関心・意欲の観点：** 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 **態度の観点：** 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 **技能・表現の観点：** 自分の考えを正確に論述できる。

●**授業の計画（全体）** 日本の技術文化について、基本的な素材利用の解説からはじめ、日本列島の中の技術文化の多様性と均質性を明らかにしていく。最終的には身体技法を伴う技能の重要性について考える。

●**成績評価方法 (総合)** 出席と期末レポート及び授業内レポートによる評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／ 参考書： その都度紹介します。

●**メッセージ** できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。

●**連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 12：00〜14：00

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纐纈厚				

●授業の概要 現代政治社会に表する様々な政治変動を解析していくため現代政治学の研究成果の適用が求められている。そこで、本講義では現代政治学が取り組んでいる課題を紹介し、細部にわたる講義を展開する。／**検索キーワード** 社会変動　構造転換　構造分析

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 現代政治学の対象
第 2 回　**項目** 現代政治学の諸潮流
第 3 回　**項目** 世界システム論の適用
第 4 回　**項目** 現代民主主義の可能性と限界
第 5 回　**項目** 全体主義・保守主義・新自由主義のあいだ
第 6 回　**項目** 国家機能の拡大と政治決定過程
第 7 回　**項目** 現代政治を動かす要因
第 8 回　**項目** 現代国家論の展開
第 9 回　**項目** 近代政党と議会の役割
第 10 回　**項目** 圧力団体の社会的位置
第 11 回　**項目** デモクラシー・ファシズム・ミリタリズムの接合
第 12 回　**項目** 支配システムの実際
第 13 回　**項目** 戦前期国家権力の特質
第 14 回　**項目** 戦後期国家権力の特質
第 15 回　**項目** 前期講義の纏め

●メッセージ 現代政治社会を構造的に切開する視点を

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	纐纈厚				

●授業の概要 本講義では、現代政治社会に表出する諸現象を解読するために不可欠な現代政治学の方法を基底に据えて、現代社会の変動要因を細部に亘って探求する。そこでは最新の当領域における研究成果をも紹介していく。

●授業の一般目標 現代社会の諸事象を客観的に考察できる視点を獲得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 国家と人間
第 2 回　**項目** 政治社会と人間
第 3 回　**項目** 企業社会と人間
第 4 回　**項目** 現代民主主義と人間
第 5 回　**項目** 全体主義・国家主義と人間
第 6 回　**項目** 愛国主義・愛郷主義と人間
第 7 回　**項目** 現代政治の動要因としての人間
第 8 回　**項目** 自由・平等・安全思想と人間
第 9 回　**項目** 高度経済成長と人間
第 10 回　**項目** 競争と差別意識と人間
第 11 回　**項目** 学歴・階層社会と人間
第 12 回　**項目** 政治の人間化と人間の政治化（１）
第 13 回　**項目** 政治の人間化と人間の政治化（２）
第 14 回　**項目** 後期の纏め（１）
第 15 回　**項目** 後期の纏め（２）

●メッセージ 理論構築なき現状分析はあり得ない

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

●授業の概要 日本、日本人という概念がどのような内容のものであり、それが近代日本においてどのように表象されていたか、という問題を、主に日本語という言語の面から考察する。

●授業の一般目標 日本語の近代のあり様を歴史的に理解する。

●授業の計画（全体） 「満州国」における言語政策の展開と、「東亜共通語」としての日本語について考察する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 異言語との対峙のなかの「国語」
第 2 回　**項目** 満州国における日本語の位置付け
第 3 回　**項目** 日本語の制度化
第 4 回　**項目** 「満州語」の創出
第 5 回　**項目** 「協和語」および満州国における日本語の諸相
第 6 回　**項目** 異言語との共存のあり方
第 7 回　**項目** 「大東亜共栄圏」構想と民族秩序
第 8 回　**項目** 「指導国」言語としての日本語
第 9 回　**項目** 「東亜共通語」の制度化への試み
第 10 回　**項目** 「東亜共通語」への試み：言語簡易化
第 11 回　**項目** 今日的問題
第 12 回　**項目** 「国際化」のなかの日本語
第 13 回　**項目** 「東亜共通語」の思想とその後
第 14 回　**項目** 補足・質問
第 15 回　**項目** 予備

●成績評価方法 (総合) 出席および態度。

●教科書・参考書 教科書： 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年； 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

●授業の概要 南アジア諸国の国家のありようを、インドを中心に、パキスタン、バングラデシュ、ネパール、ブータンを含めた北部地域を中心に見ていく。

●授業の一般目標 ヒンドゥー教徒が多数を占める世俗国家（政教分離国家）で、世界最大の民主主義を誇るインド社会について、その等身大の姿を見ていく。

●成績評価方法 (総合) テキストに添って、その背景なども説明しながら進める

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

●授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。

●授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 先行研究に関する知識を蓄積する **思考・判断の観点：** 研究テーマを明確化する **関心・意欲の観点：** 意欲の向上を図る **態度の観点：** 積極的に取り組む

●授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 **項目** 研究テーマの検討
第 2 回 **項目** 研究テーマの検討
第 3 回 **項目** 研究テーマの決定
第 4 回 **項目** 文献研究
第 5 回 **項目** 文献研究
第 6 回 **項目** 文献研究
第 7 回 **項目** 文献研究
第 8 回 **項目** 文献研究
第 9 回 **項目** 文献研究
第 10 回 **項目** 研究中間報告
第 11 回 **項目** 文献研究
第 12 回 **項目** 文献研究
第 13 回 **項目** 文献研究
第 14 回 **項目** 文献研究
第 15 回 **項目** レポート作成

●成績評価方法 (総合) 出席とレポートの作成、議論への参加度によって装具的に評価する

●教科書・参考書 教科書： 研究テーマに応じて決める／ 参考書： 研究テーマに応じて紹介する

●連絡先・オフィスアワー Eアドレス：otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

●授業の概要 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。

●授業の一般目標 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 先行研究に関する知識を蓄積する **思考・判断の観点：** 研究テーマを明確化する **関心・意欲の観点：** 意欲の向上を図る **態度の観点：** 積極的に取り組む

●授業の計画（全体） 報告レポートに関して、議論し、理解を深める

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 **項目** 文献研究
第 2 回 **項目** フィールド調査の準備
第 3 回 **項目** フィールド調査の準備
第 4 回 **項目** フィールド調査の準備
第 5 回 **項目** フィールド調査
第 6 回 **項目** フィールド調査
第 7 回 **項目** フィールド調査
第 8 回 **項目** フィールド調査
第 9 回 **項目** フィールド調査の分析
第 10 回 **項目** 研究中間報告
第 11 回 **項目** フィールド調査の分析
第 12 回 **項目** レポート準備
第 13 回 **項目** レポート準備
第 14 回 **項目** レポート作成
第 15 回 **項目** レポート作成

●教科書・参考書 教科書： 研究テーマに応じて決める／ 参考書： 研究テーマに応じて紹介する

●連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

●**授業の概要** 毎回１人づつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展 するように指導する授業である。

●**授業の一般目標** (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの 方法について学ぶ。 (2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。 (3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

●**授業の概要** 毎回１人づつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展す るように指導する授業である。

●**授業の一般目標** (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの 方法について学ぶ。 (2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。 (3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	纐纈厚				

●授業の概要 修士一年は二年後の修士論文提出までの研究計画を作成し、提出する義務を負う。テーマ設定については指導教官のアドバイスを受けつつ、自らの問題設定への取り組みに全力をあげること。修士二年は、年度末に提出を義務づけられている修士論文の執筆に向け、執筆計画の発表を行う。

●授業の一般目標 先行研究や資料を充分に精査し、論理的かつ説得的な論文の執筆を目指す。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 修士論文執筆計画の発表
第 2 回　**項目** 以下、論文要旨の報告を行う。適時、指導教官より講義を行う。
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	纐纈厚				

●授業の概要 前期に引き続き修士論文の執筆を目標にして報告と講義を同時的に進める。

●授業の一般目標 参考資料・文献・論文の収集と読み解きの手法を獲得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 後期における修論執筆計画報告
第 2 回　**項目** 以下、順次報告と講義を進める。
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●連絡先・オフィスアワー koketsy@yamaguchi-u.ac.jp Office Our Yhu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

●授業の概要 日本の高度成長による生活変容について、写真映像を手掛かりに、具体的に確認し検討する。

●授業の一般目標 １．日本の高度成長以前の姿や社会のありようを把握する。 ２．高度成長後の変容について、的確に把握し、その要因について理解できるようにする。

●授業の計画（全体） テキストに基づきながら、いくつかに区分したテーマに即して、受講生の自主的な学習成果を発表しながら進める。具体的スケジュールは受講生と相談して決める。

●成績評価方法 (総合) 授業への取組姿勢と授業終了後に作成提出するレポートの評価による。

●教科書・参考書 教科書： 失われた日本の風景, 薗部澄, 河出書房新社, 2000 年

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

●**授業の概要** 民俗学に基づく個別テーマに関する演習を行なう。民俗学の最新の文献を選択し、読み、討論を行う。

●**授業の一般目標** 1．文献をよく読み、理解を深めること。 2．自らの研究テーマへの取り込みを積極的に図ること。

●**授業の計画（全体）** 民俗学の最新文献を選定して、発表しながら読み進める。

●**成績評価方法 (総合)** 授業への取組姿勢と授業終了後に提出するレポートによる。

●**連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

●**授業の概要** 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する。／**検索キーワード** 物質文化、民俗技術、民具研究

●**授業の一般目標** 主要な論文の講読を中心にして、理論と研究方法についての理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 民俗技術研究の主要論文を提示し、読み進めていく。「日本常民生活資料叢書（日本常民文化研究所編）」から選ぶ予定。

●**成績評価方法 (総合)** 自主的な研究態度と期末のレポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 論文の複写をテキストとして進める。／ 参考書： 適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguhi-u.ac.jp 電話 5239　研究室 213　オフィスアワー木曜日 12：00〜14：00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

●**授業の概要** 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する／**検索キーワード** 物質文化研究

●**授業の一般目標** 基礎理論と研究方法の基本が理解できる。基本的英文文献からの情報の取得

●**授業の計画（全体）** 文化人類学の物質文化に関する英文テキストを講読していく。対象は各自の研究に関連 するものを取り上げる。

●**成績評価方法 (総合)** 各自の自主的研究態度と期末のレポートによって評価する

●**教科書・参考書** 教科書： テキストは各自の研究に沿って選択する。／ 参考書： 適宜紹介する

●**連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239　研究室 213　オフィスアワー 木曜日 12：00〜14：00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 受講生が自らの研究テーマを深め、修士論文を作成できるよう、指導を行う。したがって、受講生自身による研究成果の報告と参加者全員による討論によって授業は進められていく。但し、受講生の人数と状況によっては、地域社会学または現代社会論のテキストを選び、各自の報告と並行する形で輪読し、討論を行うことも考えている。その場合、どのような文献をテキストに選ぶかは、受講生と相談して決定する。／**検索キーワード** 社会学理論、社会調査、社会構造、社会変動、修士論文

●**授業の一般目標** （１）修士論文の研究課題を具体化し、必要な文献、資料、データ等を渉猟して、自らの研究を深められるようにする。（２）各自の研究課題に基づいて、修士論文の作成に着手できるようにする。

●**授業の計画（全体）** 受講生自身が、自らの問題関心と研究テーマにしたがって、研究報告を行う。それらの報告にし たがって、受講生全員による質疑、討論等を行う。報告の順番や授業外学習の指示等に関して は、受講生と相談の上、第１回目の授業において決定する。

●**成績評価方法 (総合)** 出席 40 % 報告・授業への参加度　40 % 課題レポート　20 %

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は特に使用しない。／ 参考書： 参考文献に関しては、授業の中で適宜指示する。

●**メッセージ** 初回の授業で、授業の進め方について説明するので、必ず初回の授業に出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス　n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室　人文棟３階 307 室

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

●授業の概要 大学院生を対象とする演習において、青年文化の形成と変容をめぐるアプローチについ て検討する。／**検索キーワード** 対抗文化　サブカルチャー　島宇宙

●授業の一般目標 1．日本の青年文化の形成と変容を概観する。 2．青年現象の背後にある社会過程やメカニズムについて考察する。 3．計量的分析の意義と限界について学ぶ。

●授業の計画（全体） 受講生の報告を中心に、授業を進める

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** ガイダンス **内容** 文献検索、レジ ュメ作成等
第 2 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 3 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 4 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 5 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 6 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 7 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 8 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 9 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 10 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 11 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 12 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 13 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 14 回　**項目** 青年文化につい ての報告
第 15 回　**項目** 青年文化につい ての報告

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

●授業の概要 インドの言語問題を、言語政策に焦点を絞ってみていく。

●授業の一般目標 ヨーロッパ諸国を基準にした国家と言語のありようを相対化できること。ヨーロッパの国の狭さに気づくこと（インドの広さに気づくこと）。インドの言語事情を歴史的社会的背景に照らして理解すること。日本の言語問題について考える視点を得ること。

●授業の計画（全体） 言語問題についての一般的理解とインドの言語問題の特殊性の理解と、その双方をその都度織り交ぜて扱う。

●成績評価方法 (総合) 期末試験

●教科書・参考書 教科書： あふれる言語、あふれる文字, 鈴木義里, 右文書院, 2001 年／ 参考書： 言語的近代を超えて, 山本真弓ほか, 明石書店, 2004 年

開設科目	社会調査法演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

●授業の概要 社会調査を企画・実施し、データを分析する能力を養うために、調査方法に関する知識と技法を演習（または実習）形式で実践的に学習する。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施する予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。／**検索キーワード** 社会調査方法論、統計調査、事例調査、調査票、サンプリング、調査対象、コーディング、データクリーニング、単純集計、クロス集計、図表

●授業の一般目標 社会調査を企画・実施し、データを収集・分析するための能力を養う。受講生自身が、調査の一連のプロセスを自立して実施できるだけの知識・能力を身につけることを目標とする。

●授業の計画（全体） 社会調査の専門的知識を習得しながら、調査の一連の過程を実践する。最終的には、調査データを分析してレポートをとりまとめてもらうか、あるいは、データを利用して修士論文を作成してもらう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** イントロダクション（授業の進め方についての説明）
第 2 回　**項目** 社会調査の方法（基礎知識の確認）
第 3 回　**項目** 調査テーマの設定と調査方法の決定
第 4 回　**項目** 調査の企画（調査全体の手順とスケジュールの決定）
第 5 回　**項目** 仮説構成と調査票の検討（調査項目の洗い出し）
第 6 回　**項目** 調査票の検討
第 7 回　**項目** 調査対象（対象者、フィールド）の決定／サンプリングまたはラポール
第 8 回　**項目** 調査の実施（実査）
第 9 回　**項目** 調査の実施（実査）
第 10 回　**項目** 調査の実施（実査）
第 11 回　**項目** 調査データの処理（コーディング、データ入力）
第 12 回　**項目** 調査データの処理（データ入力）
第 13 回　**項目** 調査データの集計・分析（データクリーニングと単純集計）
第 14 回　**項目** 調査データの集計・分析（クロス集計、グラフ作成）
第 15 回　**項目** データの分析と調査レポートの作成

●成績評価方法 (総合) 授業への参加度（調査プロセス・作業への参加）　60 % 調査レポート　40 %

●教科書・参考書 教科書： 社会調査へのアプローチ (第 2 版）, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 2005 年／参考書： 社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997 年； 社会調査, 森岡清志, 日本評論社, 2000 年； その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス　n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室　人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会調査法演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

●授業の概要 大学院生を対象として、多変量解析の基本的な考え方について講義を行うとともに、実際の調査データを用いながら、分析及びプレゼンの練習を行う。／**検索キーワード** 多変量解析　重回帰分析　パス解析

●授業の一般目標 1．多変量解析の基本的な考え方について学ぶ 2．コンピュータソフトを用いて、実際に多変量解析を行う能力を身につける 3．各自の研究テーマに関して、多変量解析を活用する方法を検討する

●授業の計画（全体） 多変量解析の技法を学ぶだけでなく、実際にそれを用いて、自分の研究をより洗練していく方法を学ぶ。また社会調査士資格認定機構による専門社会調査士資格 I 科目として、量的データの取り扱いにおける調査倫理についても学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** ガイダンス
第 2 回　**項目** 下準備と復習 **内容** パソコン、統計 ソフト、ＷＥＢ 情報等々につい ての解説、基礎 概念についての 復習
第 3 回　**項目** ウォーミングア ップ **内容** 第１章
第 4 回　**項目** 数量化理論 III 類 **内容** 第２章
第 5 回　**項目** 数量化理論 III 類 **内容** 第２章
第 6 回　**項目** 主成分分析 **内容** 第３章
第 7 回　**項目** 因子分析１ **内容** 第４章
第 8 回　**項目** 因子分析２ **内容** 第４章
第 9 回　**項目** クラスター分析 **内容** 第５章
第 10 回　**項目** 復習と中間まと め
第 11 回　**項目** 重回帰分析 **内容** 第６章
第 12 回　**項目** パス解析
第 13 回　**項目** 判別分析 **内容** 第７章
第 14 回　**項目** 多変量解析にお ける問題 **内容** 第９章
第 15 回　**項目** 復習とまとめ

●教科書・参考書 教科書： 入門　多変量解析の実際, 朝野ひろ彦, 講談社, 2000 年

開設科目	社会調査法演習 III	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

●授業の概要 この授業は、日本以外の国に生きる人々の歴史を、オーラル・リサーチの手法を使って研究する 手法とその成果の表現方法について扱う。まず、日本国内の場合には問題にならない出入国等の 行政的手続きや政治情勢が、調査の動向やテーマ選択、ひいては調査の視点そのものをも左右し かねないほど大きな問題であることを押さえる。また、調査者の言語能力、生活能力（衣食住の 条件など）が大きな意味をもつことも確認する。そのうえで、具体的な調査の過程とそこで得ら れた成果の分析、評価、解釈、そして報告に際しての道義的責任などについて考察する。

●授業の一般目標 現代史を、その真っ只中を生きてきた人々の＜語り＞、個人的な記憶（忘却と捏造）と経験を 人々の口から導き出すことで、公文書や、教科書的な公けの歴史とは異なる動的なものとして捉 えることを目的とする。

●授業の計画（全体） 技術面や方法論を扱う部分が半分くらいを占めるが、その場合にも、抽象的な説明ではなく、ネ パール、インドでの調査を事例にとりあげつつ、実際に作成された資料等を読み込む作業も行な う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (1)
第 2 回　**項目** 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (2)
第 3 回　**項目** 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (1)
第 4 回　**項目** 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (2)
第 5 回　**項目** テーマおよび調査地選定の方法と課題 (1)
第 6 回　**項目** テーマおよび調査地選定の方法と課題 (2)
第 7 回　**項目** インフォーマント探しとネットワーク形成 (1)
第 8 回　**項目** インフォーマント探しとネットワーク形成 (2)
第 9 回　**項目** 関連資料・史料の収集と特定 (1)
第 10 回　**項目** 関連資料・史料の収集と特定 (2)
第 11 回　**項目** 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど）(1)
第 12 回　**項目** 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど）(2)
第 13 回　**項目** 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(1)
第 14 回　**項目** 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(2)
第 15 回　**項目** 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか）(3)

●成績評価方法 (総合) 出席、授業への参加度、期末試験の 3 つを総合的に評価する。

地域文化専攻　博物・芸術論

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

●授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は，大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では，特に石器と鉄器という物質文化に注目し，弥生社会の形成過程を概観する。具体的には，日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通，鉄器の流入と生産，石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は，上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが，取り扱う個別の考古資料および題材は，毎年・開講学期毎に異なる。／**検索キーワード** 考古学，石器，鉄器，弥生時代，生産と流通

●授業の一般目標 1. 事例研究の一つとして，石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。 2. 遺物および遺構のデータを操作して，社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。 3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し，自らの理論を構築する力を養う。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。
思考・判断の観点： A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。 B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し，自らの考えを論理的に説明できる。

●授業の計画（全体） 【弥生時代の石器・鉄器】 弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ，石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で，集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し，製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では，遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら，山口県や福岡県西部地域の状況を中心に取り扱う。後期の講義では，前期に整理した基本的な事項を基礎として，九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。 ＜留意点＞開講期の設定は半期だが，講義の編成は実質的に通年であるため，通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので，後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが，受講生の理解のために必要と判断すれば，遺物実測図の並べ替えといった，作業を伴うような時間を設定する。また，時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので，受講生は考古学概説の単位を取得するか，同等の知識を習得しておくこと。

●成績評価方法 (総合) 小テスト・授業内レポート 10 %，授業外レポート 90 %。

●教科書・参考書 参考書： 石器入門事典－先土器－・－縄文－, 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助, 柏書房, 1991 年； 倭人と鉄の考古学, 村上恭通, 青木書店, 1998 年； 考古資料大観　第９巻　弥生・古墳時代　石器・石製品・骨角器, 北条芳隆・禰宜田佳男　監修, 小学館, 2002 年； 石器研究入門, 大沼克彦・西秋良宏，鈴木美保　訳, クバプロ, 1998 年； ここにあげたものは，特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●メッセージ 石器や鉄器などの，個別の遺物について詳細に解説する場合や，あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には，講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ，あるいは意図のわかりにくいところなどは，講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日７・８時限

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

●授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は，大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では，特に石器と鉄器という物質文化に注目し，弥生社会の形成過程を概観する。具体的には，日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通，鉄器の流入と生産，石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は，上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが，取り扱う個別の考古資料および題材は，毎年・開講学期毎に異なる。／**検索キーワード** 考古学，石器，鉄器，弥生時代，生産と流通

●授業の一般目標 1. 事例研究の一つとして，石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。 2. 遺物および遺構のデータを操作して，社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。 3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し，自らの理論を構築する力を養う。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。
思考・判断の観点： A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。 B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し，自らの考えを論理的に説明できる。

●授業の計画（全体） 【弥生時代の石器・鉄器】 弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ，石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で，集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し，製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では，遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら，山口県や福岡県西部地域の状況を中心に取り扱う。後期の講義では，前期に整理した基本的な事項を基礎として，九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。 ＜留意点＞開講期の設定は半期だが，講義の編成は実質的に通年であるため，通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので，後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが，受講生の理解のために必要と判断すれば，遺物実測図の並べ替えといった，作業を伴うような時間を設定する。また，時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので，受講生は考古学概説の単位を取得するか，同等の知識を習得しておくこと。

●成績評価方法 (総合) 小テスト・授業内レポート 10 %，授業外レポート 90 %。

●教科書・参考書 参考書： 石器入門事典－先土器－・－縄文－, 加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助, 柏書房, 1991 年； 倭人と鉄の考古学, 村上恭通, 青木書店, 1998 年； 考古資料大観　第９巻　弥生・古墳時代　石器・石製品・骨角器, 北条芳隆・禰宜田佳男　監修, 小学館, 2002 年； 石器研究入門, 大沼克彦・西秋良宏，鈴木美保　訳, クバプロ, 1998 年； ここにあげたものは，特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●メッセージ 石器や鉄器などの，個別の遺物について詳細に解説する場合や，あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には，講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ，あるいは意図のわかりにくいところなどは，講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日７・８時限

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 縄紋・弥生過渡期の土器研究； 縄紋土器の終末と初期弥生土器が、どのような関係にあるのか、比較研究をする。ここ でいう比較とは、年代的な分野のみならず、文化的な比較を遺物である土器をつうじ て、対照することである。授業は、毎回配布するプリントに収録する土器を検討しなが ら、全体として日本列島を東から西に進行する予定である。／**検索キーワード** 遠賀川式土器　条痕紋土器 刻目突帯文土器

●**授業の一般目標** 1. 縄紋時代・弥生時代の基本的な概念を検討する。 2. 型式学の実践的な方法を修得する。 3. 資料の扱い方を学ぶ。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 考古学における文化変化にかんする基本概念を理解する。　**思考・判断の観点：** 研究が到達した問題点を理解する。　**関心・意欲の観点：** 学説について修得する。　**態度の観点：** 根本的な資料にさかのぼる姿勢を身につける。　**技能・表現の観点：** 資料を図、言語で表現できる。　**その他の観点：** 発掘報告書を批判的に読みこなせる。

●**授業の計画（全体）** 山口県地方の縄紋晩期・弥生土器を遺跡ごとに取り上げて、既知の報告とつきあわせながら検討する。毎回、取り上げる遺跡を変え、資料を配付する。後半には西に移動し、九州地方まで取り上げる予定である。

●**成績評価方法 (総合)** 授業は特殊な講義であるから、成績の評価は受講生独自の研究を期末にレポートとし て提出していただき、その成果・到達度を判定する。従って、あまりにも難解なテー マ、逆にあまりにも容易、簡単なテーマを選ばずに、あらかじめ十分に勉強し、正しく 理解の及ぶ範囲の内容を徹底的に調べたかどうかが、評価のポイントとなる。

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配布。／ 参考書： 授業中に言及する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp　研究室：人文学部３階　オフィスアワー月曜日 16:10 〜17.40

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 縄紋・弥生過渡期の土器研究； 縄紋土器の終末と初期弥生土器が、どのような関係にあるのか、比較研究をする。ここ でいう比較とは、年代的な分野のみならず、文化的な比較を遺物である土器をつうじ て、対照することである。授業は、毎回配布するプリントに収録する土器を検討しなが ら、日本列島を東から西に進行する予定である。／**検索キーワード** 遠賀川式土器　刻目突帯文土器

●**授業の一般目標** 1. 考古学の研究がどのように進行するのか、実践的に修得する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 文化の変化の基礎概念を理解する。　**思考・判断の観点：** 従来の研究が到達した問題点を理解する。　**関心・意欲の観点：** 考古学的な方法について、興味をもつ。　**態度の観点：** 資料を根本にさかのぼって検討することができる。　**技能・表現の観点：** 遺跡。遺物を図や言語で表現できる。　**その他の観点：** 発掘報告書を批判的に読みこなせる。

●**授業の計画（全体）** 前期の授業の継続であり、九州地方を予定している。とくに弥生時代との関連に注意し、地域性を指摘する。代表的な資料については、取材を終了しているので、順次講義のなかで紹介してゆくつもりである。

●**成績評価方法 (総合)** 成績の評価は主に期末のレポートによって判定する。この授業の主題は特殊なものであ るから、受講生も考古学にかんする範囲で、自由に特殊な主題を扱い、その研究成果を 提出しなくてはならない。

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配布。／ 参考書： 突帯文と遠賀川, 土器持寄会論文集刊行会, , 2000 年； 授業中に言及する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp　研究室：人文学部３階　オフィスアワー月曜日 16:10 〜17.40

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和田　晴吾				

●**授業の概要** 弥生墳丘墓と古墳の研究；日本列島における本格的な水稲農耕社会の定着から、古代国家成立までの長い歴史過程を考古学的に理解するために、弥生時代から古墳時代にかけて墳丘墓（墳丘をもつ墓）を、さまざまな視点から比較検討し、弥生墳丘墓３段階、古墳５段階として捉えて、各段階・各画期の意味を考える。／**検索キーワード** 弥生墳丘墓　古墳　首長連合体制　首長制　初期国家

●**授業の一般目標** ・弥生時代や古墳時代の墳丘墓について、できるだけ多くの知識を身につける。 ・分析方法を明確にして話をするので、考古学的な研究法について理解する。 ・この分野での、現在の到達点と課題を知る。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 関連する考古資料をできるだけ多く知る。　**思考・判断の観点：** 具体的に、論理的に考える習慣を身につける。　**関心・意欲の観点：** 自分でやるからおもしろい、ということを知る。　**態度の観点：** 集中力を高め、熱中する。　**技能・表現の観点：** 図表の大切さを知る。

●**授業の計画（全体）** ・集中講義で行う。 ・毎時間、レジュメを用意し、それを基本に話を進める。 ・５日間なので、弥生墳丘墓２日、古墳３日を予定している。

●**成績評価方法 (総合)** 授業外レポート（テーマは授業中に述べる）

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 「古墳文化論」『日本史講座』第１巻, 和田晴吾, 東京大学出版会, 2004 年

●**備考** 集中授業

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 比較考古学演習： 考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。資料検索の方法、およびその取り扱いが考古学の正規の手順に則るように指導するが、 主な分野は図書で独学では修得不可能な分野に力点を置く。

●**授業の一般目標** 1．専門的な論文が読めるようになる。 2．専門的な論文が書けるようになる。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 従来の学説を承知する。 **思考・判断の観点：** 問題点を明確に整理する。 **関心・意欲の観点：** 徹底した資料収集をはかる。 **態度の観点：** 論点の公共化を図る。 **技能・表現の観点：** 資料の適正な表現法を修得する。

●**授業の計画（全体）** 受講生に年間研究計画を立てさせ、それに従って進行するように務める。

●**成績評価方法 (総合)** 演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席 率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、 周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普 通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究 が前進できればよしとする。

●**教科書・参考書** 教科書： 指定せず。／ 参考書： 授業中に紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部３階 オフィスアワー月曜日 16:10〜17.40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 比較考古学演習： 考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にした がう。その取り扱いが考古学の正規の手順に則るようにこころがける。

●**授業の一般目標** １．専門的な論文が読めるようになる。 ２．専門的な論文が書けるようになる。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 従来の学説を承知する。 **思考・判断の観点：** 問題点を整理し、明確化する。 **関心・意欲の観点：** 資料収集の徹底を図る。 **態度の観点：** 論点の公共化をはかる。 **技能・表現の観点：** 効果的な表現法の修得する。

●**授業の計画（全体）** 研究計画を事前にたずね、それに従って進行する。特に苦手とおもう分野があれば、指導が対応できれば、改善するから申し出が可能である。

●**成績評価方法 (総合)** 演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率 がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周 到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普 通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究 が前進できればよしとする。

●**教科書・参考書** 教科書： 指定せず。／ 参考書： 授業中に紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部３階 オフィスアワー 月曜日 16:10 〜17.40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では，受講生の研究の進捗状況を確認するとともに，考古学的な方法論の指導，具体的な資料操作方法についての指導を行う。

●**授業の一般目標** 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。 2. 事例研究を行い，発表，討議することで，プレゼンテーションの技術を高めるとともに，いわゆるディベイトの能力を訓練する。 3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ，修士論文につながる研究成果を導き出す。

●**授業の到達目標／　技能・表現の観点：** A. 考古資料に対して，より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程，結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で，的確な受け答えができる。

●**授業の計画（全体）** 【考古学の諸問題】 受講生は，各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は，レジメの図版の組み方，図表類の効果的な使用を心がける。発表については，受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

●**成績評価方法 (総合)** 受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。

●**メッセージ** 研究を進展させ，学外の調査研究機関に資料調査に行く機会，あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので，各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し，多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い，全力で行ってください。可能であれば，発表者は，パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を１回以上行ってください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日７・８時限

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では，受講生の研究の進捗状況を確認するとともに，考古学的な方法論の指導，具体的な資料操作方法についての指導を行う。

●**授業の一般目標** 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。 2. 事例研究を行い，発表，討議することで，プレゼンテーションの技術を高めるとともに，いわゆるディベイトの能力を訓練する。 3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ，修士論文につながる研究成果を導き出す。

●**授業の到達目標／　技能・表現の観点：** A. 考古資料に対して，より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程，結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で，的確な受け答えができる。

●**授業の計画（全体）** 【考古学の諸問題】 受講生は，各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は，レジメの図版の組み方，図表類の効果的な使用を心がける。発表については，受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

●**成績評価方法 (総合)** 受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 100 %。

●**メッセージ** 研究を進展させ，学外の調査研究機関に資料調査に行く機会，あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので，各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し，多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い，全力で行ってください。可能であれば，発表者は，パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を１回以上行ってください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日７・８時限

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津　聖				

●**授業の概要** 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。／**検索キーワード** イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学、美術史

●**授業の一般目標** 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

●**授業の到達目標／　態度の観点：** 授業への主体的参加　**技能・表現の観点：** プレゼンテーションとレポート

●**授業の計画（全体）** 美術史の基礎文献の収集と講読

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 序論　オリエン テーション **内容** 講義内容、履修 方法等の説明。 Web 上の美學関連資料の紹介。 活用。
第 2 回　**項目** 美術史とは何か 1 **内容** 簡単な美術史の歴史の解説 1
第 3 回　**項目** 美術史とは何か 2 **内容** 簡単な美術史の歴史の解説 2
第 4 回　**項目** 美術史とは何か 3 **内容** 簡単な美術史の歴史の解説 3
第 5 回　**項目** 資料の収集方法 1 **内容** Web の利用法 1
第 6 回　**項目** 資料の収集方法 2 **内容** Web の利用法 2
第 7 回　**項目** 資料の収集方法 3 **内容** Web の利用法 3
第 8 回　**項目** 資料の収集方法 4 **内容** Web の利用法 4
第 9 回　**項目** 資料の収集方法 5 **内容** Web の利用法 5
第 10 回　**項目** 未定 **内容** 未定
第 11 回　**項目** 未定 **内容** 未定
第 12 回　**項目** 未定 **内容** 未定
第 13 回　**項目** 未定 **内容** 未定
第 14 回　**項目** 未定 **内容** 未定
第 15 回　**項目** 終論　エピロー グ **内容** 講義の補足と総 括。

●**成績評価方法 (総合)** レポートを随時提出

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／ 参考書： 参考文献は、講義中に提示する。

●**メッセージ** 教科書は無い。プリント資料を配布。

●**連絡先・オフィスアワー** okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津　聖				

●**授業の概要** 芸術について考察するための資料の収集と蓄積の具体的な方法を探求。主として英文と日文の資料を講読。本年度は、実習や講読に近い形で講義を進める予定。受講生は何らかの形で講義に参画することが要請される。／**検索キーワード** イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学

●**授業の一般目標** 論文制作の準備段階としての資料の収集と蓄積を実践するためのノウハウを身につけること。

●**授業の到達目標／　技能・表現の観点：** プレゼンテーションとレポート

●**授業の計画（全体）** 美術史の文献の収集と講読

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 序論　オリエン テーション **内容** 講義内容、履修 方法等の説明。 Web 上の美學関連資料の紹介。 活用。
第 2 回　**項目** 美學とは何か 1 **内容** 簡単な美學の歴史の解説 1
第 3 回　**項目** 美學とは何か 2 **内容** 簡単な美學の歴史の解説 2
第 4 回　**項目** 美術史とは何か 1 **内容** 簡単な美術史の歴史の解説 1
第 5 回　**項目** 美術史とは何か 2 **内容** 簡単な美術史の歴史の解説 2
第 6 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 7 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 8 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 9 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 10 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 11 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 12 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 13 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 14 回　**項目** 講読とプレゼンテーション **内容** 内容未定
第 15 回　**項目** 終論　エピロー グ **内容** 講義の補足と総 括。

●**成績評価方法 (総合)** プレゼンテーションとレポート

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書 プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／ 参考書： 参考文献は、講義中に提示する。

●**メッセージ** 教科書は無い。プリント資料を配布。

●**連絡先・オフィスアワー** okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部　一直				

●**授業の概要** メディア・アートについて紹介します／**検索キーワード** メディア・アート，YCAM

●**授業の一般目標** メディア・アートに親しむこと．表現内容を読み取ること

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** メディア・アートに関する基礎的な用語が説明できる　**思考・判断の観点：** 表現内容を読み取り，自ら考えを展開することができる　**関心・意欲の観点：** メディア・アート独自の可能性，今後の展開に関心をもつ　**技能・表現の観点：** 作品に対する自分の考えを論理的に表現できる

●**授業の計画（全体）** 歴史的経緯から，最新事情まで幅広く取り上げます

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** オリエンテーション
第 2 回　**項目** 事例研究 1
第 3 回　**項目** 事例研究 2
第 4 回　**項目** 事例研究 3
第 5 回　**項目** 事例研究 4
第 6 回　**項目** 中間まとめ
第 7 回　**項目** 事例研究 5
第 8 回　**項目** 事例研究 6
第 9 回　**項目** 事例研究 7
第 10 回　**項目** 事例研究 8
第 11 回　**項目** 事例研究 9
第 12 回　**項目** 事例研究 10
第 13 回　**項目** 総括
第 14 回
第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** レポートにより評価します

●**教科書・参考書** 参考書： 講義の中で適宜紹介します

●**備考** 集中授業

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル 画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したの ち、特に 1990 年代以降のグローバリゼーションの影響について、ヨーロッパとアジアとの 対比の中で見ていきます。／ **検索キーワード** 国際美術展、現代美術、グローバリゼーション、ビエンナリゼーション

●**授業の一般目標** (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 現代美術に関心をもつ。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 現代美術の面白さ、展覧会の面白さがわかる。2. 代表的な国際美術展につい て簡単な説明ができる。 **思考・判断の観点：** 1. 幅広く深い教養を背景に、美術作品の好悪巧拙の判断ができる。2. 国際美術 展について肯定的な側面と課題とを指摘できる。 **関心・意欲の観点：** 1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。 **態度の観点：** 1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会に は実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展 を訪れる。

●**授業の計画（全体）** 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観する。中盤は毎回１ つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行う。 後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展におけるグローバリゼーション の問題を究明する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション
第 2 回 **項目** 事例研究１
第 3 回 **項目** 事例研究２
第 4 回 **項目** 事例研究３
第 5 回 **項目** 事例研究４
第 6 回 **項目** 事例研究５
第 7 回 **項目** 中間まとめ
第 8 回 **項目** 事例研究６
第 9 回 **項目** 事例研究７
第 10 回 **項目** 事例研究８
第 11 回 **項目** 事例研究９
第 12 回 **項目** 総括
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： ヴェネツィアと日本：美術をめぐる交流, 石井元章著, ”ブリュッケ, 星雲社（発売）”, 1999 年；『12 人の挑戦―大観から日比野まで』、茨城新聞社、2002 年 石井元章『ヴェネツィアと日本―美術をめぐる交流』、ブリュッケ、1999 年 『ヴェネツィア・ビエンナーレ―日本参加の 40 年』、国際交流基金、毎日新聞 社、1995 年、ほか講義の中で随時紹介する。

●**メッセージ** 「ビエンナリゼーション」という呼ばれ方で、アートの世界でもグローバリゼ ーションが進んでいます。現代美術の明日はどっちだ!?

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** この講義では、2004 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、 作家について解説します。／**検索キーワード** 展覧会企画、現代美術、近代美術、西欧美術

●**授業の一般目標** (1) 各展覧会の企画趣旨について理解を深める。(2) 美術に関心をもつ。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 作品や展覧会の面白さがわかる。2. 美術史の基本的な用語を作品に即して説 明できる。 **思考・判断の観点：** . 展覧会のテーマが社会に投げかける問いを読み解き、自らの考えを述べるこ とができる。2. 展覧会企画における現実的な制約と先取的な企図とのせめぎあ いを看取できる。 **関心・意欲の観点：** 1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。 **態度の観点：** 1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会に は実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展 を訪れる。

●**授業の計画（全体）** 基本的に各週１つの展覧会を紹介します。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション
第 2 回 **項目** 事例研究１
第 3 回 **項目** 事例研究２
第 4 回 **項目** 事例研究３
第 5 回 **項目** 事例研究４
第 6 回 **項目** 事例研究５
第 7 回 **項目** 事例研究６
第 8 回 **項目** 事例研究７
第 9 回 **項目** 事例研究８
第 10 回 **項目** 事例研究９
第 11 回 **項目** 事例研究 10
第 12 回 **項目** 総括
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●**メッセージ** 実戦経験を積んで強くなってください。芸術論における実戦経験とは、すなわ ち、作品を前にあなたが何を感じることができるか、です。むしろあなたが作 品から挑まれている、と想像してみてください。さぁ、展覧会へ出掛けましょ う！

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津聖				

●授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読／**検索キーワード** 修士論文

●授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読

●授業の到達目標／　思考・判断の観点： 独自の方法論の模索

●授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の 場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

●**授業の一般目標** 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 **思考・判断の観点：** 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 **関心・意欲の観点：** 身の周りのさまざまな物事に対して常に問題意識をもつ。 **態度の観点：** 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実 に実現できる。

●**授業の計画（全体）** 1 人の発表者が 1〜3 週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別 の学生による発表と討議、と続けます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション
第 2 回 **項目** 研究発表 1
第 3 回 **項目** 研究発表 2
第 4 回 **項目** 研究発表 3
第 5 回 **項目** 研究発表 4
第 6 回 **項目** 研究発表 5
第 7 回 **項目** 中間討議
第 8 回 **項目** 研究発表 6
第 9 回 **項目** 研究発表 7
第 10 回 **項目** 研究発表 8
第 11 回 **項目** 研究発表 9
第 12 回 **項目** 総括
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** 発表内容と期末レポートによって評価します。

●**教科書・参考書** 参考書： 適宜紹介します。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津聖				

●授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読／**検索キーワード** 修士論文

●授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読

●授業の到達目標／　思考・判断の観点： 独自の方法論の模索

●授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の 場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。

●**授業の一般目標** 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 **思考・判断の観点：** 自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 **関心・意欲の観点：** 身の周りのさまざまな物事に対して常に問題意識をもつ。 **態度の観点：** 適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実 に実現できる。

●**授業の計画（全体）** 1 人の発表者が 1〜3 週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別 の学生による発表と討議、と続けます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション
第 2 回 **項目** 研究発表
第 3 回 **項目** 研究発表
第 4 回 **項目** 研究発表
第 5 回 **項目** 研究発表
第 6 回 **項目** 研究発表
第 7 回 **項目** 中間討議
第 8 回 **項目** 研究発表
第 9 回 **項目** 研究発表
第 10 回 **項目** 研究発表
第 11 回 **項目** 研究発表
第 12 回 **項目** 総括
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** 発表内容と期末のレポートによって評価します。

●**教科書・参考書** 参考書： 適宜紹介します。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

言語文化専攻　日本語学文学論

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

●**授業の概要** 「日本の方言」 日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。／**検索キーワード** 方言の形成, 方言研究の意義、方言の分布

●**授業の一般目標** 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 日本語の方言の形成、変化、特徴について理解を深める。 **思考・判断の観点：** 日本語の方言についての分析視点を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 日本語の方言の意義を再認識する。

●**授業の計画（全体）** 方言の概念規定、方言の意義、方言研究の意義、方言形成の要因などについて述べる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 導入
第 2 回 **項目** 方言とは何か
第 3 回 **項目** 方言の形成
第 4 回 **項目** 方言の形成
第 5 回 **項目** 方言の形成
第 6 回 **項目** 方言の形成
第 7 回 **項目** 方言の形成
第 8 回 **項目** 方言研究の意義
第 9 回 **項目** 方言研究の意義
第 10 回 **項目** 方言研究の意義
第 11 回 **項目** 方言研究の意義
第 12 回 **項目** 方言研究の意義
第 13 回 **項目** 方言研究の意義
第 14 回 **項目** 方言研究の意義
第 15 回 **項目** 前期筆記試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験、質問カード の内容、出席

●**教科書・参考書** 教科書： 新しい国語学, 佐田智明他, 朝倉書店, 1988 年

●**メッセージ** 日本語の方言はかけがえのないことば

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部５階（083-933-5249） オフィスアワー火曜日 13:00〜14:30

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

●**授業の概要** 「日本の方言」 日本語方言の形成過程やその特徴を考えながら、方言研究の意義を明らかにする。／**検索キーワード** 東西方言の境界線、東西方言の特徴、各地の方言

●**授業の一般目標** 日本語の方言とは何か、その特徴・意義を考える。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 日本語の方言の形成、変化、特徴について理解を深める。 **思考・判断の観点：** 日本語の方言についての分析視点を獲得する。 **関心・意欲の観点：** 日本語の方言の意義を再認識する。

●**授業の計画（全体）** 方言の概念規定、方言の意義、方言研究の意義、方言形成の要因などについて述べる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 東西方言の分布境界線
第 2 回 **項目** 東西方言の分布境界線
第 3 回 **項目** 東西方言の分布境界線
第 4 回 **項目** 東西方言の特徴
第 5 回 **項目** 東西方言の特徴
第 6 回 **項目** 東西方言の特徴
第 7 回 **項目** 日本各地の方言
第 8 回 **項目** 日本各地の方言
第 9 回 **項目** 日本各地の方言
第 10 回 **項目** 日本各地の方言
第 11 回 **項目** 日本各地の方言
第 12 回 **項目** 日本各地の方言
第 13 回 **項目** 方言調査法
第 14 回 **項目** 方言調査法
第 15 回 **項目** 後期筆記試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験、質問カードの内容、出席

●**教科書・参考書** 教科書： 新しい国語学, 佐田智明他, 朝倉書店, 1988 年

●**メッセージ** 日本語の方言はかけがえのないことば

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部５階（083-933-5249）オフィスアワー火曜日 13:00〜14:30

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 日本語学特殊講義の前期概要に準ずる 大学院生にとっては、修士論文の作成のヒントになるような授業になるようにする。／**検索キーワード** 日本語教授法、エンカウンター

●**授業の一般目標** 日本語学特殊講義前期に準ずる。 大学院生としては、自ら構成的グループ・エンカウンターの実施者として、リーダーシップを 発揮できるようにする。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １、構成的グループ・エンカウンターと類似の活動との異同について説明できる。 ２、人間関係づくり、リレーションづくりのしかけとしくみを理解する。 ３、日本語教育とカウンセリングの接点について理解を深める。 **思考・判断の観点：** 特殊講義に同じ **関心・意欲の観点：** 特殊講義に同じ **態度の観点：** 特殊講義に同じ **技能・表現の観点：** １、他者の立場を尊重しながらも、説得力のある自己主張をする。 ２、簡潔に自分の意見を述べ、書けるようにする。 ３、質問力を身につけ、日本語教授法につながる技法を身につける。

●**授業の計画（全体）** 特殊講義に準ずる

●**成績評価方法 (総合)** 出席とレポートを重視し、テストはしない。

●**教科書・参考書** 参考書： エンカウンターで学級が変わる・ショートエクササイズ集, 林伸一ほか, 図書文化, 1999 年； 多文化共生時代の日本語教育, 縫部義憲, 瀝々社, 2002 年； エンカウンターとは何か, 国分康孝他, 図書文化, 2000 年； エンカウンタースキルアップ, 国分康孝ほか, 図書文化, 2001 年； 質問力, 齋藤孝, 筑摩書房, 2003 年

●**メッセージ** 日本語教師志望者、留学生歓迎

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2 階 210- 2 号室（研究室), オフィスアワー木曜：11 時〜12 時
E-mail:hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 − 6415 − 8203

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 日本語学特殊講義後期の授業概要に準ずる／**検索キーワード** 日本語教授法、エンカウンター

●**授業の一般目標** 同上

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 特殊講義に準じる **思考・判断の観点：** 同上 **関心・意欲の観点：** 同上 **態度の観点：** 同上 **技能・表現の観点：** 同上

●**授業の計画（全体）** 特殊講義に準ずる

●**成績評価方法 (総合)** 特殊講義に準ずる

●**教科書・参考書** 教科書： 特殊講義に同じ／ 参考書： 特殊講義に同じ

●**メッセージ** 日本語教師志望者、留学生歓迎、他学科・他コースの学生歓迎

●**連絡先・オフィスアワー** 前期に同じ

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

●**授業の概要** ～待遇表現 (1)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

●**授業の一般目標** 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 **思考・判断の観点：** 日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 **関心・意欲の観点：** 授業に対する取り組みを判断する。

●**授業の計画（全体）** ○「待遇表現」とは ○「待遇表現」の種類 ○敬語と「待遇表現」 ○人称代名詞 ○人物の呼称 ○現代敬語の性格 ○敬語の持つ効果 ○敬語の分類 ○美化語とは

●**成績評価方法 (総合)** 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は使用しない。

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

●授業の概要 ～待遇表現 (2)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。

●授業の一般目標 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身についているかを判断する。 **思考・判断の観点：** 日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 **関心・意欲の観点：** 授業に対する取り組みを判断する。

●授業の計画（全体） 諸外国語と比較した日本語の特徴として、よく「敬語」の複雑さが話題となるが、この授業では「敬語」を「待遇表現」の一部として扱い、その性格について、現代語の場合を中心に、日本語史的な観点も取り入れながら考察を加える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 **項目** 美化語の形式（１）
第 2 回 **項目** 美化語の形式（２）
第 3 回 **項目** 接頭辞｛お」「ご」の用法（１）
第 4 回 **項目** 接頭辞｛お」「ご」の用法（２）
第 5 回 **項目** 準敬語とは
第 6 回 **項目** 丁寧語の用法（１）
第 7 回 **項目** 丁寧語の用法（２）
第 8 回 **項目** 尊敬語の用法（１）
第 9 回 **項目** 尊敬語の用法（２）
第 10 回 **項目** 謙譲語の用法（１）
第 11 回 **項目** 謙譲語の用法（２）
第 12 回 **項目** 丁重語とは
第 13 回 **項目** 問題となる敬語表現（１）
第 14 回 **項目** 問題となる敬語表現（２）
第 15 回 **項目** テスト

●成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。

●教科書・参考書 教科書： 特定の教科書は使用しない。 随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	友定　賢治				

●**授業の概要** 言語研究において、これまで中心であった言語素材（カタチ）の研究から、運用（ハタラキ）の研究へと関心が移りつつある。本講義においては、現代の言語生活において、方言と共通語がどのように運用されているのかを見つめてみたい。方言や共通語を、どのような必要からどのように習得し、どのような場でどのように運用しているのかを考えていく。また、音声コミュニケーションという立場からの研究が、言語研究の幅を広げていくことを明らかにしたい。

●**授業の一般目標** 言語研究の動向を捉え、方言や共通語の習得と運用の様相を資料に基づいて考察することによって、言語形式だけに注目する見方から、音声コミュニケーション的な見方が出来るようになることを目的とする。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** (1) 言語 (方言) 研究の動向を把握する。 (2) 音声コミュニケーションの研究状況を把握する。 **思考・判断の観点：** 方言と共通語の習得と運用を資料に基づいて考察し、その運用規則を明らかにする。 **関心・意欲の観点：** 音声コミュニケーション的な見方に関心をもち、その実態を把握しようとする意欲を持つ。 **態度の観点：** 資料をどのように解釈していくか、積極的に自らの意見を発表する。 **技能・表現の観点：** 個人やグループで発表することを求めるので、プレゼンテーション技能を高めるように努力する。

●**授業の計画（全体）** 以下のような順ですすめていく。 1. 言語 (方言) 研究の未開拓分野 2. 言語 (方言・共通語) 習得の様相 3. 言語 (方言・共通語) 運用の様相 4. 音声コミュニケーションとその地域性 5. コミュニケーションの行方

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 言語 (方言) 研究の未開拓分野 (1) **内容** 未開拓分野として (談話研究」「言語運用」「ハタラキ」をあげて説明する。
第 2 回　**項目** 言語 (方言) 研究の未開拓分野 (2) **内容** 未開拓分野として (談話研究」「言語運用」「ハタラキ」をあげて説明する。
第 3 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の習得 (1) **内容** 習得の場 (1)　家庭
第 4 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の習得 (2) **内容** 習得の場 (2)　学校・友人
第 5 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の習得 (3) **内容** 習得の場 (3)　地域社会
第 6 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の習得 (4) **内容** 習得の場 (4)　通勤・通学・マスコミ等
第 7 回　**項目** 音声コミュニケーション的な見方とは **内容** 音声コミュニケーション的な見方によって、方言研究の幅が広がることを明らかにする。
第 8 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の運用 (1) **内容** 言語的弱者に対する運用の特徴
第 9 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の運用 (2) **内容** 「公」と「私」
第 10 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の運用 (3) **内容** 「親」のミュニケーション
第 11 回　**項目** 言語 (方言・共通語) の運用 (4) **内容** 「改まり」のコミュニケーション
第 12 回　**項目** コミュニケーションの地域性 (1) **内容** 関西弁の広がりの意味するもの
第 13 回　**項目** コミュニケーションの地域性 (2) **内容** 感動詞の用法に関する地域性
第 14 回　**項目** コミュニケーションの行方 **内容** 「日本語のポストモダン」について考える。
第 15 回　**項目** まとめ **内容** 講義全体から、これからの日本語研究の方向性について考える。

●**成績評価方法 (総合)** 授業終了後に課すレポートと出席状況、それに授業への参加態度によって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する。

●**備考** 集中授業

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

●授業の概要 『音曲玉淵集』を読む。／**検索キーワード** 近世音韻史資料、三浦庚妥

●授業の一般目標 これにより、日本語の音韻史の中世から近世にかけて、そして現代への変化を実際に 読みとる。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 中世日本語の音韻の実態を知る。 **思考・判断の観点：** 中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する **関心・意欲の観点：** 自国の言語の歴史を再認識する。

●授業の計画（全体） 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 2 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 3 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 4 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 5 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 6 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 7 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 8 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 9 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 10 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 11 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 12 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 13 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 14 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 15 回 **項目** レポート

●成績評価方法 (総合) 出席、レポートの内容

●教科書・参考書 教科書： 音曲玉淵集, 浜田敦編著, 臨川書店, 1975 年； 添田研究室の『音曲玉淵集』（臨川書店）

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部５階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00〜14:30 研究室：人文学部５階 オフィスアワー：火曜日 10:00〜12:00 研究室：人文学部５階 オフィスアワー：10:00〜12:00

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

●授業の概要 『音曲玉淵集』を読む。／**検索キーワード** 近世音韻史資料、三浦庚妥

●授業の一般目標 これにより、日本語の音韻史の中世から近世にかけて、そして現代への変化を実際に 読みとる。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 近世記日本語の音韻の実態を知る。 **思考・判断の観点：** 中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する **関心・意欲の観点：** 自国の言語の歴史を再認識する。

●授業の計画（全体） 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 2 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 3 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 4 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 5 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 6 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 7 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 8 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 9 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 10 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 11 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 12 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 13 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 14 回 **項目** 音曲玉淵集（巻一）
第 15 回 **項目** レポート

●成績評価方法 (総合) 出席、レポートの内容

●教科書・参考書 教科書： 音曲玉淵集, 浜田敦編著, 臨川書店, 1975 年； 添田研究室の『音曲玉淵集』（臨川書店）

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部５階（083-933-5249）オフィスアワー：火曜日 13:00〜14:30

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 主に日本語教育、日本語教授法関連の学術論文、実践報告を材料に大学院生レベルの演習をおこなう。特に修士論文の作成に直結するような内容の検討を相互に実施する。／**検索キーワード** 論文化、研究発表

●**授業の一般目標** １、学術論文、実践報告を批判的に読む。 ２、修士論文のテーマを明確にしながら、その目的と意義を考える。 ３、修士論文の研究方法と手順について検討する。 ４、修士論文のデータの取り方、処理のしかたを検討する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １、論文とエッセーの違い ２、学術論文と報告書の違い ３、先行研究とオリジナリティの関係 ４、論文と教科書風記述の問題 **思考・判断の観点：** １、論旨の一貫性 ２、放射思考としてのマインドマップの活用 ３、一般論に対して適切な具体例の提示 **関心・意欲の観点：** １、テーマに関する関心と意欲 ２、研究方法に関する関心と意欲 ３、表現方法に関する関心と意欲

●**授業の計画（全体）** 上記のような授業の各目標を達成するために授業を対話的なゼミ形式で進めていく。例えば「論文とエッセイーの違い」など二項対立的な問いをペアワーク形式で考えていく。 院生一人一人の興味と関心に合わせて、具体的な課題を設定し、ディスカッションする。 学術論文産出に貢献するような形で、検討とアドバイスを積み重ねていく。

●**成績評価方法 (総合)** 出席と論文発表・授業内小レポート（質問・感想カード）を重視し、テストはしない。

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配布／ 参考書： プリント配布

●**メッセージ** 事実を発見し、育み、発表して形にする知の広場としてのゼミナール。 地道に探求し、独自性を尊重する態度を大切にしたい。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2 階 210 － 2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時-12 時
E-mail:hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 － 6145 － 8203

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

●**授業の概要** 前期概要に準ずるが、その発展として、修士論文の内容の吟味をする 実際に修士論文の一部を取り出し、先行的に研究を試行してみる できれば学会発表を経験するための準備をする／**検索キーワード** 前期に同じ

●**授業の一般目標** １、学会発表を想定して、発表申請書を作成する。 ２、学会発表のためのハンドアウトを作成する。 ３、学会発表のリハーサルをゼミで実施する。 ４、指摘された不十分な点を補い、内容を修正する。 ５、学会発表の積み重ねで、修士論文を作成する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １、先行研究の知識と理解 ２、仮説と検証の関係 **思考・判断の観点：** １、独話論の世界に入り込んでいないか ２、序論ー本論ー結論といった論文の構成の適否 **技能・表現の観点：** １、図や表の処理の技能 ２、文章表現能力

●**授業の計画（全体）** 上記の目標を達成するための演習を対話的ゼミナール形式で行なう。

●**成績評価方法 (総合)** 出席と発表を重視し、テストは行なわない。

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配布／ 参考書： プリント配布

●**メッセージ** 前期に同じ

●**連絡先・オフィスアワー** 前期に同じ

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

●**授業の概要** ～日本語のモダリティ(1)～ 日本語のモダリティ研究の流れ、研究者による立場の違いなどのついて概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

●**授業の一般目標** 受講者は、日本語のモダリティに関するテーマついて、自発的に問題提起し、調査発表する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 問題点の設定と取り組み。 **思考・判断の観点：** 発表資料のまとめ方。 **関心・意欲の観点：** 質疑応答への参加度。 **技能・表現の観点：** 口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。

●**授業の計画（全体）** 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、平安時代の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●**成績評価方法 (総合)** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。

●**教科書・参考書** 教科書： 特定の教科書は使用せず、適宜プリント配布。

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

●**授業の概要** ～日本語のモダリティ(2)～ 現代日本語のモダリティを中心に、モダリティを文法史的にも概観するとともに、受講者には研究テーマに応じた調査・発表を求める。

●**授業の一般目標** 受講者は、日本語のモダリティに関するテーマついて、自発的に問題提起し、調査発表する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 問題点の設定と取り組み。 **思考・判断の観点：** 発表資料のまとめ方。 **関心・意欲の観点：** 質疑応答への参加度。 **技能・表現の観点：** 口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。

●**授業の計画（全体）** 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、平安時代の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●**成績評価方法 (総合)** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。

●**教科書・参考書** 教科書： 特定の教科書は使用せず、適宜プリント配布。

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

●**授業の概要** 中古文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。／**検索キーワード** 古典文学

●**授業の一般目標** 中古文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 **思考・判断の観点：** 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。

●**授業の計画（全体）** 『源氏物語』について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 『源氏物語』の概説
第 2 回 **項目** 「葵」巻の読解
第 3 回 **項目** 「葵」巻の諸問題
第 4 回 **項目** 「賢木」巻の読解
第 5 回 **項目** 「賢木」巻の諸問題
第 6 回 **項目** 「須磨」巻の読解
第 7 回 **項目** 「須磨」巻の諸問題
第 8 回 **項目** 「明石」巻の読解
第 9 回 **項目** 「明石」巻の諸問題
第 10 回 **項目** 「澪標」巻の読解
第 11 回 **項目** 「澪標」巻の諸問題
第 12 回 **項目** 「松風」巻の読解
第 13 回 **項目** 「松風」巻の諸問題
第 14 回 **項目** 「薄雲」巻の読解
第 15 回 **項目** 「薄雲」巻の諸問題

●**成績評価方法 (総合)** 期末試験による。

●**教科書・参考書** 教科書： 新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年／ 参考書： 授業時に紹介する。

●**メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

●**授業の概要** 中古文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。／**検索キーワード** 古典文学

●**授業の一般目標** 中古文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができ る。 **思考・判断の観点：** 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方 ができるようになる。

●**授業の計画（全体）** 『源氏物語』について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 『源氏物語』の概説
第 2 回 **項目** 「少女」巻の読解
第 3 回 **項目** 「少女」巻の諸問題
第 4 回 **項目** 「玉鬘」巻の読解
第 5 回 **項目** 「玉鬘」巻の諸問題
第 6 回 **項目** 「初音」巻の読解
第 7 回 **項目** 「初音」巻の諸問題
第 8 回 **項目** 「胡蝶」巻の読解
第 9 回 **項目** 「胡蝶」巻の諸問題
第 10 回 **項目** 「蛍」巻の読解
第 11 回 **項目** 「蛍」巻の諸問題
第 12 回 **項目** 「常夏」巻の読解
第 13 回 **項目** 「常夏」巻の諸問題
第 14 回 **項目** 「野分」巻の読解
第 15 回 **項目** 「野分」巻の諸問題

●**成績評価方法 (総合)** レポートによる。

●**教科書・参考書** 教科書： 新編日本古典文学全集 源氏物語 全 6 冊, 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男, 小学館, 1998 年／ 参考書： 授業時に紹介する。

●**メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 近世文学研究のためのアプローチ法について講述する。文学の周辺にある資料群へも目配りしつつ、適宜演習形態も取り入れながら、文献収集の方法・文献読解の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。

●**授業の一般目標** 近世文学諸作品の読解、及び文学史的位置付けを目指し、その方法論を習得する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 近世文学の作品を原本により的確に解読することができる。2. 書誌調査の基礎を習得する。 **思考・判断の観点：** 1. 近世文学の作品を適切に読解することができる。2. 書誌情報を作品の理解に利用することができる。

●**授業の計画（全体）** 附属図書館所蔵の旧制山口高校および旧制山口高等商業学校旧蔵和書を素材として、書誌調査の基礎を講じる。第 2 回以降は、図書館内貴重書庫室にて授業を行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダクション
第 2 回 **項目** 書誌調査 (1) **内容** 写本 (1)
第 3 回 **項目** 書誌調査 (2) **内容** 写本 (2)
第 4 回 **項目** 書誌調査 (3) **内容** 写本 (3)
第 5 回 **項目** 書誌調査 (4) **内容** 写本 (4)
第 6 回 **項目** 書誌調査 (5) **内容** 写本 (5)
第 7 回 **項目** 書誌調査 (6) **内容** 版本 (1)
第 8 回 **項目** 書誌調査 (7) **内容** 版本 (2)
第 9 回 **項目** 書誌調査 (8) **内容** 版本 (3)
第 10 回 **項目** 書誌調査 (9) **内容** 版本 (4)
第 11 回 **項目** 書誌調査 (9) **内容** 版本 (5)
第 12 回 **項目** 書誌調査 (10) **内容** 版本 (6)
第 13 回 **項目** 書誌調査 (11) **内容** 版本 (7)
第 14 回 **項目** 書誌調査 (12) **内容** 版本 (8)
第 15 回 **項目** 書誌調査 (13) **内容** 版本 (9)

●**成績評価方法 (総合)** 各自が採録した調査カードや授業時の質疑応答により評価する。試験は行わない。

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しない。／ 参考書： (1) くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版； 日本古典書誌学総説, 藤井隆, 和泉書院, 1991 年； 日本文学論所属で古典文学専攻者は購入することが望ましい。

●**メッセージ** 参加者各自、鉛筆（シャープペンシル不可）数本・メジャー（ビニル製）・電卓を第 2 回の授業時までに準備しておくこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

●授業の概要 【西山宗因と武家文化】一昨年度昨年度に引き続き、近世前期を代表する連歌師・俳諧師、西山宗因をとりあげ、その活躍の基盤について考察する。西山宗因という連歌師が、諸侯間のネットワークを利用し多数の庇護を獲得してゆく様相を、松平定信・内藤義概・小笠原忠真らとの関係を具体的事例としてとりあげつつ、確かめることとしたい。その際、2005―2007 年度にかかる西山宗因展覧会に際して発掘された新出資料群を豊富に使用する。／**検索キーワード** 連歌師、西山宗因

●授業の一般目標 1. 連歌師という存在の特殊性を、時代の思潮や政治的背景と併せて理解する。2. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの修士論文への備えとする。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 連歌師の行動とその文学について理解する。 **思考・判断の観点：** 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。 **関心・意欲の観点：** 1. 問題設定・論証のあり方を自らの課題に反映させることができる。

●授業の計画（全体） 以下のトピックにつき選択的に進める。（１）宗因自筆資料群の位置づけ―松平信之との関わりをめぐって（２）内藤家との交流をめぐる諸問題（３）小笠原家との交流をめぐる諸問題

●成績評価方法 (総合) 主に期末テストによって評価する。４回の無断欠席でその受験資格を失う。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。／ 参考書： 西山宗因生誕四百年記念　宗因から芭蕉へ,（財）柿衞文庫他編, 八木書店, 2005 年

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508　電話;933-5257　E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

●授業の一般目標 未定

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 導入
第 2 回　**項目** 未定
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回　**項目** 総括（１）
第 15 回　**項目** 総括（２）

●成績評価方法 (総合) 未定

●教科書・参考書 参考書： 適宜指示します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室　９３３－５２６２ y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日９．１０時限

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●授業の概要 今回は村上春樹と映画の関係について考えたいと思う。　以前からこの場で断っておいたが、シラバスの入力と実際の講義の間には、タイムラグがある。昨年は８ヶ月、今年の場合は１０ヶ月である。内容的に時事的な問題を取り込む必要がある以上、以下提示する講義内容は、あくまでも予定であることはいうまでもない。

●授業の一般目標 いうまでもなく、春樹は早稲田大学文学部映画演劇科出身であり、その進学の動機を「映画を作ることに、もっと正確に言えば映画のシナリオを書くことに興味を持っていたのだ。」と告白している。また在学中は授業をさぼって朝から映画を見てばかりいたし、「映画を見る金がなくなると早稲田の本部にある演劇博物館というところに行って、古い映画雑誌に載っているシナリオをかたはしから読ん」でいた彼は、その後も「毎日のように映画館に通っ」た「シネマディクト（映画中毒）」の時期を経て、作家になってからも一つの小説を書き上げ、次の小説に取りかかるまでの「エアポケットのような気軽な時期にはだいたいまとめて映画を観る」という。　そんな春樹の小説と映画間の往還に、他の作家とは微妙にニュアンスの異なるその意味でただならぬ影響関係があると思うのは私だけではあるまい。
　映画という合わせ鏡を使うことでいったい何が見えてくるのか。それが本講義のねらいである。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** プレゼンテーション
第 2 回　**項目** 小説『風の歌を聴け』と映画『風の歌を聴け』
第 3 回　**項目** 小説『風の歌を聴け』と映画『風の歌を聴け』
第 4 回　**項目** 小説『風の歌を聴け』と映画『風の歌を聴け』
第 5 回　**項目** 小説『パン屋再襲撃』と映画『パン屋再襲撃』
第 6 回　**項目** 小説『パン屋再襲撃』と映画『パン屋再襲撃』
第 7 回　**項目** 小説『１００パーセントの女の子』と映画『１００パーセントの女の子』
第 8 回　**項目** 小説『１００パーセントの女の子』と映画『１００パーセントの女の子』
第 9 回　**項目** 小説『ノルウェイの森』と映画『(ハル)』
第 10 回　**項目** 小説『ノルウェイの森』と映画『(ハル)』
第 11 回　**項目** 小説『トニー滝谷』と映画『トニー滝谷』
第 12 回　**項目** 小説『トニー滝谷』と映画『トニー滝谷』
第 13 回　**項目** 小説『トニー滝谷』と映画『トニー滝谷』
第 14 回　**項目** 小説『かえるくん、東京を救う』と映画『X』
第 15 回　**項目** 小説『かえるくん、東京を救う』と映画『X』

●成績評価方法 (総合) 定期試験（中間・期末試験）=70 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 出席 = 20 %

●教科書・参考書 教科書： 毎回プリントを配布する。／ 参考書： 適宜、紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室　９３３－５２６２ y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日９．１０時限

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中原　豊				

●**授業の概要** 日本の近現代詩の特質を、明治から戦後までの代表的な詩人の詩を中心として捉える。／**検索キーワード** 近代詩　現代詩　詩

●**授業の一般目標** まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、詩の読解を通じて、それぞれの詩人の詩と詩 想、およびその成立に関わった先行文学あるいは同時代の文学についての理解を深め る。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 詩の表現の特色、および日本の近代詩歌の特質を理解する。　**思考・判断の観点：** 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充 していく。　**関心・意欲の観点：** 進んで中原中也および他の詩人の詩を読もうとする。　**技能・表現の観点：** 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

●**授業の計画（全体）** 詩の本質について語った詩人の言葉を通じて詩の本質を理解し、その後に明治から戦後までの代表的な詩人の詩の特質の説明と読解を行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回　**項目** 詩とは何か I **内容** ポエジーについて
第 2 回　**項目** 詩とは何か II **内容** 詩の表現
第 3 回　**項目** 島崎藤村 I **内容** 『若菜集』
第 4 回　**項目** 島崎藤村 II **内容** 『落梅集』
第 5 回　**項目** 北原白秋 I **内容** 『邪宗門』『思ひ出』
第 6 回　**項目** 北原白秋 II **内容** 『白金之独楽』他
第 7 回　**項目** 高村光太郎 I **内容** 『道程』
第 8 回　**項目** 高村光太郎 II **内容** 『智恵子抄』を中心に
第 9 回　**項目** 萩原朔太郎 I **内容** 『月に吠える』
第 10 回　**項目** 萩原朔太郎 II **内容** 『氷島』まで
第 11 回　**項目** 中原中也 I **内容** 『山羊の歌』
第 12 回　**項目** 中原中也 II **内容** 『在りし日の歌』
第 13 回　**項目** 谷川俊太郎 I **内容** 初期の詩集から
第 14 回　**項目** 谷川俊太郎 II **内容** 近年の詩集から
第 15 回　**項目** 予備

●**成績評価方法 (総合)** 期末試験による。

●**教科書・参考書** 教科書：『近代詩: 12 人の詩人たち』, 境忠一, おうふう／ 参考書：『詩とは何か』, 嶋岡晨, 新潮社, 1998 年

●**メッセージ** 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 中原中也記念館（山口市湯田温泉 1-11-21　083-932-6430）

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

●授業の一般目標 できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 導入
第 2 回　**項目** 未定
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回　**項目** 総括（１）
第 15 回　**項目** 総括（２）

●成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書： テキストは各自で購入しておいてください。／ 参考書： 適宜指示します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室　９３３－５２６２ y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日９．１０時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●授業の概要 本年度は受講生と相談の上、内容を決定する。

●授業の一般目標 できれば、一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 導入
第 2 回　**項目** 未定
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回　**項目** 総括（１）
第 15 回　**項目** 総括（２）

●成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書： テキストは各自で購入しておいてください。／ 参考書： 適宜指示します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室　９３３－５２６２ y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日９．１０時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

●**授業の概要** 中古文学作品の研究。／**検索キーワード** 中古文学

●**授業の一般目標** 中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 **思考・判断の観点：** 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 **関心・意欲の観点：** 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 **態度の観点：** 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 **技能・表現の観点：** 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

●**授業の計画（全体）** 中古文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。

●**成績評価方法 (総合)** レジュメ・レポートによる。

●**教科書・参考書** 教科書： 授業時に指示する。／ 参考書： 授業時に紹介する。

●**メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

●**授業の概要** 中古文学作品の研究。／**検索キーワード** 中古文学

●**授業の一般目標** 中古文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中古文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。 **思考・判断の観点：** 中古文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。 **関心・意欲の観点：** 自発的に中古文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。 **態度の観点：** 中古文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。 **技能・表現の観点：** 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。

●**授業の計画（全体）** 中古文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。

●**成績評価方法 (総合)** レジュメ・レポートによる。

●**教科書・参考書** 教科書： 授業時に指示する。／ 参考書： 授業時に紹介する。

●**メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。

●**連絡先・オフィスアワー** 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導す る。

●**授業の一般目標** 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。2. 先行研究を収集し整理することができる。 **思考・判断の観点：** 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。2. 論文テーマを自ら設定することができる。 **関心・意欲の観点：** 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。

●**授業の計画（全体）** 口頭発表、レポート提出、個別面談の 3 段階で行う。

●**成績評価方法 (総合)** 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配付による。／ 参考書： 授業時に指示する。

●**メッセージ** より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導す る。

●**授業の一般目標** 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。2. 先行研究を収集し整理することができる。 **思考・判断の観点：** 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。2. 論文テーマを自ら設定することができる。 **関心・意欲の観点：** 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。

●**授業の計画（全体）** 口頭発表、レポート提出、個別面談の 3 段階で行う。

●**成績評価方法 (総合)** 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配付による。／ 参考書： 授業時に指示する。

●**メッセージ** より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp

言語文化専攻　中国語学文学論

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

●**授業の概要** 明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献が多 数作られた。これらの文献は、中国語学の研究資料として魅力の大きいものだが、対訳 という性質上とっつきづらいこともまた事実である。本授業では、中国の「華夷訳語」 や朝鮮の「老乞大」などの代表的文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける 外国語学習の営みの一端に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方 法を考える。なお、受講にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくともよい。／**検索キーワード** 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大

●**授業の一般目標** (1) 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。 (2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研 究の観点から説明できる。 2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。 3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者的言語現象について指 摘できる。 **思考・判断の観点：** 1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を充分に 理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。 **技能・表現の観点：** 1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。 2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。

●**授業の計画（全体）** 授業では、対音対訳文献が提起する諸問題についてテーマを設けて解説するとともに、 対音対訳文献の実物について問題の実際を見てゆく。受講者にも対音対訳文献を扱って もらう場合がある。受講者は、期末に、授業内容と関連したレポートを提出する。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度 考慮する。

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／ 参考書： 授業中に適宜指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文研究棟 516 室 研究室に行くと必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

●**授業の概要** 前期に引き続き、明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対 音・対訳文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける外国語学習の営みの一端 に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方法を考える。なお、受講 にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくともよい。／**検索キーワード** 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大

●**授業の一般目標** (1) 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。 (2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研 究の観点から説明できる。 2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。 3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者的言語現象について指 摘できる。 **思考・判断の観点：** 1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を充分に 理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。 **技能・表現の観点：** 1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。 2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。

●**授業の計画（全体）** 後期授業では、「甲種本華夷訳語来文」または「老乞大諺解」の読解を行う予定である。非漢語については教官が解説するが、漢語と関連する部分について、受講者が自分 の可能な範囲で読解を手助けすることを期待する。受講者は、期末に、授業内容と関連 したレポートを提出する。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度 考慮する。

●**教科書・参考書** 教科書： 教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／ 参考書： 授業中に適宜指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文研究棟 516 室 研究室に行くと必ずいる日時：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池田　巧				

●授業の概要 中国語は‘ 普通話（プットンホア）’という北京の口語にもとづく標準語が普及しているので，ともすれば均質な言語と思われがちであるが，実際には相互理解の困難な多数の方言群を内包する世界最大の言語であり，その周囲にはさらに中国語とは異なる多様なシナ=チベット諸語が分布している。通常‘ 少数民族語 ’と称されるこれらの言語にも，やはり大きな方言差がある大言語のほかに，特に西南中国には数千人規模の独立した少数言語がいくつも話されていて，シナ=チベット諸語のさまざまな発展段階の諸特徴を今日まで伝承してきている。本講義では西南から西北中国の言語の調査データをもとに，中国語方言と周辺諸語の類型構造の共通性と多様性を概観しつつ，その歴史的発展を解明する手がかりとなるいくつかの諸特徴に焦点を当てた研究テーマを紹介していきたい。

●授業の一般目標 中国語の方言の多様性と諸特徴，ならびに周辺に分布する諸言語を概観して基礎的な知識を得ることにより，中国語と中国社会をより巨視的，多角的に理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 普通話は中国人にとっても外国語のように学んで習得する共通語であるにもかかわらず，他言語ではなくスタイルの違いとして認識されていること，また異なる言語を話す少数民族が中国語を話すようになるのも方言区の中国人と同じ社会的なメカニズムが働いており，言語の違いは程度の差でしかないという事実を認識し，その構造を理解する。 **思考・判断の観点：** 多言語社会の構造的な諸側面とそのような状況が生まれるに到った環境および社会的背景について考察し，多言語社会においてよりよい言語生活を送るには，どうしたらよいのかを考える。中国の複合言語社会の様相を知ることを通じて，日本社会の言語生活の諸相についても，新たな視点で判断できるようになることを期待したい。

●授業の計画（全体） 中国語の標準語と方言の関係について，分布とその諸特徴を紹介する。漢字を媒介として方言間で対応があることにより，中国語の統一性と中国人の文化的一体感が形成されている事実を紹介する。中国語の周囲に分布する少数民族語について概観し，言語と民族認定との関係について分析する。現地調査によって観察し得た複合化した多言語社会における言語生活の諸相を紹介し，歴史的な多言語状況についても考察したい。（構成案） 1　中国語の標準語と方言 2　中国の少数民族語概観 3　周辺諸語との歴史的交流 4　多言語社会としての中国

●成績評価方法 (総合) レポートおよび平常点による。授業への出席を５０％，授業にて指示したレポートを５０％として評価する。 レポートは参考文献からの抜粋ではなく，言語現象について観察を行ない，独自の視点での分析をしていること。

●教科書・参考書 教科書： 指定教科書はない。教材はプリントを配布する。／ 参考書： 参考文献は多岐にわたるので，授業時に文献目録を配布する。

●備考 集中授業

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。／**検索キーワード** 中国語学　音韻学　講読　考察

●**授業の一般目標** 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １．中国語音韻学の基本知識をマスターする。 ２．文献資料の内容が正しく理解できる。　**思考・判断の観点：** 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。　**技能・表現の観点：** 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。

●**授業の計画（全体）** 最初の回に、各自の研究テーマを発表しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得る。次回までに、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。

●**成績評価方法 (総合)** 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部５階　Tel.933-5251　オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 前期の授業に引き続き、中国語音韻学に関連する内容の文献を講読しつつ、同分野の基本的知識の習得と問題点に関する考察を行う。なお、取り扱う領域や講読文献に関しては、受講者と相談の上決定することも可能である。最後に、各自研究テーマを決めてレポートを作成する。／**検索キーワード** 中国語学　音韻学　講読　考察

●**授業の一般目標** 中国語音韻学に関する基本的知識をマスターするとともに、中国語学関連文献の読解力と、問題点への考察力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １．中国語音韻学の基本知識をマスターする。 ２．文献資料の内容が正しく理解できる。　**思考・判断の観点：** 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。　**技能・表現の観点：** 自身の研究成果を、レポートの形式により効果的に報告できる。

●**授業の計画（全体）** 最初の回に、各自の研究テーマを確認しあい、授業で取り扱う領域について共通認識を得た上で、講読すべき文献資料を決定する。その後、順次講読に入る。受講者は、毎回の講読部分を担当するほか、授業中に疑問点・問題点を指摘し、討論に加わる。

●**成績評価方法 (総合)** 授業中の課題の達成度と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部５階　Tel.933-5251　オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

●**授業の概要** 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸 臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝 説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拝の対象 ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介して いく。／**検索キーワード** 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

●**授業の一般目標** 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 **思考・判断の観点：** 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 **関心・意欲の観点：** 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 **態度の観点：** 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 **技能・表現の観点：** 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

●**成績評価方法 (総合)** 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

●**教科書・参考書** 参考書： 包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年； 中国の公案小説, 荘司格一著, 研文出版, 1988 年； 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 荘司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

●**授業の概要** 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸 臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝 説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拝の対象 ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介して いく。／**検索キーワード** 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

●**授業の一般目標** 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 **思考・判断の観点：** 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 **関心・意欲の観点：** 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 **態度の観点：** 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 **技能・表現の観点：** 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

●**成績評価方法 (総合)** 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

●**教科書・参考書** 参考書： 包公伝説の形成と展開, 阿部泰記著, 汲古書院, 2004 年； 中国の公案小説, 荘司格一著, 研文出版, 1988 年； 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 荘司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大塚　博久				

●授業の概要 ―「古典文学」から「現代文学」への過渡期の状況― 中国文学は、時期上「古典文学」と「現代文学」とに大別される。「古典文学」とは、世界文学の中でもっとも古い歴史をもち、独自の文学形式である典故と対句を重んじる「詩文」の豊富な文学遺産をもち、主として士人によって担われた文学であり、ほぼ清朝末期までを指す。これに対して「現代文学」とは 1840 年アヘン戦争以後、西欧の帝国主義の侵略とともに西欧＝「近代」の価値観が中国に及んだいわゆる Western-Impact が文学上にも徐々に影響しはじめ、具体的には 1917 年胡適の「文学改良芻議」(『新青年』誌 2 巻 5 号）における「空虚で陳腐、難解な文語による旧文学の殻を破って口語の文学を創造しよう」との提唱を契機に、五・四「文学革命」運動が起きて以後の近・現代文学を指す。この 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての旧～新「過渡期」（近代文学「胎動期」）の文学思想の具体的様相を明らかにする。／**検索キーワード** 辛亥革命、『新青年』誌、五・四「文学革命」、「五・四」運動、梁啓超、胡適、陳独秀、魯迅。

●授業の一般目標 （１）19 世紀末～20 世紀初頭における「古典文学」世界から「現代文学」世界への過渡期の文学的状況とその歴史的背景について理解する。（２）この時期に出現した文学的主張や運動、とくに「五・四文学革命」について理解する。（３）個々の作家と作品（翻訳を含む）について興味、関心を深め、その文学的営為の内実を考える。（４）同時代の日本の作家、作品との関係、影響について考える。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 近代中国の問題状況、文学史的背景および作家、作品について、理解を深め、説明できる。 **思考・判断の観点：** 関連する研究書や論文を読んで、的確に要点を把握、分析し、自分の見解を持つ。 **関心・意欲の観点：** 中国の「近・現代文学」の作家、作品に今後も興味、関心を持続できる。 **態度の観点：** これら作品を積極的に読み、鑑賞する習慣を培う。 **技能・表現の観点：** 読解の能力を高め、自分の考えを文章や口頭で適切に表現できる。

●授業の計画（全体） 授業は、この時期の文学・思想上の節目となる出来事、流れ、運動と人物、作品などについて、毎回資料を提示して紹介、解説し、「伝統」的中国社会が接した西洋近代の「異質」な文物に如何に対処、受容し、文学はどのように変容していったか、を理解する。そして、この「近代」世界を果敢に生きた中国人の姿や、心情に関心を持つ。またこの時期を代表するいくつかの「作品」を読むことを通じて当時の「日本文学」との関連についても考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 清朝の危機と「洋務」「変法」自強運動 **内容** 「亡国の危機感」と「慷慨」の詩人たち **授業外指示** 「シラバス」を読んでおくこと。

第 2 回　**項目** 近代的「報刊」とその啓蒙活動 **内容** （１）「循環日報」（２）「時務報」「国聞報」

第 3 回　**項目** 厳復の近代西洋思潮 **内容** 厳復の『天演論』の翻訳と桐城派古文

第 4 回　**項目** 西洋（日本）の「翻訳小説」 **内容** 林琴南の『巴黎茶花女遺事』と『不如帰』の漢訳など

第 5 回　**項目** 『清議報』『新民叢報』の新文体と「政治小説」 **内容** 梁啓超の「詩界革命」、「小説界革命」の提唱と『新中国未来記』

第 6 回　**項目** 「譴責小説」の盛行 **内容** 『官場現形記』『老残游記』ほか

第 7 回　**項目** 留日学生の動向―「辛亥革命」前後 **内容** 魯迅の文学的「覚醒」、『域外小説集』と「文化偏至論」など **授業外指示** 「吶喊」自序などを予習。

第 8 回　**項目** 『新青年』と文学革命（１） **内容** 『新青年』誌の創刊と陳独秀「一宣言」

第 9 回　**項目** 『新青年』と文学革命（２） **内容** 胡適の「文学改良芻議」と陳独秀「文学革命論」

第 10 回　**項目** 「五・四」運動前後とと文学・思想界 **内容** 李大　の「庶民の勝利」と胡適―「問題と主義」論争および「新旧文学」論争

第 11 回　**項目** 近代小説の誕生―「魯迅の文学」 **内容** 「狂人日記」、『吶喊』集の小説、「野草」などを読む

第 12 回　**項目**「文学研究会」の作家たちと『小説月報』 **内容** 日本の文学状況と周作人、沈雁冰らの作品
第 13 回　**項目**「創造社」の文学 **内容** 郭沫若の『女神』、郁達夫『沈淪』など
第 14 回　**項目** 五・四退潮期から新旧、左右分裂期を経て「国民革命」へ **内容**「新青年」G の分裂、左翼文芸運動と「革命文学論戦」、「中国自由運動大同盟」と「左聯」の結成
第 15 回　**項目** 新しい作家たちの登場と「三十年代文学」へ（まとめ） **内容** 巴金、老舎、丁玲らと「新月派」詩人聞一多ら

●**成績評価方法 (総合)**（１）授業によっては、著名な「作品」を指名読解させることがある。（２）試験を行う（自筆のノートの持ち込み可）。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 参考書： 毎回、講義概要、作品・作家解説、関連資料などを配布。 また必要に応じて参考文献を紹介する。

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山　徹				

●授業の概要 『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ，注釈を施しながら読解する。

●授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し，分析する能力を養うことを目標とする。

●授業の計画（全体） 原文の解釈につき，毎回担当し，発表・討議する。

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山　徹				

●授業の概要 前期に引き続き,『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ，注釈を施しながら読解する

●授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し，分析する能力を養うことを目標とする。

●授業の計画（全体） 原文の解釈につき，毎回担当し，発表・討議する。

言語文化専攻　英米語学文学論

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

●**授業の概要** 人間の言語は脳に蓄えられた知識であると考える立場から、言語の性質や獲得、また、理解の仕組みなどをめぐる様々な問題をわかりやすく解説していく。前半で生成文法理論の基礎となる考え方を紹介し、後半では進んだ研究の一端にも触れるようにする。

●**授業の一般目標** 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。 **思考・判断の観点：** 生成文法理論に基づいて、英語や日本語の基本的な分析が行えるようになる。 **関心・意欲の観点：** 幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特質などにも関心を寄せる。従来の理論の不備な点を見つけ出し、代案を考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業の主な狙いや課題などについて説明する。 **授業外指示** 教科書の第 1 章を読む。

第 2 回 **項目** こころを探る言語研究 **内容** なぜ言語研究をするのかという問題について考える。 **授業外指示** 教科書第 2 章を読む。課題を解く。

第 3 回 **項目** 言語知識とは何か **内容** 言語の無意識の知識、言語能力と言語運用、普遍文法と個別文法について考える。 **授業外指示** 教科書第 3 章を読む。 課題を解く

第 4 回 **項目** 文法の組み立て **内容** 文法の組み立てについての最近のアプローチを紹介する。 **授業外指示** 教科書第 4，5 章を読む。課題を解く。

第 5 回 **項目** 音韻論 **内容** 音声・音韻研究の基本概念と主要な問題を講じる。 **授業外指示** 教科書第 6，7 章を読む。課題を解く。

第 6 回 **項目** 形態論 **内容** 語を作る仕組みについて考える。 **授業外指示** 教科書第 8 章を読む。課題を解く。

第 7 回 **項目** 統語論 1 **内容** 文を作る仕組みについて考える。 **授業外指示** 教科書第 9 章を読む。課題を解く。

第 8 回 **項目** 統語論 2 **内容** 原理とパラメータのアプローチを紹介する。 **授業外指示** 教科書第 10 章を読む。課題を解く。

第 9 回 **項目** 意味論 1 **内容** 種々の意味解釈規則を紹介する。 **授業外指示** 教科書第 11 章を読む。課題を解く。

第 10 回 **項目** 意味論 2 **内容** 代名詞の解釈などについて論じる。 **授業外指示** 教科書第 12 章を読む。課題を解く。

第 11 回 **項目** 語用論 **内容** 語用論的知識とプラトンの問題などについて考える。 **授業外指示** 教科書第 13，14 章を読む。課題を解く。

第 12 回 **項目** 言語の獲得 **内容** 原理とパラメータのアプローチと言語獲得について論じる。 **授業外指示** 教科書第 15，16，17 章を読む。課題を解く。

第 13 回 **項目** 言語の変化・変異 **内容** 歴史的な観点を交えながら、言語変化について考える。 **授業外指示** 教科書第 18 章を読む。課題を解く。

第 14 回 **項目** 言語研究の現状と展望 **内容** 最新の言語研究の動向について紹介する。 **授業外指示** 課題を解く。

第 15 回 **項目** まとめ **内容** 全体の補足とまとめを行う。 **授業外指示** 〃

●**成績評価方法 (総合)** 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は 1 回につき 5 点減点とする。

●教科書・参考書 教科書： 言語研究入門―生成文法を学ぶ人のために, 大津由紀雄他, 研究社, 2002 年／ 参考書： 生成文法用語辞典, 安藤貞雄・小野隆啓, 大修館書店, 1993 年； チョムスキー理論辞典, 原口庄輔・中村捷編, 研究社出版, 1992 年； チョムスキー小事典, 今井邦彦編, 大修館書店, 1986 年

●連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	服部　範子				

●**授業の概要** 実際の社会で用いられる言語は必然的に変異（ヴァリエーション）を伴う。変異はまた、言語変化の始まりとなりうる。本講義では、社会言語学の分野の中で、とくに変異に注目して言語変化のメカニズムを追究する変異理論の枠組みにおいて、音声・音韻、形態における変異を考察する。具体的には英語と日本語を例に、データの収集方法、分析方法、これまでの研究で明らかになったことを学びながら、今後の課題を探っていく。

●**授業の一般目標** ことばの多様性に関する意識を高め、ことばの本質について理解を深めることを目指す。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 変異研究の目標や特徴を理解する。　**思考・判断の観点：** 変異に着目して英語や日本語の分析を行う。　**関心・意欲の観点：** ことばの多様性についての意識を高め、ことばの本質について理解を深める。　**技能・表現の観点：** ことばの変異に関する観察力を高め、言語学的に分析して正確に表現する。

●**授業の計画（全体）** 変異理論の枠組みの中で、（１）音声の変異に関する基本的事項の確認、（２）データの収集方法、（３）分析方法、（４）「変異も構造をなす」という事例の提示と検討、（５）地域日常語の観察と分析について段階的に解説していく。

●**成績評価方法 (総合)** 試験、レポート、出席状況を総合して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 社会言語学入門, 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子, くろしお出版, 1997 年

●**備考** 集中授業

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 英語における次の省略構文について考える。 Jack bought something, but I don't know what. この文は間接疑問縮約構文 (Sluicing) と呼ばれる省略文の例で、疑問詞 what の後ろで Jack bought が省略されている。授業では、間接疑問縮約構文の諸特性を、生成文法の枠組みで考察する。／**検索キーワード** 省略文、統語構造、意味解釈、形態特性、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略構文の統語的、形態的、意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 英語の省略文の特徴について説明できる。 **思考・判断の観点：** 表面的な省略文の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 **技能・表現の観点：** 考察したことを論理的に文書で表現できる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明す る。
第 2 回 **項目** 格の一致現象 **内容** ドイツ語を使って、間接疑問縮約における格の一致現象について説明する。
第 3 回 **項目** 前置詞残留現象 **内容** 英語、フリジア語、スウェーデン語、ギリシャ語、ドイツ語を使って、間接疑問縮約における前置詞残留現象について説明する。
第 4 回 **項目** 島効果の消失 (1) **内容** 移動操作に課せられる島条件について説明する。
第 5 回 **項目** 島効果の消失 (2) **内容** 間接疑問縮約における島効果の消失について説明する。
第 6 回 **項目** 島効果の消失 (3) **内容** 島効果の消失に関する間接疑問縮約と動詞句削除との違いについて説明する。
第 7 回 **項目** 多重適用の制限 **内容** 間接疑問縮約における多重適用の制限について説明する。
第 8 回 **項目** 相関語句の制限 (1) **内容** 間接疑問縮約における先行詞の可能性について説明する。
第 9 回 **項目** 相関語句の制限 (2) **内容** 焦点の意味ついて説明する。
第 10 回 **項目** 相関語句の制限 (3) **内容** 間接疑問縮約における先行詞の制限と焦点の関連性を説明する。
第 11 回 **項目** 定性効果 (1) **内容** 間接疑問縮約における定性効果について説明する。
第 12 回 **項目** 定性効果 (2) **内容** 焦点の意味について説明する。
第 13 回 **項目** 定性効果 (3) **内容** 間接疑問縮約における定性効果と焦点の関連性を説明する。
第 14 回 **項目** 期末テスト
第 15 回 **項目** テスト返却・解説

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験の結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 参考書： 英語の主要構文, 中村　捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 前期に引き続き、生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。後期は、特に、 次の二つの省略文に焦点を当てる。 (1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文 (1) では、動詞と目的語 (love Mary) が省略されており、このような文は動詞句省 略文 (VP ellipsis) と呼ばれている。一方、(2) では、動詞 (eat) のみが省略されており、 このような省略文は擬似空所化 (pseudo-gapping) と呼ばれている。この授業では、この 二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。 動詞句省略文と擬似空所化文の二つの省略文の類似点・相違点について考えていく。／**検索キーワード** 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 英語の省略文についての特徴を説明できる。 **思考・判断の観点：** 表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 **技能・表現の観点：** 考察したことを論理的に文章で表現できる。

●**授業の計画（全体）** 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察してい く。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテー ション **内容** 1) 授業の目標と 進め方、2) 成績 評価の方法につ いて説明する。

第 2 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その１：読 みの局所性効果 (1) **内容** 動詞句削除文に おける解釈の多 義性について説 明する。

第 3 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その１：読 みの局所性効果 (2) **内容** 擬似空所化にお ける解釈の局所 性効果について 説明する。

第 4 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その１：読 みの局所性効果 (3) **内容** 動詞句削除文に おける解釈の局 所性効果につい て説明する。

第 5 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その２： strict/sloppy の読み (1) **内容** 動詞句削除文に おける strict/ sloppy の読みに ついて説明す る。

第 6 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化のそ の２：strict/ sloppy の読み (2) **内容** sloppy の読みを 認可する意味的 条件について説 明する。

第 7 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その２： strict/sloppy の読み (3) **内容** 擬似空所化にお ける sloppy の読 みの可能性につ いて説明する。

第 8 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その３：逆 行削除 (1) **内容** 擬似空所化にお ける逆行削除に ついて説明す る。

第 9 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その３：逆 行削除 (2) **内容** 文解析の原理と 逆行削除につい て説明する。

第 10 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の相 違点その３：逆 行削除 (3) **内容** 動詞句削除文に おける逆行削除 の可能性につい て説明する。

第 11 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の類 似点：義務的削 除 (1) **内容** 動詞句削除文と 擬似空所化にお ける削除問題に ついて説明す る。

第 12 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の類 似点：義務的削 除 (2) **内容** 島の効果と削除 について説明す る。

第 13 回 **項目** 動詞句削除文と 擬似空所化の類 似点：義務的削 除 (3) **内容** 擬似空所化にお ける削除の義務 性について説明 する。

第 14 回 **項目** 期末テスト

第 15 回 **項目** テスト返却・解 説

●成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 参考書： 英語の主要構文, 中村　捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

●**授業の概要** 最新の言語理論の知見をふんだんに盛り込んだ英文法書を丹念に読んでいく。／**検索キーワード** 英文法

●**授業の一般目標** 英語・英文学を専攻した者として恥ずかしくない程度の英文法の知識を身につける。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 学校文法だけでは不十分であった文法知識を補う。 **思考・判断の観点：** テキストの中の分析法・理論を理解する。 **関心・意欲の観点：** テキストの中の問題点を発見し、代案を考える。

●**授業の計画（全体）** テキストを精読していく。取り上げるトピックスは「動詞」、「節（補文）」、「名詞と名詞句」、「形容詞と副詞」、「前置詞と前置詞句」、「節（付加詞）」、「否定」、「関係節」、「比較構文」、「等位構造」、「照応」、「屈折形態論」、「句読法」などである。

●**成績評価方法 (総合)** 授業時の発表と期末レポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： The Cambridge grammar of the English language, ” Rodney Huddleston, Geoffrey K. Pullum ; in collaboration with Laurie Bauer ... [et al.]”, Cambridge University Press, 2002 年

●**メッセージ** 毎回１章ずつのペースで進むので、予習をしっかりしておくこと。

●**連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復 元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメ カニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞 句省略文 (VP-ellipsis) と空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／**検索キーワード** 省略文、動詞句省略文、空所化、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。 **思考・判断の観点：** 表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 **技能・表現の観点：** 考察したことを論理的に文書に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提 示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者 は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要 求される。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテー ション **内容** 1) 授業の目標と 進め方、2) 成績 評価の方法につ いて説明する。
第 2 回 **項目** 論文講読
第 3 回 **項目** 論文講読
第 4 回 **項目** 論文講読
第 5 回 **項目** 論文講読
第 6 回 **項目** 論文講読
第 7 回 **項目** 論文講読
第 8 回 **項目** 論文講読
第 9 回 **項目** 論文講読
第 10 回 **項目** 論文講読
第 11 回 **項目** 論文講読
第 12 回 **項目** 論文講読
第 13 回 **項目** 論文講読
第 14 回 **項目** 論文講読
第 15 回 **項目** 論文講読

●**成績評価方法 (総合)** レポートの結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを随時配布する。／ 参考書： 英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復 元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメ カニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞 句省略文 (VP-ellipsis) と空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／**検索キーワード** 省略文、動詞句省略文、空所化、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。 **思考・判断の観点：** 表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。 **技能・表現の観点：** 考察したことを論理的に文書に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提 示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者 は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要 求される。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテー ション **内容** 1) 授業の目標と 進め方、2) 成績 評価の方法につ いて説明する。
第 2 回 **項目** 論文講読
第 3 回 **項目** 論文講読
第 4 回 **項目** 論文講読
第 5 回 **項目** 論文講読
第 6 回 **項目** 論文講読
第 7 回 **項目** 論文講読
第 8 回 **項目** 論文講読
第 9 回 **項目** 論文講読
第 10 回 **項目** 論文講読
第 11 回 **項目** 論文講読
第 12 回 **項目** 論文講読
第 13 回 **項目** 論文講読
第 14 回 **項目** 論文講読
第 15 回 **項目** 論文講読

●**成績評価方法 (総合)** レポートの結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを随時配布する。／ 参考書： 英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中晉				

●**授業の概要** Edmund Spenser の諸作品に即して、詩人の自然・愛・美等の理念を追求して、ルネサンス期 英文学における中世より近世への展開の実相を明らかにする。／**検索キーワード** 自然・愛・美、超越と内在、中世と近世

●**授業の一般目標** 近世は中世の否定であるとする一般的解釈は、少なくともスペンサーにおいては修正を必要 としよう。歴史観形成について考慮すべき問題を考察する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** スペンサーの自然観と時の観念について具体的内容を論ずることができる。 **思考・判断の観点：** 自然と時の観念につき中世より近世への展開の諸相を論ずることができる。

●**授業の計画（全体）** 『妖精の女王』第３巻「アドーニスの園」、第４巻「ビュシレインの館」及び最後の断片 「無常篇」を考察する。

●**成績評価方法 (総合)** レポート提出

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配布／ 参考書： 『詩人の王スペンサー』（九州大学出版会）

開設科目	英米文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中晉				

●**授業の概要** Edmund Spenser の諸作品に即して、詩人の自然・愛・美等の理念を追求して ルネサンス期英文学における中世より近世への展開の実相を明らかにする。／**検索キーワード** 自然・愛・美、超越と内在、中世と近世

●**授業の一般目標** 近世は中世の否定であるとする一般的解釈は、少なくともスペンサーにおいては修正を必要としよう。歴史観形成について考慮すべき問題を考察する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** スペンサーの愛と美の観念につき具体的内容を論ずることができる。 **思考・判断の観点：** 愛と美の観念につき中世より近世への展開の諸相を論ずることができる。

●**授業の計画（全体）** 小曲より『アモレッティ』、『四つの賛歌』、『コリン・クラウト故郷に帰る』を 考察する。

●**成績評価方法 (総合)** レポート提出

●**教科書・参考書** 教科書： プリント配布／ 参考書： 『詩人の王スペンサー』（九州大学出版会）

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

●**授業の概要** 現代英国・英連邦の小説について、時代を代表する作品をいくつか取り上げ、そこから浮かび上がる時代意識や傾向のようなものを考えていきます。文学は社会の鏡、社会は文学の鏡？／**検索キーワード** 現代小説

●**授業の一般目標** 英語による文学作品を批評的に鑑賞できるようになる。 文学作品を読む際に、文学を取り巻く諸状況についても目配りする。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1970-2000 年の英国英連邦小説の概略と傾向を理解する。 **思考・判断の観点：** それぞれの本を別々の点として読むだけでなく、複数作品を繋ぐ線や面の存在へ発想を広げる。 **関心・意欲の観点：** 原書または翻訳で実際に作品を読んだり、参考資料を調査し、自分なりの意見を形成する。

●**授業の計画（全体）** １）1956 年という年 ２）植民地の独立 ３）インドの事例、オーストラリアの事例、アメリカの事例 ４）イギリスという国の歴史決算意識 ５）歴史記述のあり方 ６）地下水脈的な通底モチーフ こういった項目について、それぞれ２～３週ずつかけて進めます。項目が終わるごとに、簡単な感想レポートを提出してもらいます（各５点満点で評価）。

●**成績評価方法 (総合)** ポイントごとの感想レポート３０％＋期末筆記試験７０％。出席は毎回とって、欠格条件（５回以上の欠席で不可評定）とします。

●**教科書・参考書** 教科書：『ブッカー・リーダー　現代英国・英連邦小説を読む』, 吉田徹夫監修, 開文社出版, 2005 年； 生協で購入してください。／ 参考書：『20 世紀末イギリス小説』, 木村政則, 彩流社, 2005 年； Oxford Concise Companion to English Literature, 2nd ed., M. Drabble 他編, Oxford Univ. Press, 2003 年

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

●**授業の概要** 現代の英語小説には、過去のことなのにわざと現在時制を使って語る技法が散見されます。これは、必ずしもヌーボー・ロマン期の実験手法の再現というだけでは、説明しきれないように思われます。本講義では、この現象について、諸相を考察します。

●**授業の一般目標** 小説鑑賞において、語りという技法面にアプローチするための感性を磨く。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 語り手・語りという概念とその効果、文体論的アプローチのあらましを理解する。 **思考・判断の観点：** 語りの効果を実践的に批評する。

●**授業の計画（全体）** １）「歴史的現在」の見直し ２）文体論・認知言語学的に見る「現在時制」とは ３）歴史記述のあり方について ４）コロニアルという問題 ５）民族誌学的現在（時制）という側面 上記のような諸相を、それぞれ２～３週ずつかけて考察していきます。基本的事項や用語が理解できているかどうか、各項目が終わるごとに簡単なテストをします。

●**成績評価方法 (総合)** 小テスト２５％＋期末筆記試験７５％。出席は毎回とって、欠格条件（５回以上の欠席は不可評点）に使用します。

●**教科書・参考書** 教科書： ハンドアウト・プリントを使います。／ 参考書： 授業中に適宜紹介します。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中晉				

●**授業の概要** エリザベス朝の詩人エドマンド・スペンサーの畢生の大作『妖精の女王』第 1 巻を精読し、 英詩の語法、リズムをつかんで、物語に寓意されていることを考察する。／**検索キーワード** Allegory, Epic, Romance

●**授業の一般目標** 語源に遡り言葉本来の意味を知る。 英詩の語法を学び、リズムを身につける。 寓意詩、叙事詩、ロマンスの要素を併せもつ本作品の内実を考える。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** スペンサーの英詩の語法に精通し、語源に遡って言葉の意味を知る。 **思考・判断の観点：** 作品に寓意されている内実と、ロマンスの語り口を考える。

●**授業の計画（全体）** 第 1 篇から第 6 篇までを読む。

●**成績評価方法 (総合)** 平常点

●**教科書・参考書** 教科書：Edmund Spenser's Poetry, Maclean & Prescott (eds), W.W.Norton, 1993 年／参考書：The Faerie Queene, 細江逸記（注）, 研究社, 1929 年；The Faerie Queene, A.C.Hamilton(ed.), Longman, 1977 年

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中晉				

●**授業の概要** 前期に引き続き、エリザベス朝の詩人エドマンド・スペンサーの『妖精の女王』第１巻を精読する。／**検索キーワード** Allegory, Epic, Romance

●**授業の一般目標** 語源に遡り言葉本来の意味を知る。 英詩の語法を学び、リズムを身につける。 寓意詩、叙事詩、ロマンスの要素を併せもつ本作品の内実を考える。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** スペンサーの英詩の語法に精通し、語源に遡って言葉の意味を知る。 **思考・判断の観点：** 作品に寓意されている内実と、ロマンスの語り口を考える。

●**授業の計画（全体）** 第７篇から第１２篇まで、第１巻を精読する。

●**成績評価方法 (総合)** 平常点

●**教科書・参考書** 教科書： Edmund Spenser's Poetry, Maclean & Prescott (eds), W.W.Norton, 1993 年／ 参考書： The Faerie Queene, A.C.Hamilton(ed.), Longman, 1977 年； The Faerie Queene, 細江逸記（注）, 研究社, 1929 年

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

●**授業の概要** 19 世紀イギリスの小説家 Anthony Trollope の_The Warden_、及びこの作品に関する論文を読む。／**検索キーワード** Anthony Trollope、英国小説、ヴィクトリア朝

●**授業の一般目標** テクストと論文を読む作業を通して、Trollope の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点：** 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 **態度の観点：** 常に問題意識を持って議論に参加できる。

●**授業の計画（全体）** 一週間に 20 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。

●**成績評価方法 (総合)** (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書： The Warden, Anthony Trollope, Penguin, 1986 年／ 参考書： 授業の中で紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

●**授業の概要** 19 世紀イギリスの小説家 Charles Dickens の _Great Expectations_、及びこの作品に関する論文を読む。／**検索キーワード** Charles Dickens、英国小説、ヴィクトリア朝

●**授業の一般目標** テクストと論文を読む作業を通して、Dickens の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点：** 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 **態度の観点：** 常に問題意識を持って議論に参加できる。

●**授業の計画（全体）** 一週間に 30-40 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。

●**成績評価方法 (総合)** (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。 (2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書： Great Expectations, Charles Dickens, Penguin, 1996 年／ 参考書： 授業の中で紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** ikezono@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

●**授業の概要** 前期で 2 作の小説を読む。ただし、2 作目については、受講生からの要望に応じて変更する用意あり。 1．現代英国人作家 Barry Unsworth の Morality Play (1995) を読む。小説の 14〜15 世紀という時代背景に留意し、また Shakespeare その他への暗示的言及も丹念に調べていく。 2．現代英国人作家 Jim Crace の Arcadia (1992) を批評的に読む。

●**授業の一般目標** 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 原文をまず英語として正確に理解する。 心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。 **思考・判断の観点：** 作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。

●**授業の計画（全体）** 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。

●**成績評価方法 (総合)** 発表の出来具合＋討論への貢献度。3 回以上欠席したら、不可。

●**教科書・参考書** 教科書： Morality Play, Barry Unsworth 著, Penguin Books, 1996 年； Arcadia, Jim Crace 著, Picador, 1993 年

●**連絡先・オフィスアワー** 受講者には知らせる。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

●**授業の概要** 現代英国作家 William Boyd による日記体小説 Any Human Heart (2002) を読む。20 世紀総ざらえ的な作品なので、時代背景の検討も必須。

●**授業の一般目標** 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 原文をまず英語として正確に理解する。 心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。 **思考・判断の観点：** 作品の訴えかけるものについて、自分なりの批評的所見を形成する。

●**授業の計画（全体）** 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。

●**成績評価方法 (総合)** 発表の出来具合＋討論への貢献度。3 回以上欠席したら、不可。

●**教科書・参考書** 教科書： Any Human Heart, William Boyd 著, Penguin Books, 2003 年／ 参考書： 評論を読む場合、教官が資料を準備する。

●**連絡先・オフィスアワー** 受講者には知らせる。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	皆尾　麻弥				

●**授業の概要** アメリカの作家 John Barth の小説、The Sot Weed Factor(1961) を読む。／**検索キーワード** John Barth, 現代アメリカ文学

●**授業の一般目標** テキストを丹念に読む作業を通して、文学作品を論じる力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 現代作家の小説を英語で正確に読むことができる。 **思考・判断の観点：** 作家の言葉選び、細部に常に注意を払い、批評的視点で作品を捉えることができる。

●**授業の計画（全体）** テキストを演習形式で読み進める。受講者は予習して出席し、読みと訳をしてもらう。さらに、気づいた点、気になる点等を毎回まとめておくこと。

●**成績評価方法 (総合)** 平常点で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： The Sot Weed Factor, John Barth, Anchor Books

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	皆尾　麻弥				

●**授業の概要** 引き続き、アメリカの作家 John Barth の小説 The Sot Weed Factor (1961) を読む。／**検索キーワード** John Barth, アメリカ文学

●**授業の一般目標** テキストを丹念に読む作業を通して、文学作品を論じる力を養う。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 現代作家の小説を英語で正確に読むことができる。 **思考・判断の観点：** 作家の言葉選び、細部に注意を払い、批評的視点で作品を捉えることができる。

●**授業の計画（全体）** テキストを演習形式で読み進める。毎回、気づいた点や気にかかる点等をまとめてくること。

●**成績評価方法 (総合)** 平常点で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： The Sot Weed Factor, John Barth, Anchor Books

言語文化専攻　独仏語学文学論

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

●**授業の概要** 現代ドイツ語の話し言葉では denn, doch, mal などの心態詞と呼ばれる語が頻繁に使われます。これらの語は固有の意味を持っている訳ではありませんが、ある具体的な状況で使われることで、驚き、疑い、促し、了解など、話し手が心に抱いているものを表すシグナルとなり、会話が活き活きしてきます。本講義ではこれら心態詞を採り上げ、その用法を説明してゆきます。／**検索キーワード** 現代ドイツ語、話し言葉、会話、ニュアンス

●**授業の一般目標** 心態詞の用法を学ぶことで、現代ドイツ語の話し言葉についての理解を深める。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 1．心態詞に関する知識を得る。 2．現代ドイツ語の会話パターンを習得する。 **思考・判断の観点：** 1．心態詞が日本語ではどのように対応しているか、考察する。 2．心態詞の有無によってニュアンスがどのように違ってくるか、考える。 **関心・意欲の観点：** 1．心態詞を含むテキストを自分で探してくる。 **技能・表現の観点：** 1．心態詞を含む文を自分で発することができるようになる。

●**授業の計画（全体）** 採り上げる心態詞について、その語の用法を解説し、どのような状況下で使用されるのか、説明して行きます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 授業の概要
第 2 回 **項目** 推測
第 3 回 **項目** 関心の度合い
第 4 回 **項目** 懐疑
第 5 回 **項目** 驚き
第 6 回 **項目** 苛立ち
第 7 回 **項目** 非難
第 8 回 **項目** 事実の確認
第 9 回 **項目** 依頼
第 10 回 **項目** 要請
第 11 回 **項目** 勧誘
第 12 回 **項目** 勇気づけ
第 13 回 **項目** もどかしい気持ち
第 14 回 **項目** 共通認識の確認
第 15 回 **項目** 授業のまとめ

●**成績評価方法 (総合)** 質問や意見発表など、授業への積極的な参加を重視します。出席が所定の回数に満たない場合は失格となります。

●**教科書・参考書** 参考書：ドイツ語・表現レベルアップ－心態詞の使い方－, 中島耕太郎, 同学社, 1999 年；必要に応じて、授業の中で紹介します。

●**メッセージ** 授業への積極的な参加を期待しています。

●**連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

●**授業の概要** ドイツ語学の専門文献を、論の展開の仕方などに注意しながら読んでゆきます。／**検索キーワード** ドイツ語学、文献、論の展開、批判的

●**授業の一般目標** ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせるようになること。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** ドイツ語学に関する知識を深める。 **思考・判断の観点：** 1．論の展開を把握する。 2．論じられている事柄を自分の観点に立って批判する。 **関心・意欲の観点：** 関連する資料などを自分で読む。

●**授業の計画（全体）** 具体的にどのようなテーマを採り上げるかは，受講者と相談の上で決めます。

●**成績評価方法 (総合)** 質問や意見発表など、授業への積極的な参加を重視します。出席が所定の回数に満たない場合は失格となります。

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布します。／ 参考書： 必要に応じて、授業の中で紹介します。

●**メッセージ** 授業への積極的な参加を期待しています。

●**連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鈴村　直樹				

●授業の概要 この授業では統語論・意味論・形態論からいくつかのテーマをピックアップして、そこにみられる諸現象と導かれるべき適切な結論をみなさんとともに考えていきます。具体的なテーマは受動態・再帰代名詞・能格性・分離名詞句・前綴りと語形成などを予定しています。ドイツ語を主たる対象としますが、必要に応じて英語・オランダ語・デンマーク語・ノルウェー語など他のゲルマン諸語から相応する現象を紹介し、タイポロジカルな視点からドイツ語のありかたを観察します。

●授業の一般目標 この授業の一般目標は言語、それも例文を正確に把握し、それを他の例文と比較することによって全体像の中に占める当該例文の位置を判断することにあります。この目標を達成するために、授業の導入部では日本語を題材にしたウオームアップを行います。ここで例文を扱う感覚を身につけてください。次にドイツ語の諸現象を観察し、最終的には、必ずしも文法体系を知っているわけではない「他のゲルマン語」であっても、適切な例文が与えられればある程度の予測が可能となることを実体験していきます。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ドイツ語学で用いる述語、およびその意味を正確に理解すること。 **思考・判断の観点：** 与えられた言語現象から適切な結論を導くこと。 **関心・意欲の観点：** ドイツ語のみならず、他のゲルマン語、あるいは日本語に対する興味が喚起されること。 **態度の観点：** 自ら考え、自ら質問する積極的な態度が養われること。 **技能・表現の観点：** 自分の考えを、相手に分かるような表現で、正確に伝えること。 **その他の観点：** 文法とは決して万能選手ではなく、人間言語には説明のつかない現象が多々存在することを認識すること。

●授業の計画（全体） 【全体】集中講義 【週単位】与えられた授業時間を、上記内容にしたがって、日本語学→ドイツ語学→ゲルマン語学の順序で進めていきます。詳しくは週単位シラバスをご覧ください。ただし、このシラバスに挙げた進度はあくまでも「目標」で、みなさんの理解の度合いにより実際の進度とは異なる可能性があります。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 日本語学 (1) **内容** 「は」と「が」
第 2 回　**項目** 日本語学 (2) **内容** 受動態
第 3 回　**項目** 日本語学 (3) **内容** 後置文
第 4 回　**項目** ドイツ語学 (1) **内容** 再帰代名詞 (a)
第 5 回　**項目** ドイツ語学 (2) **内容** 再帰代名詞 (b)
第 6 回　**項目** ドイツ語学 (3) **内容** 再帰代名詞 (c)
第 7 回　**項目** ドイツ語学 (4) **内容** 状態受動 (a)
第 8 回　**項目** ドイツ語学 (5) **内容** 状態受動 (b)
第 9 回　**項目** ドイツ語学 (6) **内容** 状態受動 (c)
第 10 回　**項目** ドイツ語学 (7) **内容** 能格性 (a)
第 11 回　**項目** ドイツ語学 (8) **内容** 能格性 (b)
第 12 回　**項目** ドイツ語学 (9) **内容** 分離名詞句 (a)
第 13 回　**項目** ドイツ語学 (10) **内容** 分離名詞句 (b)
第 14 回　**項目** ドイツ語学 (11) **内容** 前綴りと語形成 (a)
第 15 回　**項目** ドイツ語学 (12) **内容** 前綴りと語形成 (a)

●成績評価方法 (総合) 成績は出席、および授業への積極的な参加の二点から総合的に判断して算出します。試験は行いません。

●教科書・参考書 教科書： プリントを配布します。

●**メッセージ** 分からないことを残して家に帰ると、分からないことが雪ダルマのように膨れ上がり、自信がなくなり、意欲が減退し、勉強することがイヤになってしまします。この授業は必ずここまで進まなければならないという「制約」がありません。分からないことはその場で積極的に質問し、すべての疑問が解消された状態でその日を終える、というストレスフリーな自分を「自分で作り出す」ように心がけてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 相談・質問は以下のメールアドレスで常時受け付けます。 suzumura@hc.cc.keio.ac.jp 内容が複雑な場合、私からの答えもそれなりの長さになる可能性があります。大きな案件には携帯メールを使わず、添付ファイルなどが受け取れる環境で通信されることを希望します。

●**備考** 集中授業

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下嵜正利				

●**授業の概要** Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読みながら、中高ドイツ語の手ほどきをする。

●**授業の一般目標** 中高ドイツ語の基礎を身につけている。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 中高ドイツ語の基礎を理解している。 **関心・意欲の観点：** ドイツ語史やドイツ中世文学に興味を持っている。 **態度の観点：** 言語の歴史的発展に対して、科学的に分析する態度を身につけている。

●**授業の計画（全体）** Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読んでいく。授業が進むにつれ、一回の授業で読む分量を増やしていく。

●**教科書・参考書** 教科書： テクストはコピーを用いる。／ 参考書： コピーを配布する。

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

●授業の概要 Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読みながら、中高ドイツ語の手ほどきをする。

●授業の一般目標 中高ドイツ語の基礎を身につけている。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 中高ドイツ語の基礎を理解している。 **関心・意欲の観点：** ドイツ語史やドイツ中世文学に興味を持っている。 **態度の観点：** 言語の歴史的発展に対して、科学的に分析する態度を身につけている。

●授業の計画（全体） Hartmann von Aue の Der arme Heinrich を読んでいく。授業が進むにつれ、一回の授業で読む分量を増やしていく。

●教科書・参考書 教科書： テクストはコピーを用いる。／ 参考書： コピーを配布する。

開設科目	ドイツ文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

●授業の概要 ドイツおよびヨーロッパの「迷信」について、文学作品、図像の紹介を交えて講義する。

●授業の一般目標 迷信についての知識を得る。

●成績評価方法 (総合) レポート発表による。

開設科目	ドイツ文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Hintereder-Emde, Franz				

●**授業の概要** 宮崎駿作『アルプスの少女ハイジ』は、日本人なら誰でも知っているし、世界的に有名である。原作品は、スイスの女流作家ヨハンナ・スピーリ（Johanna Spyri, 1827-1901）の代表的な児童文学の『ハイジの修業時代と遍歴時代』（1880 年）や『ハイジは習ったことを使うことができる』（1881 年）である。原作のタイトルは、ドイツ文学の文豪ゲーテの代表作『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』（1795／96 年）と『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1821 年）の意識したもので、教養小説の伝統をついでいる作品でもある。／**検索キーワード** スイス文学、児童文学、異文化理解、ドイツ文学

●**授業の一般目標** この講義では、『アルプスの少女ハイジ』を出発点にしながら、アニメの映像を取り入れて、原作と比較する一方、「スイス」という文化的なイメージと現実のスイスの差異を論じる。当時の社会、歴史、経済や宗教の意味を把握し、ヨーロッパやドイツ文化圏の多様性を考察したい。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 19 世紀や世紀末の中央ヨーロッパの文化的な背景を把握することができる。 **思考・判断の観点：** 原文や周辺資料の解読によって、19 世紀後半の中央ヨーロッパの時代性や文化的な実体を理解する。 **関心・意欲の観点：** スイスやドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶ。 **態度の観点：** 自分の異文化観（「ハイジのスイス」）を再検討し、さらに異文化理解を深める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」（１） **内容** アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する（１）
第 2 回 **項目** アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」（２） **内容** アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する（２）
第 3 回 **項目** アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」（３） **内容** アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する（３）
第 4 回 **項目** 「ハイジ」と自然（１） **内容** 作品の自然描写について
第 5 回 **項目** 「ハイジ」と自然（２） **内容** 作品の自然描写について
第 6 回 **項目** 「ハイジ」と自然（３） **内容** 作品の自然描写について
第 7 回 **項目** 「ハイジ」と宗教（１） **内容** 作品に描かれた宗教生活について
第 8 回 **項目** 「ハイジ」と宗教（２） **内容** 作品に描かれた宗教生活について
第 9 回 **項目** 「ハイジ」と宗教（３） **内容** 作品に描かれた宗教生活について
第 10 回 **項目** 「ハイジ」と文明（１） **内容** 都会と地方における子供の生活環境
第 11 回 **項目** 「ハイジ」と文明（２） **内容** 都会と地方における子供の生活環境
第 12 回 **項目** 「ハイジ」と文明（３） **内容** 都会と地方における子供の生活環境
第 13 回 **項目** 「ハイジ」と異文化意識（１） **内容** スイスのイメージと異文化理解
第 14 回 **項目** 「ハイジ」と異文化意識（２） **内容** スイスのイメージと異文化理解
第 15 回 **項目** まとめ

●**教科書・参考書** 教科書： アルプスの少女 、(世界の名作全集 ; 14), ヨハンナ・スピリ作 ; 山口四郎訳, 国土社, 1992 年

●**連絡先・オフィスアワー** tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 木曜日 3・4 時限（10：20〜11：50）

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Hintereder-Emde Franz				

●授業の概要 『アルプスの少女ハイジ』を読む。パート 2。スイスの女流作家ヨハンナ・スピーリ（Johanna Spyri, 1827-1901）の『ハイジ』は、世界的に有名な児童文学作品である。宮崎駿のアニメ作品『アルプスの少女ハイジ』は多くの日本人がスイスの大自然について抱くイメージを作り上げて、無垢な子供の世界を賛美している。原作の『ハイジの修業時代と遍歴時代』（1880 年）や『ハイジは習ったことを使うことができる』（1881 年）は、当時のスイスの初期産業化の中の子供における生活環境を冷静な目で描いている。／**検索キーワード** ドイツ語、ドイツ語圏文学、スイス文学、児童文学

●授業の一般目標 『アルプスの少女ハイジ』は一般は、文学作品としてではなく、映像化された形の方が知られている。この演習では、原作を読みながら、当時の経済や社会の背景を探ってみる。スイスの児童文学をドイツ文化圏のファッセットとして知ってもらい、ヨーロッパの宗教・文化・社会の諸相を勉強していく。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 原作の解読力を身に付け、内容について理解を深める。 **思考・判断の観点：** 自発的に作品や関係資料を読み進め、内容について討論をする。 **関心・意欲の観点：** 本文や関連した研究文献などの読書に意欲を持ち、定期的に授業で発表や紹介すること。資料の分析や発表の技術に重点を置く。

●授業の計画（全体） 前年度は、第 1 巻を読んだが、今回は第 2 巻を中心に読む。参加者のドイツ語上達レベルに合わせて進む。

●教科書・参考書 教科書： 原文の作品は手に入るにくいから、コピーで読む個所を配ります。 Heidis Lehr- und Wanderjahre, Heidi kann brauchen, was es gelernt hat / Johanna Spyri ; mit den Illustrationen von Rudolf Munzer. – 4 Aufl. Muenchen: Lentz 1978 ／ 参考書： 必要に応じて授業中に紹介する。

●連絡先・オフィスアワー tel/fax: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour： 木曜日 3・4 時限（10：20〜11：50）

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

●授業の概要 バハオーフェン『母権制』を読む。

●授業の一般目標 『母権制』を理解する。

●成績評価方法 (総合) 期末レポートによる。

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

●**授業の概要** フランス語の与格について講義します.

●**授業の一般目標** フランス語の与格を体系的に理解する.

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** フランス語の与格を体系的に理解する. **思考・判断の観点：** 代名詞の与格と前置詞与格の違いを説明できる.

●**授業の計画（全体）** 先行研究を概観したうえで、与格について認知的な観点から分析していく.

●**成績評価方法 (総合)** 平常点

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する.

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本 雅嗣				

●**授業の概要** 認知言語学の観点から構文について講義します.

●**授業の一般目標** 認知言語学の方法論を理解する.

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 認知言語学の用語・概念を理解する. **思考・判断の観点：** 認知言語学の方法論を理解する.

●**授業の計画（全体）** はじめに認知言語学について概説したうえで，様々な構文について認知的な観点から分析していく.

●**成績評価方法 (総合)** レポート

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する.

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

●**授業の概要** フランス語のジェロンディフに関する論文を読んでいきます.

●**授業の一般目標** フランス語のジェロンディフに関する主要な文献を読み，自己の研究を発展させていく.

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** フランス語のジェロンディフに関する先行研究のを理解する.
思考・判断の観点： 先行研究を批判的に分析する. **関心・意欲の観点：** 分析し，発表を行う.

●**授業の計画（全体）** フランス語のジェロンディフに関する主要な文献を読み，批判的に検討していく.

●**成績評価方法 (総合)** 発表，レポート.

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布します.

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本 雅嗣				

●**授業の概要** フランス語のジェロンディフに関する論文を読んでいきます.

●**授業の一般目標** フランス語のジェロンディフに関する主要な文献を読み，自己の研究を発展させていく.

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** フランス語のジェロンディフに関する先行研究のを理解する.
思考・判断の観点： 先行研究を批判的に分析する. **関心・意欲の観点：** 分析し，発表を行う.

●**授業の計画（全体）** フランス語のジェロンディフに関する主要な文献を読み，批判的に検討していく.

●**成績評価方法 (総合)** 発表，レポート.

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布します.

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 3:00-4:30

開設科目	フランス文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

●授業の概要 カール・A・ヴィッギアニという人の書いた、アルベール・カミュの『異邦人』にかんする論文を読む。この論文をテクストに用いることによって、カミュの『異邦人』の世界をかいま見たい。また文学作品の研究のしかた、論じ方を学ぶことができればと願っている。

●授業の一般目標 論文を教材にするのであるから、文学作品の分析能力を身に付けることができればと願っている。文学作品の研究の際に、何らかの参考になればと願っている。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 論文のフランス語の読解力の向上。 **思考・判断の観点：** 文学作品の分析能力の養成。 **関心・意欲の観点：** アルベール・カミュの文学世界への関心。

●授業の計画（全体） 読む論文は、全体として３３頁から成り立つ。１回につき１ページ半あまり読み進むことによって、２２頁ほど、つまり全体の３分の２程度ほど読みたいと思っている。

●成績評価方法 (総合) 平常点を重視する。定期試験を実施するかどうか、試験のかわりにレポートを課すかどうかは、授業をおこなうなかで、考えていきたい。

●教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 異邦人, アルベール・カミュ, 新潮文庫

●メッセージ 授業への積極的な参加を望む。

●連絡先・オフィスアワー 月曜日１４：３０－１６：００．６１３研究室。

開設科目	フランス文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平山豊				

●授業の概要 ロマン派の作家で、自らもヴィジョネールであったジェラール・ド・ネルヴァルの『幻視者』の半ばを占める「レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ」を中心に、原文であたり、解説する。

●授業の一般目標 ネルヴァルの神秘主義と 18 世紀の自由平等思想、民衆風俗が交錯する文学空間の磁力を探る。

●授業の計画（全体） 「ニコラの告白」の総題の下での 第一部　オランダ屋敷、以下９節に６週 第二部　セプチマニー、以下５節に３週 第三部　レチフの最初の小説、レチフの哲学小説、レチフの告白的作品、共産主義者レチフ　　等の５節に５週

●教科書・参考書 教科書：Les illumines, Gerard de NERVAL, bibliotheque marabout, 1973 年；Classiques Garnier　や　Pleiade　版も参照する。プリント配布。

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平山豊				

●授業の概要 20 世紀後半のフランス文学の潮流を、理論的側面と実作との双方で辿ってみる。

●授業の一般目標 文学を単に個々の作家の個性の発現としてのみ捉えるのではなく、時代の精神風土と密接に絡み合った流れやうねりとして理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： それぞれの作家の主張や表現法の理解　**思考・判断の観点：** 文学批評には必須の要件

●授業の計画（全体） 以下のように大別して講義を進める。I　ヌーヴォー・ロマン及びその周辺の作家たち II　ヌーヴォー・ロマン以後の新しい作家たち III　伝統的な作風の作家たち

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** ロラン・バルト **内容** 『零度のエクリチュール』
第 2 回　**項目** ナタリー・サロート **内容** 『見知らぬ男の肖像』
第 3 回　**項目** ミッシェル・ビュトール **内容** 『心変わり』
第 4 回　**項目** アラン・ロブ＝グリエ **内容** 『新しい小説のために』
第 5 回　**項目** アラン・ロブ＝グリエ **内容** 『嫉妬』
第 6 回　**項目** クロード・シモン **内容** 『フランドルへの道』
第 7 回　**項目** マルグリット・デュラス **内容** 『モデラート・カンタービレ』
第 8 回　**項目** ル・クレジオ
第 9 回　**項目** モディアノ
第 10 回　**項目** 亡命作家 **内容** クンデラ
第 11 回　**項目** 亡命作家 **内容** アゴタ・クリストフ
第 12 回　**項目** フランソワーズ・サガン
第 13 回　**項目** フィリップ・トゥーサン
第 14 回　**項目** タハル・ベン・ジェルーン
第 15 回

●成績評価方法 (総合) レポート７０％　　授業参加度３０％

●教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： その都度適宜指示

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

●**授業の概要** ヌーヴェル・クリティツクの大家、ジャン・ルーセの代表的作品『形式と意味作用』の序文をテクストに用いる。この序文をテクストに用いることによって、文学研究とは何か、文学作品を批評することとは何か、を学びたい。

●**授業の一般目標** 論文のフランス語の読解力の向上を目指す。あわせて、文学研究のための手がかりを得る。

●**授業の計画（全体）** テクストは全体として２３頁から成る。１回の授業につき、1 頁半余り読みすすめることで、全部のテクストを読み終えたいと思っている。

●**成績評価方法 (総合)** 原則として、平常点で評価する。しかし、場合によれば、簡単なレポートを作成してもらうかもしれない。

●**教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する。

言語文化専攻　言語学・言語情報論

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野　尊識				

●**授業の概要** 形態論をテーマに講義を行う。有意味な文を構成するためには単語が一定の規則に従って配列されねばならないように、複雑な単語を形成するためにも、形態素を一定の規則に従って配列する必要がある。このような領域は言語学では形態論という。単語とは何か、どのような特徴が備わっているかなど基本的なところから、複合語の意味と構造までを取扱う。／**検索キーワード** 単語、複合語、合成語

●**授業の一般目標** 1．単語と形態素 2．複合語を構造的に捉える 3．Complex words と compound words 4．日本語以外の言語においてはどうか 5．語構成全般について科学的に捉える能力

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 参考文献を読んで理解できること。 **思考・判断の観点：** 科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。 **関心・意欲の観点：** 日本語の単語構成だけではなく、英語をはじめとするその他の言語のにまで興味が広がること。 **技能・表現の観点：** 考えた事を第３者に分かるように文章化する。

●**授業の計画（全体）** 教科書の内容から見てセメスターを次の４期に分けて進めていく。前半の２期までは、影山の『形態論と意味』、後半では Katamba のテキストを使う。 1．語の基本的特質（第１章） 2．語彙意味論（第２章） 3．Introduction to word-structer (CH.2) 4．Types of morpheme (Ch.3) 内容から見て、セメスターを次の４期に分けて進めていく。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末試験を中心にする (70 %)。授業外レポートと授業への参加状況 (30 %)。

●**教科書・参考書** 教科書： Morphology, Katamba, Francis, MacMillan, 1993 年

●**メッセージ** 予習して出席すること。講義に出て話を聞き、そこで理解できれば講義の目は達成できたことになる。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

●**授業の概要** 後期は、セメスターを３期に分けて講義を進める。 １．動詞から名詞へ（影山、第７章） ２．Productivity in word-formation (Katamba, Ch.4) ３．Compound nouns of the type NVn in Japanese: Their formation and relationship to subject/topic. Gengo Kenyu 121: 19-48. ／**検索キーワード** 複合名詞、語形成、名詞＋動詞の連用形

●**授業の一般目標** 複合語がどのような構造から形成されるかを明確にするには、その複合語の構造を把握する必要がある。そしてその構造の背後にどのような一般性、原則が潜んでいるか、それを洞察する能力と体系化する能力を養うことが重要である。そのための一つの練習になればという意図がある。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** テキストを読んで、理解できること **思考・判断の観点：** 科学的に考察できること。 **関心・意欲の観点：** 日本語についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構造にまで関心を広げられるか。 **態度の観点：** 積極的に授業に参加し、自身の見解を述べること。

●**授業の計画（全体）** 授業概要で述べた項目について、理解が得られたかどうかを確認しながら、次の項目に進んでいく。講義で使うテキスト、論文を講義前に読んでくることが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。語構成と語形成に関して英語、日本語、その他の言語からのデータの分析を行うので、演習形式を取り入れた講義も行う。

●**成績評価方法 (総合)** 内容についてのレポートを２回程提出してもらう (30 %)。更に学期末試験を行う (70 %)。

●**教科書・参考書** 教科書： 形態論, 影山太郎, くろしお出版, 1999 年； Morphology, Katamba, Francis, MacMillan, 1993 年； Hirano, Takanori. 2002. Compound nouns of the type NVn in Japanese: Their formation and relationship to subject/topic.『言語研究』121: 19-48（日本言語学会）.

●**メッセージ** 予習をしてくることが前提。質問をして内容をその講義の中で理解すること。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 6, 617

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	角田　太作				

●**授業の概要** 日本語を英語など世界の諸言語と比較して、日本語の性質、世界の諸言語の類似する点、相違する点などを考察する。／**検索キーワード** 世界の諸言語、日本語

●**授業の一般目標** 世界の諸言語を幅広く見る視野を身につけること。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** １．世界の諸言語の似ている点と異なる点 ２．日本語が世界の諸言語の似ている点と異なる点　**思考・判断の観点：** 日本語や英語などに関する先入観を排除すること。　**関心・意欲の観点：** 日本語や英語だけでなく、様々な言語に関心を持つこと。　**態度の観点：** 授業で、質問、討論を行うこと。　**技能・表現の観点：** 自分が考えたことを正確に、簡潔に表現すること。

●**授業の計画（全体）** 予習をしておくこと。授業では、なるべく、教科書にあることの説明に時間をかけないようにして、質問や討論を行いたい。

●**成績評価方法 (総合)** 授業外レポートで評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 世界の言語と日本語, 角田太作, くろしお出版, 1991 年

●**メッセージ** 様々な言語に幅広い関心を持って欲しい。似ている点もあり、違う点もある。大変、興味深い。

●**備考** 集中授業

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾　秀行				

●授業の概要 世界には様々な言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要論文を読みながら、広くいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。前期は「主語」という文法カテゴリーについて考えてみましょう。

●授業の一般目標 １．言語の多様性について理解を深める。 ２．言語の類型化について理解を深める。

●授業の計画（全体） グループ毎に発表形式で行います。

●成績評価方法 (総合) 出席点。テスト。

●教科書・参考書 教科書： 配付資料は適宜用意します。

●メッセージ ノートパソコンを使用します。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾　秀行				

●授業の概要 世界には様々言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語だけを対象に言語の特性を論じてもいつも正しいとは限りません。この授業では、言語類型論関連の主要論文を読みながら、いろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えていきます。後期は「言語類型地理論」について考えてみましょう。

●授業の一般目標 １．言語の多様性について理解を深める。 ２．言語の類型化について理解を深める。

●授業の計画（全体） グループ毎に発表形式で読んでいきます。

●成績評価方法 (総合) 出席点。発表。テスト。

●教科書・参考書 教科書： 配付資料は適宜用意します。

●メッセージ ノートパソコンを使用します。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

●**授業の概要** 修士論文作成のための演習である。従って、受講者の研究対象と関連する論文等を読み、受講者の理解を図る。／**検索キーワード** 言語学、音韻論と音声学、統語論、語用論

●**授業の一般目標** 前期は受講者が志している研究内容を確認し、それに基づいた教材を選ぶ。また修士論文完成までのスケジュールを立てる。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 研究の現状を理解する。 **思考・判断の観点：** 言語現象の背後にあると思われる規則性、一般原理を発見すること。 **態度の観点：** 受講生が自ら問題点を見付けること。 **技能・表現の観点：** 自らの思考過程を第３者にどのように説明したら理解してもらえるのか工夫しながら、記述すること。

●**授業の計画（全体）** 前期を次の３期に分けて進める。 １．スケジュールを立てる。 ２．研究対象の確認。 ３．参考文献を読み、理解する。 ４．問題点の整理。

●**成績評価方法 (総合)** 受講生の毎回の学習内容によって評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

●**授業の概要** 修士論文作成のための演習である。従って後期は論文の完成を目標とした演習を行う。段階的に目標に到達できる演習としたい。主体はあくまでも、受講者側にある。／**検索キーワード** 音声学、音韻論、形態論、統語論、語用論

●**授業の一般目標** 後期は、受講者が問題点を見付けだしそれを言語学的に解明すること、それを論文化する。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 研究の現状を理解する。 **思考・判断の観点：** 問題に対して、言語学的に妥当な解決策を提示できるか。 **関心・意欲の観点：** 一つの問題を継続的に研究する意欲。 **態度の観点：** 問題の発見、その解決方法、文章化することに対して自主的に取組むこと。 **その他の観点：** オリジナリティーが見られるか。

●**授業の計画（全体）** 毎回、受講生とのディスカッションによって進めていく。従って受講生には演習に必要な内容を調べてくることが要求される。

●**成績評価方法 (総合)** 毎回の演習の平常点のみによって評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun # 617

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾　秀行				

●授業の概要 言語学、日本語学に関する論文を読みます。

●授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。

●授業の計画（全体） 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行います。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 授業の進め方
第 2 回　**項目** 演習１
第 3 回　**項目** 演習２
第 4 回　**項目** 演習３
第 5 回　**項目** 演習４
第 6 回　**項目** 演習５
第 7 回　**項目** 演習６
第 8 回　**項目** 演習７
第 9 回　**項目** 演習８
第 10 回　**項目** 演習９
第 11 回　**項目** 演習１０
第 12 回　**項目** 演習１１
第 13 回　**項目** 演習１２
第 14 回　**項目** 演習１３
第 15 回　**項目** 演習１４

●成績評価方法 (総合) 発表。レポート。

●教科書・参考書 教科書： テキストをコピーで配布します。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾　秀行				

●授業の概要 言語学、日本語学に関する論文を読みます。

●授業の一般目標 修士論文を書くための演習である。

●授業の計画（全体） 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行ないます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　**項目** 授業の進め方
第 2 回　**項目** 演習１
第 3 回　**項目** 演習２
第 4 回　**項目** 演習３
第 5 回　**項目** 演習４
第 6 回　**項目** 演習５
第 7 回　**項目** 演習６
第 8 回　**項目** 演習７
第 9 回　**項目** 演習８
第 10 回　**項目** 演習９
第 11 回　**項目** 演習１０
第 12 回　**項目** 演習１１
第 13 回　**項目** 演習１２
第 14 回　**項目** 演習１３
第 15 回　**項目** 演習１４

●成績評価方法 (総合) 発表。レポート。

●教科書・参考書 教科書： テキストをコピーで配布します。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報論Ｉ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

●**授業の概要** 言語情報処理の理論と歴史を学ぶ。現状と将来の課題。／**検索キーワード** 言語（日本語）大量言語調査　語彙　自立語

●**授業の一般目標** 言語情報処理の理論、歴史、現状と将来への課題。また、これまでの言語情報処理によって明らかになった言語（日本語）の特徴と、それを応用した言語情報処理の研究。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 言語情報処理の知識と理解。 日本語の特徴。　**技能・表現の観点：** コンピュータの利用技術。

●**授業の計画（全体）** 言語情報処理の理論と歴史。 言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。前期は日本語の語彙（自立語）について。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。必要なプリントは随時配付。げん

●**連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）５２２６　研究室人文４０４ オフィスアワー木曜１２．５０～１４．２０

開設科目	言語情報論Ｉ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

●**授業の概要** 言語情報処理の理論と歴史を学ぶ。現状と将来への課題。／**検索キーワード** 言語（日本語）大量言語調査　付属語

●**授業の一般目標** 言語情報処理の理論、歴史、現状と将来への課題。またこれまでの言語情報処理によって明らかになった言語（日本語）の特徴と、それを応用した言語情報処理技術の研究。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 言語情報処理の知識と理解。日本語の特徴。　**技能・表現の観点：** コンピュータ利用技術。

●**授業の計画（全体）** 堅固情報処理の理論と歴史。 大量言語調査によって明らかになった日本語の特徴。後期は助詞・助動詞について。

●**成績評価方法 (総合)** 定期期末試験による。毎回出席を取り、８回以上の者のみ受験させる。試験はノート、プリント等の持ち込み可。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。必要なデータは随時プリントを配付。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）５２２６　研究室人文４０４ オフィスアワー木曜１２．５０～１４．２０

開設科目	言語情報論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	茂呂　雄二				

●授業の概要 4 月以降に掲示等で発表する。

●授業の一般目標 原則、初日に詳しく説明する。 なお、初日の 1 時限目は必ず参加することが望ましい。

●授業の計画（全体） 原則、初日に詳しく説明する。なお、初日の 1 時限目は必ず参加することが望ましい。

●成績評価方法 (総合) 出席及びレポート等を総合的に判断する。

●教科書・参考書 教科書： 4 月以降に掲示等で指示する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

●備考 集中授業

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●授業の概要 This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another. Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.

●授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.

●授業の計画（全体） First term: Beginning with a survey of the field and its history, we will go on to look at how a computer can be made to translate one language into another. Concentrating on linguistically-based methods, we will look at how grammar and meaning can be described and represented, and how the meaning can be transferred from one language to another.

●成績評価方法 (総合) Written examination

●教科書・参考書 教科書： 自然言語処理の基礎, 吉村賢治, サイエンス社, 2000 年； 吉村賢治（著） 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000 年／ 参考書： Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年； 必要に応じてプリントを配布する。

●メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●授業の概要 his continues last term's course in Machine Translation. This is a course in Machine Translation - making a computer translate from one language into another. Concentrating on the linguistic aspects of the problem, we will look at how to describe English and Japanese grammar in a form which a computer can use, and at how a computer can translate using these descriptions.

●授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of Machine Translation from a linguist's point of view.

●授業の計画（全体） In the second term, we will look at some specific linguistic problems in translation, and at how some real machine translation systems work. If there is time, we will look briefly at some alternative, non-linguistic, methods of machine translation.

●成績評価方法 (総合) Written examination

●教科書・参考書 参考書： Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000 年； 必要に応じてプリントを配布する。

●メッセージ 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

●**授業の概要** コンピュータによる言語情報の処理を行う。調査対象は日本語のさまざまな文章とする。／ **検索キーワード** 日本語の特徴。大量言語調査。

●**授業の一般目標** 言語情報処理技術の習得と発展。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 言語、言語学の知識。コンピュータの知識。 **技能・表現の観点：** コンピュータの利用技術。

●**授業の計画（全体）** コンピュータに言語情報を入力し。、さまざまな分析を行う。

●**教科書・参考書** 教科書： なし（必要に応じてプリントを配付する）。

●**メッセージ** ノートパソコンを使用する。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）５２２６　研究室人文４０４ オフィスアワー木曜１２．５０～１４．２０

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

●**授業の概要** コンピュータを用いて言語情報処理を行う。調査対象は日本語のさまざまな文章とする。／ **検索キーワード** 日本語の特徴。大量言語調査。

●**授業の一般目標** 言語情報処理技術の習得と発展。

●**授業の到達目標／ 知識・理解の観点：** 言語、言語学への知識。コンピュータの知識。 **技能・表現の観点：** コンピュータの利用技術。

●**授業の計画（全体）** コンピュータに言語情報を入力し、さまざまな分析を行う。

●**教科書・参考書** 教科書： なし（必要に応じてプリントを配付する）。

●**メッセージ** ノートパソコンを使用する。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）５２２６　研究室人文４０４ オフィスアワー木曜１２．５０～１４．２０

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●授業の概要 Programming consists of entering data as logical permisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language.

●授業の一般目標 プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

●授業の計画（全体） First term - basic Prolog, an introduction for beginners.

●成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

●教科書・参考書 教科書： 岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／ 参考書： PROLOG を楽しむ, 松田紀之著, オーム社, 1993 年； 記号の世界（コンピュータ入門 ; 5 . 楽しいプログラミング ; 2), ”中島秀之, 上田和紀著”, 岩波書店, 1992 年； Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年； Prolog のソフトウェア作法 (岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年； 松田紀之（著） 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」岩波新書 1989

●メッセージ Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●授業の概要 This continues last term's course on Prolog programming. Prolog is a programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses; running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses.Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language.

●授業の一般目標 プロログ、プラグラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

●授業の計画（全体） Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●成績評価方法 (総合) 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

●教科書・参考書 教科書： 岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／ 参考書： PROLOG を楽しむ, 松田紀之著, オーム社, 1993 年； 記号の世界（コンピュータ入門 ; 5 . 楽しいプログラミング ; 2), "中島秀之, 上田和紀著", 岩波書店, 1992 年； Prolog 入門, 古川康一著, オーム社, 1986 年； Prolog のソフトウェア作法 (岩波コンピュータサイエンス), 黒川利明著, 岩波書店, 1985 年； 松田紀之（著） 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成 5 年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」岩波新書 1989

●メッセージ Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。